

シラバス (授業概要) 看護学部看護学科 2025 Syllabus

教養基礎領域

| | |
|------------|----|
| 自然・人間・社会 | |
| 医療法学 | 2 |
| 教育原理 | 4 |
| 教育心理学 | 6 |
| 教育制度論 | 8 |
| 物理学 | 10 |
| 化学 | 12 |
| 生命科学 | 14 |
| 基礎演習 | 16 |
| キャリアデザイン | 18 |
| 国際・地域 | |
| 英語Ⅲ (看護英語) | 20 |

専門基礎領域

| | |
|------------|----|
| 社会と環境 | |
| 保健統計学 | 22 |
| 疫学 | 24 |
| 公衆衛生学 | 26 |
| 保健医療行政論 | 28 |
| 社会福祉概論 | 30 |
| 家族関係論 | 32 |
| 養護概説 | 34 |
| こころと発達 | |
| 生涯発達心理学 | 36 |
| 臨床心理学 | 38 |
| カウンセリング | 40 |
| 体の仕組みと働き | |
| 解剖学Ⅰ | 42 |
| 解剖学Ⅱ | 44 |
| 生理学Ⅰ | 46 |
| 生理学Ⅱ | 48 |
| 栄養生化学 | 50 |
| 疾病の成り立ちと回復 | |
| 微生物・感染 | 52 |
| 病理・病態 | 54 |
| 疾病・治療学Ⅰ | 56 |
| 疾病・治療学Ⅱ | 58 |
| 薬理 | 60 |

看護専門領域

| | |
|-------------|-----|
| 基礎看護学 | |
| 看護学原論Ⅰ | 62 |
| 看護学原論Ⅱ | 64 |
| 基礎看護技術Ⅰ | 66 |
| 基礎看護技術Ⅱ | 68 |
| 基礎看護技術Ⅲ | 70 |
| 基礎看護技術Ⅳ | 72 |
| 地域在宅看護学 | |
| 地域在宅看護学概論Ⅰ | 74 |
| 地域在宅看護学概論Ⅱ | 76 |
| 地域包括ケア看護論 | 78 |
| 地域在宅看護援助論 | 80 |
| 地域在宅看護援助論演習 | 82 |
| 成人看護学 | |
| 成人看護学概論 | 84 |
| 急性期看護援助論 | 86 |
| 急性期看護援助論演習 | 88 |
| 慢性看護援助論 | 90 |
| 慢性看護援助論演習 | 92 |
| 老年看護学 | |
| 老年看護学概論 | 94 |
| 老年看護援助論 | 96 |
| 老年看護援助論演習 | 98 |
| 母性看護学 | |
| 母性看護学概論 | 100 |
| 母性看護援助論 | 102 |
| 母性看護援助論演習 | 104 |
| 小児看護学 | |
| 小児看護学概論 | 106 |
| 小児看護援助論 | 108 |
| 小児看護援助論演習 | 110 |
| 精神看護学 | |
| 精神看護学概論 | 112 |
| 精神看護援助論 | 114 |
| 精神看護援助論演習 | 116 |
| 看護の統合 | |
| 家族看護論 | 118 |
| 看護倫理 | 120 |
| 看護管理論Ⅰ | 122 |
| 看護管理論Ⅱ | 124 |
| 看護技術開発論 | 126 |
| 災害看護論 | 128 |
| 国際看護論 | 130 |
| 看護研究 | 132 |
| 卒業研究ゼミナール | 134 |
| 国際看護研修 | 136 |
| 国際看護実習 | 138 |

| | |
|--------------|-----|
| 臨地実習 | |
| 基礎看護学実習Ⅰ | 140 |
| 基礎看護学実習Ⅱ | 142 |
| 地域在宅看護学実習 | 144 |
| 急性期看護学実習 | 146 |
| 慢性看護学実習 | 148 |
| 老年看護学実習 | 150 |
| 母性看護学実習 | 152 |
| 小児看護学実習 | 154 |
| 精神看護学実習 | 156 |
| 聖隷看護基盤実習 | 158 |
| 聖隷看護探求実習 | 160 |
| 統合実習 | 162 |
| 公衆衛生学 | |
| 公衆衛生看護学概論 | 164 |
| 公衆衛生看護技術論 | 166 |
| 公衆衛生看護技術論演習 | 168 |
| 公衆衛生看護推論 | 170 |
| 公衆衛生情報処理演習 | 172 |
| 公衆衛生看護活動論 | 174 |
| 公衆衛生看護活動論演習 | 176 |
| 公衆衛生看護管理論 | 178 |
| 公衆衛生看護総合行政演習 | 180 |
| 公衆衛生看護学実習Ⅰ | 182 |
| 公衆衛生看護学実習Ⅱ | 184 |

教職に関する科目

| | |
|---------------|-----|
| 教職概論 | 186 |
| 学校保健 | 188 |
| 健康相談活動 | 190 |
| 特別支援教育概論 | 192 |
| 道徳・特別活動 | |
| ・総合的な学習の時間 | 194 |
| 教育課程・方法論 | 196 |
| 生徒指導の理論と方法 | 198 |
| 教育相談の理論と方法 | 200 |
| 学校体験活動 | 202 |
| 養護実習事前事後指導 | 204 |
| 養護実習Ⅰ | 206 |
| 養護実習Ⅱ | 208 |
| 教職実践演習 (養護教諭) | 210 |

| | | |
|---------------|--|---|
| 科目名 | 医療法学 | |
| 科目責任者 | 熊澤 武志 | |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP1 教養基礎 | |
| 科目の位置付 | 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。 | |
| 科目概要 | 社会の中で人と人が物事を円滑に遂行するためには法という一定のルールを守る必要がある。医療従事者もその責務を果たす上で法を遵守することは重要であり、医療従事者が法に違反することは、社会における医療への信用・信頼を失墜させる要因になりかねない。本科目では、種々の事例を踏まえ、将来、医療従事者として働くために必要な法的知識を身につけることを目的とする。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 法の基本的原理と裁判のしくみについて説明できる。 2. 医療従事者の民事責任、刑事責任、行政処分について理解できる。 3. 犯罪被害者や犯罪者に対する医療について理解できる。 4. 医療安全を学ぶことの重要性について理解できる。 5. 医療従事者の裁判事例から医療事故の問題点を述べることができる。 6. 医療従事者を取り巻く法的知識について関心を高めることができる。 | |
| 授業計画 | 第 1 回：法のしくみと裁判のしくみ 第 2 回：医療従事者と民事責任 第 3 回：医療従事者と刑事責任・行政処分 第 4 回：犯罪被害者及び犯罪者に対する法律と医療 第 5 回：医療安全 第 6 回：医療関連死 第 7 回：医事紛争 第 8 回：医療従事者と裁判・まとめ | 熊澤 武志 長谷川 智華 長谷川 智華 長谷川 智華 佐久間 由美 長谷川 弘太郎 藤井 輝 熊澤 武志 |
| アクティブラーニング | 授業ではリアクションペーパーの作成のほか、ディスカッションなども取り入れながら進めます。 | |
| 授業内の ICT 活用 | WebClass を活用したリアクションペーパーの作成・提出、レポートの提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。 | |
| 評価方法 | 平常点 (50%) とレポート (50%) を総合的に評価します。平常点にはリフレクション課題の提出と記述内容が含まれます。なお、レポートの評価法にはルーブリックは使いません。 | |
| 課題に対するフィードバック | リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。 | |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | 授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付しますので、事前・事後学修に活用して下さい。 なお、この授業では、リアクションペーパー作成事前学修 40 分程度、事後学修 40 分程度を費やします。 | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 熊澤武志（看護学部 1716 研究室: takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は看護師、医師、弁護士、臨床検査技師のほか、法医鑑定、薬毒物鑑定、医療訴訟の実務経験を有する多彩な講師陣が実務の観点を踏まえて教授します。 | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 教育原理 |
| 科目責任者 | 菅井 篤 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 2 Semester |
| DP 番号と科目領域 | DP1 教養基礎 |
| 科目の位置付 | 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。 |
| 科目概要 | 教育原理を学ぶことの意義を理解し、その歴史、関連する政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得する。そして、代表的な教育思想について理解した上で、現代社会における教育的諸課題を基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する。なお、教育の方法を通じた対人支援を志す学生の動機づけをもとに本授業を展開する。 |
| 到達目標 | 1. 日本と諸外国における教育の歴史・思想を理解する。 2. 教育とは何か、その意義と目的を理解し、説明できるようになる。 3. 現代の学校教育の長所・短所について、自分の考えを述べられるようになる。 |
| 授業計画 | 第1回：イントロダクション 教育の捉え 第2回：子ども・家庭・社会と教育の土台 第3回：公教育の組織化 第4回：西洋教育思想の歴史 第5回：宗教と教育 ルネサンスと自由意志 第6回：近代教育の思想 ルソー、ペスタロッチ、フレーベルの教育思想と実践 第7回：新教育の思想 諸外国（ヨーロッパ、アメリカ）の新教育運動 第8回：近代学校の誕生と展開 産業革命、国家形成、一斉授業の始まり 第9回：日本における近代以前の人間形成 第10回：日本の学校制度の確立 第11回：戦後の学校 第12回：西洋における教育の実践 新教育（ヨーロッパ、アメリカ）の実践 第13回：日本における教育の実践 教科の枠組みの問い直し 第14回：資質・能力と学力 第15回：情報化社会の公教育 |
| アクティブラーニング | 学生によるプレゼンテーション、グループディスカッション、グループワーク |
| 授業内のICT活用 | あり（インターネットにつながるPC、タブレット等を持参のこと） |
| 評価方法 | 1. 問題意識をもった授業参加、話し合い・発表など役割遂行等の授業関与度 30% 2. 毎時間の振り返り 30% 3. 提出物(レポート) 40% |
| 課題に対するフィードバック | 毎授業時、または次の回の授業内でコメントする。 |

| | | | | | |
|-----------------|---|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>【事前学修】 授業テーマについて関心をもち、自分なりの課題や考えをもって参加する。(2時間)</p> <p>【事後学修】 資料を参考に授業内容への理解をさらに深めるとともに、自分自身のあり方を見つめる。(2時間)</p> | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 詳細は初回の授業で提示する。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は、児童相談所職員・小学校教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 教育心理学 |
| 科目責任者 | 長峰 伸治 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 2 Semester |
| DP 番号と科目領域 | DP1 教養基礎 |
| 科目の位置付 | 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。 |
| 科目概要 | 学校における児童生徒の主体的な学習を支えるために知っておくべき学習過程、動機づけ、対人関係、適応・不適応などに関する基本的事項を説明し、児童生徒の発達を踏まえた指導や関わりの基礎となる考え方を修得できるようにする。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童生徒の学習の形態や概念及びその過程についての基本的な知識・理論を理解する。 2. 児童生徒の主体的な学習を支える動機づけ、集団 (対人関係)、教育評価等の基本的事項とその意義について理解する。 3. 児童生徒の主体的な学習活動を支えるために、学校における適応・不適応の基本的事項について理解し、児童生徒に対する指導と関わりについて考える。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回：教育心理学を学ぶことの意義</p> <p>第 2 回：動機づけ・やる気を高める 1 (内発的/外発的動機づけ)</p> <p>第 3 回：動機づけ・やる気を高める 2 (原因帰属、学習性無力感)</p> <p>第 4 回：記憶について 1 (短期記憶、長期記憶)</p> <p>第 5 回：記憶について 2 (再生・再認)</p> <p>第 6 回：記憶について 3 (忘却)</p> <p>第 7 回：学習理論について 1 (古典的/道具的条件づけ)</p> <p>第 8 回：学習理論について 2 (観察学習、代理強化)</p> <p>第 9 回：学習の形態・教授方法・教育評価</p> <p>第 10 回：性格について</p> <p>第 11 回：児童生徒-教師関係(ピグマリオン効果)</p> <p>第 12 回：学級という集団(集団規範、集団圧力、凝集性)</p> <p>第 13 回：学校における適応と不適応 1 (総論)</p> <p>第 14 回：学校における適応と不適応 2 (いじめ)</p> <p>第 15 回：学校における適応と不適応 3 (不登校)</p> |
| アクティブラーニング | 授業で扱うトピックの関する問いについてグループで議論して、全体で共有する。 |
| 授業内のICT活用 | WebClass のクリッカー機能を使って理解度の確認などを行う双方向型授業を実施する。 |
| 評価方法 | 定期試験 70%, 授業への取り組み状況 30%(リアクションペーパー等) |
| 課題に対するフィードバック | 前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。 |

| | | | | | |
|-----------------|---|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。</p> | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | <p>長峰伸治（看護学部）1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。</p> | | | | |
| 実務経験に関する記述 | なし | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 教育制度論 |
| 科目責任者 | 菅井 篤 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 3セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP1 教養基礎 |
| 科目の位置付 | 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。 |
| 科目概要 | 本講義は、教育制度の導入背景や概要を理解し、教員として諸制度にどう向き合うかを考えることを目的とする。教育制度は子どもたちが公平に安定して教育を受けるために必要かつ重要である。またそれは、私たちが受け身で従うべきものというより、知恵や工夫を凝らして能動的に向き合うことで初めて高い効果を発揮するものである。本講義では、今の教育課題も踏まえながら、教育の制度に関する知識の習得を目指すとともに、教育の思想や実践を効果的に実現できるような、教員としての力量を培うことを目指す。とくに、学校と地域の連携や、安全と安心の学校づくりなど、現代的な課題にも焦点をあてる。なお、教育の方法を通じた対人支援を志す学生の動機づけをもとに本授業を展開する。 |
| 到達目標 | 1. 教職に必要な教育制度に関する基礎概念、諸学説、基本的論点、課題に関する理解を深める。 2. 子どもや青年の学び・アイデンティティ形成と、それをめぐる教育制度との関係について、積極的・能動的に探究する。 |
| 授業計画 | 第1回：イントロダクション 第2回：現代教育の制度① 公教育の原理と理念 第3回：現代教育の制度② 教育法制の概要 第4回：現代教育の制度③ 教育行政と教育政策 第5回：地方教育政策の展開① 学校と地域の連携をめぐる論点 第6回：地方教育政策の展開② 教育委員会制度の理念 第7回：地方教育政策の展開③ 教育委員会制度の仕組み 第8回：学校経営の原理と展開① 学校経営の基本理念・組織と過程 第9回：学校経営の原理と展開② 「学力」「生きる力」と教育経営 第10回：学校経営の原理と展開③ 日米における教員評価 第11回：開かれた学校づくり① 学校を基盤とした地域連携の展開と課題 第12回：開かれた学校づくり② コミュニティ・スクールと地域学校協働本部 第13回：教育制度の現代的課題① 安心・安全の学校づくり 第14回：教育制度の現代的課題② 格差社会と教育 第15回：講義のまとめ |
| アクティブラーニング | 学生によるプレゼンテーション、グループディスカッション、グループワーク |
| 授業内のICT活用 | あり (インターネットにつながるPC、タブレット等を持参のこと) |
| 評価方法 | 1. 問題意識をもった授業参加、話し合い・発表など役割遂行等の授業関与度 30% 2. 毎時間の振り返り 30% 3. 提出物(レポート) 40% |
| 課題に対するフィードバック | 毎授業時、または次の回の授業内でコメントする。 |

| | | | | | |
|-----------------|---|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>【事前学修】 授業テーマについて関心を持ち、自分なりの課題や考えをもって参加する。(2時間)</p> <p>【事後学修】 資料を参考に授業内容への理解をさらに深めるとともに、自分自身のあり方を見つめる。(2時間)</p> | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 詳細は初回の授業で提示する。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は、児童相談所職員・小学校教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 物理学 |
| 科目責任者 | 津森 伸一 |
| 単位数他 | 2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 教養基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 人間は物理法則に従って動いているため、人体や人間の運動を深く理解するためには物理学に関する知識が不可欠である。本科目は、特にバイオメカニクス分野の前提となる力学の基礎を習得することを目的とする。高等学校において「基礎物理」「物理」を履修していないあるいは内容の理解に自信のない学生向けの内容とする。 |
| 到達目標 | 1. 図やグラフなどを用いて物理現象を視覚的に表現できる。 2. 法則の数式的意味を理解し、物理現象を数式として表現できる。 3. 物理法則や数式の持つ意味を言語や図等を用いて分かり易く説明できる。 |
| 授業計画 | 第 1 回：物理量の表し方 第 2 回：変位・速度加速度，等速直線運動，等加速度直線運動 第 3 回：落下運動 第 4 回：問題演習(1) 第 5 回：運動の第一法則（慣性の法則） 第 6 回：運動の第二法則（運動の法則） 第 7 回：運動の第 3 法則（作用反作用の法則） 第 8 回：重力，垂直抗力，摩擦力 第 9 回：問題演習(2) 第 10 回：圧力 第 11 回：重心，力のモーメント 第 12 回：問題演習(3) 第 13 回：仕事 第 14 回：エネルギー 第 15 回：問題演習(4)，総まとめ |
| アクティブラーニング | 本授業は、動画閲覧による反転授業を取り入れて実施します。 |
| 授業内の ICT 活用 | パソコンと WebClass を用いて、授業用コンテンツの閲覧，レポート提出，リアクションペーパーの提出などを行います。 |
| 評価方法 | 小テスト 30%，レポート 60%，リアクションペーパー10%の計 100%で評価します。ルーブリックを用いた評価は行いません。 |
| 課題に対するフィードバック | リアクションペーパーは WebClass を用いて提出を行い，教員より質問やコメントに回答します。 |

| | | | | |
|-------------------------|--|-----|------|------|
| 指定図書 | (電子版) | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| まるわかり!基礎物理 改訂2版 | 桑子 研 著 | 南山堂 | 2021 | |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・ 事後学修 | 授業前に指定された動画教材を閲覧し教科書にも目を通すこと (40分). 授業後に教科書の演習問題を解いてみること (40分). | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | NHK 高校講座「物理基礎」が公開するライブラリ (https://www.nhk.or.jp/kokokoza/library/tv/butsurikiso/) を用いた反転学習を行います. | | | |
| オフィス アワー | 所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517 研究室 時間：木曜日 11時～12時 上記以外でもメール (shinichi-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取って下さい. | | | |
| 実務経験に 関する記述 | なし | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 化学 |
| 科目責任者 | 有信 哲哉 |
| 単位数他 | 2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 教養基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 生命現象を分子レベルで理解するための基盤となる有機立体化学・反応有機化学の基本を学び、生体分子の機能などを分子レベルで理解できることを学ぶ。また、今後も発展する看護学・医学・生命科学に対して生涯に渡って自律的に学び続けるための学力的な基盤をつくる。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 有機化合物の立体構造を表記できる。 2. 重要な有機化合物の性質・反応性を説明できる。 3. 生体を構成する分子の構造的特徴について述べることができ、その役割を説明できる。 |
| 授業計画 | <p>第1回：原子の構造，安定同位体，放射性同位体，第一周期・第二周期の元素の電子式</p> <p>第2回：第三周期の元素の電子式，周期律，共有結合</p> <p>第3回：結合角，VSEPA 理論</p> <p>第4回：結合角と分子の形，非共有電子対を持つ分子の結合角</p> <p>第5回：極性結合，分子全体の極性</p> <p>第6回：ファンデルワールス力，双極子・双極子相互作用，水素結合</p> <p>第7回：イオン結合，金属結合</p> <p>第8回：官能基の種類，骨格構造式（1）</p> <p>第9回：骨格構造式（2）</p> <p>第10回：鏡像異性体，RS 配置（CIP 順位則），絶対配置</p> <p>第11回：RS 配置の演習，化合物の命名法</p> <p>第12回：立体配座</p> <p>第13回：立体配座と安定性</p> <p>第14回：糖類</p> <p>第15回：生体分子</p> |
| アクティブラーニング | <p>その他（分子模型を用いたアクティブラーニング）</p> <p>基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中に学生自身が分子模型を組み立てることで、分子の構造や安定性について考えてもらう。</p> |
| 授業内のICT活用 | 特になし |
| 評価方法 | 筆記試験（90%），課題提出物（10%），計100%で総合的に評価する。 |
| 課題に対するフィードバック | 講義中に行う確認テストに関しては、授業において詳細な解説を行う。 |

| | | | | |
|-----------------|--|------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| HGS分子構造模型A型セット | 丸善出版 | 丸善出版 | 2017 | 9784621301265 |
| | | | | |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 事前学習では、授業計画の該当項目、キーワードについて調べること（40分）。 事後学習では、講義ノートを読み返し、さらに関連する演習問題を解き、理解を深めること（40分以上）。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | なし | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | | |
|---------------|--|---|
| 科目名 | 生命科学 | |
| 科目責任者 | 熊澤 武志 | |
| 単位数他 | 2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP2 教養基礎 | |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 | |
| 科目概要 | 生命科学は、生命の営みを細胞や分子レベルで研究し、生物学や化学だけでなく、あらゆる分野から総合的に研究しようとする学問です。本科目では、生命の基本単位である細胞や生命体の複製を中心とした生命基礎現象のしくみを学び、生殖、がん、ストレス、依存症、性、老化、死などの生命のメカニズムを理解しつつ、看護学を学ぶ上で必要となる生命科学の発展的知識を身につけることを目的とします。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体のリズムについて説明できる。 2. 細胞の基本機能と細胞周期について説明できる。 3. 遺伝子と遺伝子操作技術について理解できる。 4. 遺伝子多型と個人差の関係について説明できる。 5. 生命活動に影響を及ぼす諸因子について説明できる。 6. 生命科学を基礎とする医療の進歩について具体的に述べるができる。 7. 生命への関心を深め、問題意識を高めることができる。 | |
| 授業計画 | 第 1 回：生体のリズム 第 2 回：細胞と細胞周期 第 3 回：がんの生物学 第 4 回：フリーラジカルとストレス 第 5 回：放射線生物学 第 6 回：薬物依存 第 7 回：血液型の科学 第 8 回：中間のまとめとテスト 第 9 回：遺伝子の発現とその制御 第 10 回：遺伝子操作技術と遺伝子治療 第 11 回：DNA 鑑定と個人識別 第 12 回：性の科学～LGBTs について 第 13 回：出生前診断 第 14 回：生命科学の倫理 第 15 回：生命と死・まとめ | 熊澤 武志 熊澤 武志 熊澤 武志 熊澤 武志 熊澤 武志 熊澤 武志 熊澤 武志 熊澤 武志 熊澤 武志 熊澤 武志 黒崎 久仁彦 津田 聡子 熊澤 武志 長谷川 智華 熊澤 武志 |
| アクティブラーニング | 授業では整理問題やリフレクション課題などに取り組んでもらいます。 | |
| 授業内の ICT 活用 | WebClass を活用したリアクションペーパーの作成、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。 | |
| 評価方法 | 中間テスト (40%)、定期試験 (40%)、平常点 (20%) を総合的に評価します。平常点にはリフレクション課題への記述内容などが含まれます。 | |
| 課題に対するフィードバック | 整理問題は模範解答を配付し、必要に応じて解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。 | |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | 授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付しますので、事前・事後学修に活用して下さい。 なお、この授業では、事前学修 40 分程度、事後学修 40 分程度を費やします。 | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 熊澤武志 (1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | なし | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 基礎演習 |
| 科目責任者 | 隆 朋也 |
| 単位数他 | 1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP3 教養基礎 |
| 科目の位置付 | 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。 |
| 科目概要 | 大学生活や学修習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけ、主体的に学ぶ姿勢とそのための技能を修得することは、大学在学中はもとより、生涯のさまざまな場面で学び・成長するために欠かせないスタディ・スキルである。本科目では、大学での学修に必要な基礎技能を修得し、自ら学ぶ姿勢、自分に適した学修方法を確立することを目的とする。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学での学修方法が理解できる。 2. 多様なものの見方や異なる価値観を理解できる。 3. 根拠に基づき、自分の意見や主張を明確に述べることができる。 4. 文献、雑誌、インターネットなどからテーマに沿った情報や資料を収集・整理できる。 5. 科学的、論理的な視点でレポートを作成できる。 6. 能動的で自律的・自立的な学習態度を身に付けることができる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>隆朋也、安田智洋、熊澤武志、長峰伸治、西川浩昭、吉里心希、有村優範、早川ゆかり、神崎江利子、岩瀬美保、松本有希、山本智子、水島史乃、加藤貴子、長山ひかる、</p> <p>第 1 回 ガイダンス/大学で学ぶ意義</p> <p>第 2 回 大学での学修方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的学修、事前・事後学修の必要性、学修資源の活用など <p>第 3 回 PC の活用法と情報倫理(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や演習における PC の活用法や留意事項について <p>第 4 回 PC の活用法と情報倫理(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート・プレゼンテーション作成やグループワークにおける PC の活用法や留意事項について <p>第 5 回 図書館の活用、資料の探し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用方法を学ぶ <p>第 6 回 レポートの組み立て方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトライン・パラグラフ・トピックセンテンスについて <p>第 7 回 文章を要約する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文や書籍に書かれた内容を理解しやすくまとめる <p>第 8 回 文献・資料の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引用・参考文献の扱い方、文献・資料の探し方を理解する <p>第 9 回 伝えるための文章の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成の仕方の基本を理解する <p>第 10 回 学生相互のレポート添削</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成したレポートを学生間で相互評価しフィードバックを得る <p>第 11 回 プレゼンテーションのポイント、グループワークオリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを用いた口頭発表の方法、注意点など ・グループワークの課題提示と今後の進め方について <p>第 12・13 回 グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについての情報収集・ディスカッション ・グループ発表の準備、プレゼンテーションの資料作り <p>第 14・15 回 グループ発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを用いた口頭発表 ・ルーブリックを活用した他者評価、教員からのフィードバック |

| | | | | | |
|-----------------------------------|--|-------|------|---------------|--|
| アクティブ ラーニング | 演習科目です。講義形式の授業・演習の他に、グループワークを行います。 | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | WebClass を活用して授業ごとのリアクションペーパー、レポート提出、グループワークの進捗・ 成果報告等を行います。 授業では必要に応じて PC を活用した演習を行います。グループワークでは PC を活用して情報 収集や資料作成を行います。 | | | | |
| 評価方法 | リアクションペーパー (30%)、レポート (40%)、グループ発表資料と発表内容 (30%) を総 合的に評価します。 なお、レポート・グループ発表は、ルーブリックを用いて評価します。 | | | | |
| 課題に対する フィード バック | リアクションペーパーは WebClass を利用して提出し、質問等は必要に応じて全体にフィードバ ックします。その他の提出物についても、担当教員が確認した後に WebClass 上で対応します。 グループ発表は、会場で教員が口頭でフィードバックを行います。 | | | | |
| 指定図書 | 小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| 看護学生のためのよく わかる大学での学び方 (第2版) | 前原澄子 | 金芳堂 | 2018 | 9784765317689 | |
| 大学生 学びのハンド ブック [5 訂版] | 世界思想社編集部 | 世界思想社 | 2021 | 9784790717492 | |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修：各講義に事前学修課題が提示される。文献を調べたり、自分の考えをまとめたりし て授業に臨む (30 分程度)。 事後学修：授業の学びをまとめ、記録する (30 分程度)。 | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | | |
| オフィス アワー | 科目責任者 (看護学部：隆) の研究室は 1605 です。 基本的に木曜日 15 時～17 時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール (tomoya-t@seirei.ac.jp) で連絡をしてください。 | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | なし | | | | |
| メディア 授業の実施 について | 講義形式の授業においては 2 教室間での同時双方向型メディア授業を行う。講義担当教員が 1 教室で対面授業を行い、その様子を別教室に TV 会議システムで配信する形で行う。メディア 授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教員を 1 名以上配置 し、教育の質を維持する。また授業時間に講義担当教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応 じる機会も設ける。グループワーク等の演習が中心となる授業では、それぞれの教室に担当教 員を配置した対面形式の授業を行う。 | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | キャリアデザイン (看護学部) |
| 科目責任者 | 和田 由樹 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 3 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP4 教養基礎 |
| 科目の位置付 | 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。 |
| 科目概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護専門職の多様なキャリアコースを理解するとともに、看護専門職として活躍するために必要な社会人基礎力を身につける 2. キャリアデザインの考え方を広げながら、社会人基礎力とキャリアデザインとの関連性を踏まえ、自分のキャリアデザインを描く |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアデザインの多様な考え方を理解することができる 2. 社会人として必要なマナー・コミュニケーション能力・ストレスコーピング方法を理解することができる 3. 看護専門職を目指す自身のキャリアデザインを描くことができる |
| 授業計画 | <p>第1回 科目オリエンテーション キャリアデザイン、社会人基礎力とは 和田由樹</p> <p>第2回 看護専門職の多様なキャリアコースとその選択 小出扶美子</p> <p>第3回 社会人として必要なマナーとコミュニケーション力 特別講師・和田由樹</p> <p>第4回 身近な人のキャリアデザインとストレスマネジメント 小出扶美子・村松美恵</p> <p>第5・6回 先輩看護専門職のキャリアデザイン 特別講師・小出扶美子・村松美恵</p> <p>第7回 社会を知ることで見えてくるキャリアデザイン 和田由樹</p> <p>第8回 まとめ、自身のキャリアデザイン 和田由樹</p> |
| アクティブラーニング | <ul style="list-style-type: none"> ・提示された事前課題に主体的に取り組み、授業に参加してください ・リアクションペーパーの質問や意見には、授業時またはWebClassなどで回答します ・講義内容によってはグループワークを行います (予定) |
| 授業内のICT活用 | webclassでの課題提出、出席管理を行います |
| 評価方法 | <p>評価は各授業で提出するリアクションシートと課題レポートで行います 課題レポートについては、ルーブリックを用いた評価は行いません</p> <p>【評価方法ごとの配分】 リアクションペーパー (20%) 課題レポート (80%)</p> |
| 課題に対するフィードバック | 授業に関する質問・意見には、授業内またはWebclassで回答します |

| | | | | |
|-------------------|---|-----|------|---------------|
| 指定図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 参考図書 | 就職ガイドブック、キャリアガイドブック、本学キャリア支援センター作成資料 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 大学生のためのキャリアデザイン入門 | 岩上真珠 | 有斐閣 | 2014 | 9784641174009 |
| 事前・事後学修 | <p>1 コマあたりの事前事後学修時間の目安はそれぞれ 20 分（合計 40 分）を目安とします</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業で提示された課題に取り組み授業に参加してください。また、授業テーマに関連する文献や資料等を探して目を通しておくことをお勧めします <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容を振り返り、わからなかったこと、知りたいと思ったことを調べてください | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | <ul style="list-style-type: none"> 聖隷クリストファー大学 キャリア支援センターHP : https://www.seirei.ac.jp/career/ 日本看護協会 HP : https://www.nurse.or.jp/ 日本看護系大学協議会 HP : https://www.janpu.or.jp/ 日本看護協会 ナースストリート https://nurse-st.jp/ 近くナビ https://chikaku-navi.com/ | | | |
| オフィスアワー | <p>実習、会議等で不在にすることが多いため、事前にメールでアポイントを取ったのちに訪室してください</p> <ul style="list-style-type: none"> 和田由樹 (1213 研究室) : yuki-wd@seirei.ac.jp 小出扶美子 (2713 研究室) : fumiko-k@seirei.ac.jp 村松美恵 (2711 研究室) : mie-t@seirei.ac.jp | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|-------------|---|
| 科目名 | 英語Ⅲ（看護英語） |
| 科目責任者 | 渥美 陽子 |
| 単位数他 | 1 単位（30 時間） 選択 3 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP7 教養基礎 |
| 科目の位置付 | 地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。 |
| 科目概要 | 英語学習を通じて「異文化看護（Transcultural Nursing）」の概念を理解し、看護職に求められる多言語・多文化対応力を養うことを目的とする。多様な対象者を理解し、英語での看護コミュニケーションに慣れることを目指す。前半では、講義や視聴覚教材を用いて看護英語の基本的な語彙や表現を学び、ロールプレイを通じて対話力を高める。後半では、異文化看護の視点から特定の疾患や障害に関するケアを深く学び、グループワークを通じて英語でのコミュニケーションスキルを向上させる。学習成果は英語で発表し、専門的な知識との統合を目指す。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の専門用語、ケアに関連する英語の語彙を 300 語以上習得する。 2. 基本的な看護ケアに必要な英語でのコミュニケーションを実践できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・患者への問診、アセスメントを英語で行う。 ・バイタルサインの測定や、患者の気分・症状・心配事を英語で聞き取る。 ・与薬時の説明や安全確認を英語で行う。 3. グループワークを通じて「異文化看護」への理解を深める。 4. 英語でのプレゼンテーションを通じて、学修した内容を適切に伝えるスキルを身につける。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>渥美陽子、パターソン・ドナルド、クラモト・クリスティーン</p> <p>第 1 回：Introduction to the course 履修説明、Body Parts 身体の部位 第 2 回：Meeting Patients 初診時の患者登録と生活習慣に関する質問の仕方 第 3 回：Taking a Medical History 病歴および健康状態の把握 第 4 回：Assessing Patients' Symptoms 患者の病状や症状のアセスメント 第 5 回：Taking Vital Signs バイタルサインの測定 第 6 回：発表会 第 7 回：まとめ、中間テスト 第 8 回：Assessing Pain 疾病・負傷による痛みのアセスメント 第 9 回：Advising about Medication 薬の服用方法、副作用、薬の種類など 第 10 回：Improving Patients' Mobility 運動機能の回復に向けた援助 第 11 回：Caring for Inpatients 入院患者のケア 第 12 回：グループワーク① 第 13 回：グループワーク② 第 14 回：グループ発表会 第 15 回：期末テスト、まとめ</p> |
| アクティブラーニング | 前半では、授業で学修した内容を基にシナリオを作成し、ロールプレイを通じて実践的なコミュニケーション能力を養う。後半では、異なる文化背景を持つ地域住民の保健医療に関する課題を取り上げ、グループで問題解決型プロジェクトに取り組む。 |
| 授業内の ICT 活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機能を利用して、授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施する。 ・ 事前・事後学習、授業内で利用するマルチメディア教材を提供する。 ・ Google 機能を用いてグループ発表の準備、発表を共同編集・同時参加型にする。 ・ Quizlet（オンライン単語学習ツール）を活用し、授業外の学習を促進する。 |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 評価方法 | クラスでの平常点（事前学習、授業参加度）10%、小テスト20%、中間テスト20%、発表・課題30%、期末テスト20% | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 小テスト・課題・中間/最終テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション） | | | | |
| 指定図書 | 書名：『Caring for People』、著者： Michiko Mayuzumi/ Tamiko Miyatsu/ Philip Hinder、著者 出版社 出版社：CENGAGE LEARNING、出版年：2014年 | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | 事前学修では、新出単語を辞書で調べて確認し（発音を含む）、不明な点・課題を明らかにする。音声ファイルを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）、暗唱練習を行う。表現の定着、内容の理解を深める。学修時間の目安：事前学修30分～1時間、事後学修30分～1時間程度。 | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 時間については初回授業時に提示する。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | なし | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 保健統計学 |
| 科目責任者 | 隆 朋也 |
| 単位数他 | 2 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 根拠に基づく看護の実践において、さまざまなデータを正しく理解し適切に活用するための統計学の知識は必要不可欠である。この科目では、看護専門職者に求められる統計学について、基礎的な理論と分析手法を系統的に学修することを目的とする。単なる暗記ではなく、論理的に考えて結論を導き出す過程に重点を置く。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. データの特徴を知り、図および表で適切に示すことができる。 2. データの特徴を、指標を用いて適切に表すことができる。 3. 母集団の平均値を推定し、二群を比較できる。 4. 相関係数の意味および算出方法を説明し、検定および推定ができる。 5. クロス表を作成し、検定ができる。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回： データの性質、母集団と標本</p> <p>第 2 回： 分布を描く</p> <p>第 3 回： 分布の代表値</p> <p>第 4 回： 分布の散布度</p> <p>第 5 回： 正規分布 小テスト①</p> <p>第 6 回： 母集団での平均値の推定</p> <p>第 7 回： 割合に関する分布</p> <p>第 8 回： 検定</p> <p>第 9 回： 2 グループの母平均値の差の検定</p> <p>第 10 回： 1 変数についての解析まとめ 小テスト②</p> <p>第 11 回： 相関図と相関係数</p> <p>第 12 回： 相関係数の検定と推定、クロス集計</p> <p>第 13 回： クロス表の検定、関連係数</p> <p>第 14 回： 2x2 のクロス表について 小テスト③</p> <p>第 15 回： 2 変数についての解析まとめ、全体を通しての補足事項</p> |
| アクティブラーニング | WebClass を用いて授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行います。 |
| 授業内の ICT 活用 | 資料配布、演習問題の提示、リアクションペーパー提出等に WebClass を活用します。 |
| 評価方法 | 小テスト 30%、定期試験 70% |
| 課題に対するフィードバック | 演習問題や演習課題の解説、リアクションペーパーに対するコメントなど、口頭や資料配布、WebClass への提示などによって行います。 |

| | | | | |
|-----------------|---|------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 【第2版】ナースのための統計学 | 高木広文／著 | 医学書院 | 2009 | 9784260007726 |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>事前学修：次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと（40分）。</p> <p>事後学修：教科書・配布資料・演習問題等を再確認して、それぞれの講義のポイントを整理しておくこと（40分）。前回までの授業内容を習得していることが受講の前提となります。</p> <p>授業で使用するスライドデータや関連資料を随時WebClassに掲載します。事前・事後学修に活用してください。</p> | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | <p>隆朋也：看護学部，1605 研究室（1 号館 6 階）</p> <p>基本的に木曜日 15 時～17 時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。</p> <p>事前にメール（tomoya-t@seirei.ac.jp）で連絡をしてください。</p> | | | |
| 実務経験に関する記述 | なし | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 疫学 |
| 科目責任者 | 西川 浩昭 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 4 Semester |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 集団における健康問題の現状を明らかにするために、問題としている健康問題の発生の程度であるリスクとそのリスクを変化させる要因を探し、両者の因果関係を立証する方法である疫学についてその概念と方法論、実際の場面における適用方法を習得する。具体的には疫学の歴史的背景、調査・研究方法、リスクの算出方法、因果関係立証の条件とその阻害要因、疫学で用いられる指標、健康政策への活用、臨床疫学への応用までを、身近な健康に関する事例に基づいて学修する。 |
| 到達目標 | 人間集団を対象に健康に関連する様々な事象の頻度と分布を観察、分析する方法を理解し、疫学的アプローチの考え方を習得することを目標とする。 1. 疫学の概念について理解する。 2. 疫学的因果関係について理解する。 3. 疫学的研究法について理解する。 4. 疫学指標を算出できる。 |
| 授業計画 | 第1回 ガイダンス・疫学の概念と歴史 第2回 疫学の専門用語 第3回 疫学指標 指標の比較・年齢調整 第4回 疫学的因果論① 因果関係の立証 第5回 疫学研究法① 記述疫学、横断研究、地域相関研究 第6回 疫学研究法② コホート研究 第7回 疫学研究法③ 症例対照研究 第8回 関連の指標① 相対危険・寄与危険 第9回 関連の指標② オッズ比 第10回 疫学的因果論② バイアス・交絡要因 第11回 疫学研究法④ 介入研究、臨床試験 第12回 疫学の実例① 臨床疫学 第13回 疫学の実例② 感染症の疫学、疾病登録 第14回 スクリーニング検査① 原理と方法 第15回 スクリーニング検査② 検査精度の評価 |
| アクティブラーニング | WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。 |
| 授業内のICT活用 | 授業資料や関連資料、演習問題の提供など |
| 評価方法 | 原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。) |
| 課題に対するフィードバック | 内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。 |

| | | | | |
|--|--|-----|------|---------------|
| 指定図書 | なし 作成した講義資料を配付します | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| はじめて学ぶやさしい 疫学 日本疫学会標準 テキスト 改訂第3版 | 日本疫学会 監修 | 南江堂 | 2018 | 9784524243990 |
| | | | | |
| 事前・ 事後学修 | <p>公衆衛生学についての十分な学力を備えていることが受講の要件です。これについては各自復習(自己学習)してください。</p> <p>前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約30分です。</p> <p>事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約60分です。事前・事後学修では結果や方法を単に暗記するだけでなく、理論や考える過程を修得することが重要です。</p> | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | |
| オフィス アワー | 時間については初回授業時に提示します。 | | | |
| 実務経験に 関する記述 | なし | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 公衆衛生学 |
| 科目責任者 | 西川 浩昭 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 1 Semester |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 公衆衛生学は人間集団を対象とした健康を保持、増進、予防するための実践的科学であり、同時に社会集団や組織における人々の健康課題を総合的に把握するための学問でもある。そのような公衆衛生学の現状を理解し、健康問題解決のための手段を学修する。具体的には、予防の概念とその種類、地域保健、環境保健、感染症・危機管理、生活習慣、食品衛生、産業衛生、関係法規等、健康に影響する様々な社会環境要因とその対策についての理解を深める。 |
| 到達目標 | 集団における健康問題の実態と原因を明らかにし、保健・医療・福祉の現状を理解する。 1. 人間集団における健康問題とその予防策について理解する。 2. わが国における公衆衛生活動について学ぶ。 3. 社会問題化している健康問題について理解する。 |
| 授業計画 | 第1回 公衆衛生の概念 第2回 疾病予防① (予防医学、健康増進、公衆衛生活動) 第3回 疾病予防② (対象別アプローチ) 第4回 人口統計① (人口静態統計、国勢調査、人口3区分) 第5回 人口統計② (平均余命、人口ピラミッド) 第6回 人口統計③ (人口動態統計) 第7回 保健統計① (健康指標、死亡統計) 第8回 保健統計② (疾病統計、衛生統計調査) 第9回 生活習慣病の予防① (健康増進、健康づくり) 第10回 生活習慣病の予防② (食生活、栄養) 第11回 生活習慣病の予防③ (運動、休養、その他) 第12回 感染症とその対策① (感染症予防法、検疫、その他) 第13回 感染症とその対策② (予防接種、その他) 第14回 食品衛生 (食中毒、食品汚染) 第15回 産業保健・環境衛生 |
| アクティブラーニング | WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。 |
| 授業内のICT活用 | 授業資料や関連資料、演習問題の提供など |
| 評価方法 | 原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。) |
| 課題に対するフィードバック | 内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。 |

| | | | | |
|-------------------------|---|-----------|------|---------------|
| 指定図書 | シンプル衛生公衆衛生学 2025 南江堂 2,600 円 ISBN:978-4-524-21874-5 国民衛生の動向 2024/2025 厚生労働統計協会 2,970 円 雑誌コード 03854-8 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 公衆衛生がみえる 2024-2025 | 医療情報科学研究所 | メディックメディア | 2024 | 9784896329285 |
| | | | | |
| 事前・ 事後学修 | <p>前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約 30 分です。</p> <p>事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約 60 分です。事前・事後学修では定義や法令、計算方法等を単に暗記するだけではなく、理論や考える過程を修得することが重要です。</p> | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | |
| オフィス アワー | 時間については初回授業時に提示します。 | | | |
| 実務経験に 関する記述 | なし | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 保健医療行政論 |
| 科目責任者 | 西川 浩昭 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 3セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 健康で文化的な最低限度の生活を営むことは憲法に保障された国民の権利である。そのために必要であり、用意されている保健医療行政の目的、保健行政と地方自治制度・地方分権の意義や保健行政の役割と制度の仕組みとその財源である国と地方自治体の財政と医療経済を学修する。また、保健医療政策の必要性を理解し、住民参画による策定のプロセス、推進と評価の方法について教授し、政策能力の向上をはかる。 |
| 到達目標 | わが国における保健医療行政および保健医療サービスの基礎的知識を学ぶ。また、地方公共団体における保健医療行政施策に関する基礎的知識を学ぶ。 1. 我が国における保健医療政策の現状を把握する。 2. 保健医療行政のしくみを学ぶ。 3. 社会保障制度のしくみを学ぶ。 |
| 授業計画 | 第1回 インTRODクシヨン、保健医療行政の概念と仕組み (行政組織、地方自治体) 第2回 保健医療財政の仕組み① 国と地方自治体における制度 第3回 保健医療財政の仕組み② 財政基盤、医療費 第4回 医療提供体制 医療法、医療計画 第5回 医療保険制度① 医療保険制度の概要、国民健康保険 第6回 医療保険制度② 被用者保険、後期高齢者医療保険 第7回 社会保険制度 雇用保険、労働者災害補償保険 第8回 年金保険制度① 年金保険制度の概要 第9回 年金保険制度② 国民年金、厚生年金、その他 第10回 介護保険制度① 介護保険制度の概要 第11回 介護保険制度② 介護認定の仕組み 第12回 社会福祉① 社会福祉の概要、生活保護 第13回 社会福祉② 障害者福祉、高齢者福祉、児童福祉、その他 第14回 保健医療分野における政策と動向① 疾病対策、災害対策、その他 第15回 保健医療分野における政策と動向② 国際保健、国際協力 |
| アクティブラーニング | WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。 |
| 授業内のICT活用 | 授業資料や関連資料、演習問題の提供など |
| 評価方法 | 原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。) |
| 課題に対するフィードバック | 内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。 |

| | | | | |
|--------------------|---|---------|------|---------------|
| 指定図書 | 健康支援と社会保障制度 3 社会保障・社会福祉 第25版, 医学書院, 2,750円, ISBN: 978-4-260-05371-6 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | 国民の福祉と介護の動向 2024/2025 厚生労働統計協会, 2,640円, 雑誌コード 03854-9 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 保健医療福祉行政論 [改訂版] | 府川 哲夫 | ミネルヴァ書房 | 2022 | 9784623093434 |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>公衆衛生学の基礎知識と前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約30分です。</p> <p>事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約60分です。</p> | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | 時間については初回授業時に提示します。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | なし | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 社会福祉概論 |
| 科目責任者 | 佐々木 正和 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 2 Semester |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 前半では、現代社会における社会福祉問題について社会情勢をふまえて解説していきます。また、社会福祉の理念と実際、歴史等を学びます。後半では、社会福祉の様々な領域の現状を、事例をまじえて学習していきます。 |
| 到達目標 | 1. 社会福祉の基礎概念を説明できる。 2. 社会福祉に関連するサービスの現状や課題を説明できる。 3. 医療と社会福祉の協働の在り方を説明できる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>佐々木正和、佐藤順子、福田俊子、川向雅弘</p> <p>第1回：社会福祉の基礎概念 現代社会における社会福祉とは (佐々木) 第2回：社会福祉をとりまく状況 貧困問題等 (佐々木) 第3回 社会福祉の歴史と展開 戦前の社会福祉の歴史 (佐々木) 第4回 社会福祉の仕組みと経営 法律・サービスについて (佐々木) 第5回 社会福祉の機関と施設 各福祉機関について (佐々木) 第6回 社会福祉と援助と方法 ソーシャルワーク・グループワーク (福田) 第7回 社会保障制度 (健康保険、高齢者医療、労災等) (佐々木) 第8回 公的扶助制度 (生活保護、手当等) (佐々木) 第9回 子ども家庭福祉 子どもへの支援(事例紹介) (佐々木) 第10回 高齢者福祉 高齢者への支援 (事例紹介) (佐々木) 第11回 障がい者福祉 障がい者への支援 (事例紹介) (川向) 第12回 地域福祉 地域連携・地域包括ケアシステム (佐藤) 第13回 これからの社会福祉の課題 現在ある社会福祉の課題について (佐藤) 第14回 社会福祉を支える人たち 様々な社会福祉職 (佐々木) 第15回 まとめ (佐々木)</p> |
| アクティブラーニング | 反転授業、グループワーク、ロールプレイを用いた講義を行います。課題提出などは、Webclassを活用し双方向の情報提供を行います。 |
| 授業内のICT活用 | <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、授業進度に応じた双方向授業を行います。 毎回の授業でWebclassを活用します。 |
| 評価方法 | ・リアクションペーパー (10%)、テスト (90%) |
| 課題に対するフィードバック | webclassにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。 |

| | | | | |
|---------------------|---|---------|-----|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| よくわかる社会福祉 [第11版] | 山縣 文治 | ミネルヴァ書房 | | 9784623076765 |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと（1～15回） ・講義前に前回資料の復習をしておくこと（2～14回） <p>事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業後にWebClass内のリアクションペーパーに回答すること（1～15回） <p>（事前・事後学修 目安時間 40分）</p> | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | 社会福祉学部所属の佐々木正和研究室（2605研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「精神保健福祉士・社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | | |
|---------------|--|--|
| 科目名 | 家族関係論 | |
| 科目責任者 | 佐藤 弘明 | |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門基礎 | |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 | |
| 科目概要 | 現代家族の中の人間関係を社会学観点から理解し、医療従事者として必要な家族を見る目を養う。また現代家族をめぐるさまざまな問題や人間関係について、心理学的立場から理解を深める。 | |
| 到達目標 | 1. 自ら経験する現実の家族を社会的観点から相対化することによって家族および家族関係について理解を深める。 | |
| 授業計画 | <p>少子化を通してみる家族の中の人間関係</p> <p>第 1 回： 佐藤弘明</p> <p>(1) 少子化とは何か？</p> <p>(2) 日本の家族 (過去と現在)</p> <p>第 2 回： 佐藤弘明</p> <p>(2) 日本の家族 (過去と現在)</p> <p>(3) 少子化を通してみる夫と妻・①</p> <p>第 3 回： 佐藤弘明</p> <p>(3) 少子化を通してみる夫と妻・②</p> <p>(4) 少子化を通してみる親と子・①</p> <p>第 4 回： 佐藤弘明</p> <p>(4) 少子化を通してみる親と子・②</p> <p>(5) 少子化を通してみる祖父母と孫</p> <p>第 5 回： 夫婦関係とその危機 (1) / 夫婦関係の形成と発達 柴田俊一</p> <p>第 6 回： 夫婦関係とその危機 (2) / 事例を通して 柴田俊一</p> <p>第 7 回： 親子関係とその危機 (1) / 子どもが育つ場としての家族 柴田俊一</p> <p>第 8 回： 親子関係とその危機 (2) / 事例を通して 柴田俊一</p> | |
| アクティブラーニング | なし | |
| 授業内の ICT 活用 | なし | |
| 評価方法 | (佐藤) 定期試験 (100%) の結果で評価する。ただし、授業中の質疑応答を加点要素とする。 (柴田) レポート 100% で評価する。 | |
| 課題に対するフィードバック | 定期試験の解答例を提示します。 | |

| | | | | |
|-----------------|---|-----|-----|------|
| 指定図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | (佐藤) 講義内容をよりよく理解するには質問が必須です。質問のためには授業前後にノートの再読が必要です。少なくとも40分はかけてください。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | なし | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 養護概説 |
| 科目責任者 | 池永 理恵子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 3 Semester |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 養護教諭の職務に関心を持ち、養護教諭の役割と活動内容を理解する。成長発達過程の児童生徒の課題解決に必要な知識、技術、対人援助スキルを習得する。養護活動の理論を講義によって理解し、養護教諭としての基礎的専門性を身につける内容とする。 |
| 到達目標 | <p>養護教諭の職務内容に関する基礎的な知識及び指導・支援の方法を修得できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健の対象である児童生徒等の特性と発育発達課題を述べるができる。 2. 児童生徒等の心身の健康と安全に関する実態と課題について理解を深めることができる。 3. 学校における養護教諭の役割と校内組織との関連を考えることができる。 4. 養護教諭の専門性として必要な知識・技術・態度を身につけることができる。 5. 学校内外の保健関係組織との連携及び協働活動の必要性と養護教諭の役割を説明できる。 |
| 授業計画 | <p>第1回 オリエンテーション、養護教諭の職務と専門性</p> <p>第2回 児童生徒の健康実態の把握と課題</p> <p>第3回 保健室経営と学校経営、養護活動の評価</p> <p>第4回 学校保健計画・学校安全計画</p> <p>第5回 保健管理－健康診断 (健康診断と疾病管理) ①</p> <p>第6回 保健管理－健康診断 (事後措置と報告) ②</p> <p>第7回 保健教育における養護教諭の役割・指導案と教材作成①</p> <p>第8回 保健教育における養護教諭の役割・指導案と教材作成②</p> <p>第9回 保健管理－学校安全と保健室での応急処置</p> <p>第10回 保健管理－疾病管理</p> <p>第11回 保健管理－感染症の予防</p> <p>第12回 健康相談の進め方と実際</p> <p>第13回 性教育における相談と対応</p> <p>第14回 保健教育－保健教育指導案の発表と討議</p> <p>第15回 組織活動と連携、まとめ</p> |
| アクティブラーニング | <ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、毎回、グループワーク、ディスカッションを取り入れて実施する。 ・第6回では、健康診断の演習を行い、児童生徒の健康状態・発達発達の評価を行う。 ・第9回では、保健室等の場面における救急処置の事例についての実習・演習を行う。 ・第12回では、健康相談の演習を行う。 ・第14回では、作成した指導案に基づく模擬授業を行う。 |
| 授業内のICT活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・対面授業においてはプレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。 |
| 評価方法 | <p>リアクションペーパー・課題提出物 20%</p> <p>グループワーク・演習・ロールプレイングへの参加、態度 (演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示します。) 20%</p> <p>筆記試験 60% 計100%</p> |

| | | | | | |
|-----------------|---|-----|-----|------|--|
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ・講義や課題についての質問や意見は講義中に質問、意見の時間を設ける。また、メールによる質問や意見には返信で回答、解説を行う。 ・リアクションペーパーは、授業内容を振り返りながら、授業の感想や学んだことの羅列ではなく、新たな気付き、理解を深めたことを書く。なお、記載内容で重要なものは、次回の授業で回答したり紹介する | | | | |
| 指定図書 | 養護教諭養成講座 学校における養護活動の展開 改訂 12 版、池添 志乃 編集代表、津島 ひろ江・荒木田 美香子・岡本 啓子 編著、ふくろう出版、ISBN： 978-4-86186-906-8 | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>1 コマあたりの事前・事後学修時間は原則 40 分とする。学修方法については、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容やテーマについて、事前に指示する指定図書（テキスト）の箇所を読んでから講義に臨むこと。 ・授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付するので、事前・事後学修に活用する。 ・指示する指導案・保健だよりを作成等を行うこと ・授業範囲の中から簡単な小テストを実施するので、理解度の評価に役立つ。 ・講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、各授業において紹介した図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。 | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | <p>講義内容の参考資料として、次のホームページを参照してください。</p> <p>1 文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm ・小学校、中学校、高等学校 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・特別支援教育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm など <p>2 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト https://www.gakkohoken.jp/</p> | | | | |
| オフィスアワー | <p>科目責任者：池永理恵子（研究室：1711、メールアドレス： rieko-i@seiei.ac.jp）</p> <p>オフィスアワーは、原則、講義日の講義終了後から 18 時までとします。</p> <p>講義日以外でも対応できますが、会議等で研究室を不在にする場合もありますので、事前にメールで予約を入れていただくと、確実に時間をとって対応できます。</p> <p>メールでの相談は随時受け付けています。</p> | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 生涯発達心理学 |
| 科目責任者 | 長峰 伸治 |
| 単位数他 | 2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | この授業では、人間のライフサイクルの各発達段階(乳児期～高齢期)における発達課題とその意味について、エリクソンなどのいくつかの発達理論や最新の研究知見を用いて、特に対人関係や自己の発達に焦点をあてて説明する。また、発達障害の基本的な特徴についても説明する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護専門職に必要な「乳幼児期から高齢期に至るまでの各発達段階の発達課題や心理的特徴」および「発達障害に関する定義や特徴」の基本的事項について理解する。 2. 1の知識を得ることで、これまでどのような発達の道筋を経てきたのか、今の発達段階での課題をどのように乗り越えているのかなど、発達の観点から自分や他者を理解する。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回： ライフサイクルにおける発達とは・発達における「遺伝」と「環境」</p> <p>第 2 回： 胎生期・乳児期の発達（愛着の形成）</p> <p>第 3 回： 乳児期の発達（基本的信頼感）</p> <p>第 4 回： 幼児期前半の発達 1（第 1 次反抗期、言語能力の発達）</p> <p>第 5 回： 幼児期前半の発達 2（自律性、トイレトレーニング）</p> <p>第 6 回： 幼児期後半の発達（積極性、遊びの発達）</p> <p>第 7 回： 児童期の発達（勤勉性、ギャングエイジ）</p> <p>第 8 回： 思春期の発達（親離れ・子離れ、友人関係）</p> <p>第 9 回： 青年期の発達：（アイデンティティの形成）</p> <p>第 10 回： 初期成人期の発達（親密性、キャリア発達）</p> <p>第 11 回： 中年期の発達 1（中年期危機）</p> <p>第 12 回： 中年期の発達 2（アイデンティティの再体制化）</p> <p>第 13 回： 高齢期の発達（エイジング）</p> <p>第 14 回： 発達障害の理解と支援 1（学習障害、注意欠如多動症）</p> <p>第 15 回： 発達障害の理解と支援 2（自閉スペクトラム症）</p> |
| アクティブラーニング | アイデンティティ尺度を実際に回答・結果の整理をして、自らの状況の理解を通して青年期の発達課題を学ぶ。 |
| 授業内の ICT 活用 | WebClass のクリッカー機能を使って理解度の確認などを行う双方向型授業を実施する。 |
| 評価方法 | 定期試験 70%，授業への取り組み状況 30%（リアクションペーパー等） |
| 課題に対するフィードバック | 前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。 |

| | | | | | |
|-----------------|---|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。</p> | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | <p>長峰伸治（看護学部）1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。</p> | | | | |
| 実務経験に関する記述 | なし | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 臨床心理学 |
| 科目責任者 | 藤居 尚子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 3セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 臨床心理学は心の問題を抱えるひとの理解と心理的援助の方法についての学問であり、実践と理論化を行き来して構築されてきた。本講では、医療現場で患者に接したり、心理職と連携したりするうえで役立てられるよう、臨床心理学の概念と心理的援助の方法について基本的知識を得る。また、学校教育現場で取り上げられることの多い課題から、いじめや不登校、虐待について現状を理解し、支援方法を検討する。本科目で学ぶ臨床心理学の理論や関係者との連携に関する知識は、養護教諭が行う健康相談に活用できる。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学的な人間理解や支援方法について理解し、心理職との連携協働に必要な知識を得る。 2. 児童青年期を中心とした主な心理的問題とその支援について理解する。 3. 災害や死別など人生上の大きな出来事の心理的影響と支援について理解する。 4. 支援職支援および対人支援専門職としてのセルフケアについて理解する。 |
| 授業計画 | <p>第1回：臨床心理学の目的と方法、授業計画の説明</p> <p>第2回：臨床心理学的な人間理解とそれに基づく支援</p> <p>第3回：臨床心理学的アセスメント、心理職との連携協働</p> <p>第4回：個人をとりまく家族・集団・社会をふまえた心理的支援</p> <p>第5回：不登校の理解と学校における支援 - 自殺予防をめぐって</p> <p>第6回：いじめ問題と学校における支援</p> <p>第7回：虐待と学校における支援</p> <p>第8回：思春期に起こりやすい課題－摂食障害、リストカットと学校での対応</p> <p>第9回：発達障害の状態像と心理的支援</p> <p>第10回：ジェンダーをめぐる問題と心理的支援</p> <p>第11回：災害時の心理とサイコロジカルファーストエイド</p> <p>第12回：トラウマについての理解とトラウマインフォームドケア</p> <p>第13回 死にゆくことをめぐって①-終末期の心理と支援、悲嘆についての基本的理解</p> <p>第14回：死にゆくことをめぐって②-悲嘆のさまざまな現れとグリーフワーク</p> <p>第15回：支援者支援とセルフケア、授業のまとめ</p> |
| アクティブラーニング | 授業中に行う小グループディスカッションにより、理解の深化をはかる。 |
| 授業内のICT活用 | WebClass を使用して資料配布・リアクションペーパーの提出・授業内アンケート等を行う。 |
| 評価方法 | 筆記試験 55%、授業内課題（リアクションペーパー）45%、計 100% |
| 課題に対するフィードバック | リアクションペーパーのフィードバックは授業で全体に総評することで対応する。 期末試験は解答のポイントと採点基準を明示する。 |

| | | | | |
|-----------------|---|---------------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 医療系のための臨床心理学 | 竹森 元彦 | 講談社サイエンティフィック | 2023 | 9784065303894 |
| 参考図書 | 授業中に随時連絡 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | ①予習として、事前課題（各回終了時に次回テーマに関する問いを提示する）について自身の考えをまとめる（20分）2～15回目 ②復習として、配布資料のまとめ、および教科書の関連部分を読む（30分）2～15回目 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | 授業中に随時連絡 | | | |
| オフィスアワー | 授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「公認心理師」「臨床心理士」「日本学生相談学会認定 大学カウンセラー」の有資格者で実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | カウンセリング |
| 科目責任者 | 柴田 俊一 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 4セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP3 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。 |
| 科目概要 | 日常生活における相談が個人の考えや経験をもとに行われることが多いのに対して、カウンセリングは臨床心理学の考え方を基盤に「クライアント(相談に訪れた人)をどのように理解し、いかに関わるのか」を吟味しながら行われる。本講義の目的は、カウンセリングの基礎知識の学習を通して、看護における心理的援助のあり方を考えることである。また、本科目で学ぶカウンセリングの基本理論・技法は、養護教諭が行う健康相談活動にも有用である。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの基本姿勢と基本技法を理解する。 2. カウンセリングにおける「聴く」ことの意義を理解する。 3. カウンセリングのプロセスを理解する。 4. カウンセリングにおける心理アセスメントの意義と方法を理解する。 5. カウンセリングの基盤となる臨床心理学の理論の要点を理解する。 6. 健康相談活動を行う上で基礎となるカウンセリングの理論と技法を理解する。 |
| 授業計画 | <p>第1回： カウンセリングとは何か</p> <p>第2回： カウンセリングの基本姿勢</p> <p>第3回： カウンセリングの基本技法 聞き上手とは？</p> <p>第4回： クライアント中心療法</p> <p>第5回： 非言語的メッセージとカウンセリング</p> <p>第6回： カウンセリングの流れ</p> <p>第7回： 心理アセスメント(1)</p> <p>第8回： 心理アセスメント(2)</p> <p>第9回： 精神分析療法の視点から</p> <p>第10回： 自己理解を深める演習</p> <p>第11回： 家族療法の視点から(1)</p> <p>第12回： 家族療法の視点から(2)</p> <p>第13回： 遊戯療法・芸術療法の視点から</p> <p>第14回： 行動療法・認知行動療法の視点から</p> <p>第15回： 自己表現について学ぶ演習</p> |
| アクティブラーニング | なし |
| 授業内のICT活用 | なし |
| 評価方法 | レポート100%で評価する。 |
| 課題に対するフィードバック | なし |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | 各回の後に、テキストの該当箇所に目を通すこと。 | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | なし | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 解剖学 I |
| 科目責任者 | 顧 寿智 |
| 単位数他 | 2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 解剖学は医学の最も基礎になる学問のひとつである。実際、正しい解剖の知識が無ければ、正しい医療は望むべくもないであろう。解剖学 I では下記の内容について要点を講義するが、授業を通して、人体の正常な構造の知識を身につけ、看護専門科目履修のための基礎を築く |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構成について述べることができる。 2. 消化器系の構造上の特徴を述べることができる。 3. 呼吸器系の構造上の特徴を述べることができる。 4. 心臓血管系の構造上の特徴を述べることができる。 5. 泌尿器系の構造上の特徴を述べることができる。 6. 内分泌に関与する臓器の構造上の特徴を述べることができる。 7. 神経系の構造と主な機能を述べることができる。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回：オリエンテーション、解剖学総論（解剖学用語、人体の構成）、</p> <p>第 2 回：組織学総論（細胞、組織）、</p> <p>第 3 回：消化器系（消化管の管壁、口、咽頭、食道）</p> <p>第 4 回：消化器系（胃、小腸、大腸、肝臓）</p> <p>第 5 回：消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜）</p> <p>第 6 回：呼吸器系（上気道、下気道、胸膜・縦隔）</p> <p>第 7 回：脈管系（心臓の構造、心臓の血管）</p> <p>第 8 回：脈管系（刺激伝道系、血管の構造、循環路）</p> <p>第 9 回：脈管系（循環路、リンパ系、中間テスト）</p> <p>第 10 回：泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道）</p> <p>第 11 回：自律神経系、内分泌器系（下垂体、甲状腺、上皮小体、膵島、副腎）</p> <p>第 12 回：神経系（神経組織、神経系の構成）</p> <p>第 13 回：神経系（脊髄、脳幹、小脳、間脳）</p> <p>第 14 回：神経系（間脳、大脳、脳室、脳脊髄膜）</p> <p>第 15 回：まとめ、テスト</p> <p>*浜松医科大学解剖実習見学：6 月 1 2 日（木）希望者のみ 参加条件：1 時限と 5 時限・6 時限の授業に必ず出席すること。</p> |
| アクティブラーニング | 本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習などを取り入れて実施する。 |
| 授業内の ICT 活用 | 本授業は、WebClass ・アプリ (Visible Body など) ・DVD などの活用を取り入れて実施する。 |
| 評価方法 | テスト (50%)、中間テスト・小テスト (40%)、授業への取り組み (10%) などを総合的に評価する。 |
| 課題に対するフィードバック | テストの解説、リアクションペーパーのコメント、授業時間外の質問対応など |

| | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|
| 指定図書 | 系統看護学講座『解剖生理学』坂井建雄、医学書院 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | 『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善 相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上) | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | 自主学习として、図書館にあるDVD「目で見える解剖・生理」「目で見える医学の基礎」の受講を勧める。 | | | |
| オフィスアワー | 所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 解剖学Ⅱ |
| 科目責任者 | 顧 寿智 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 解剖学Ⅱは、解剖学Ⅰに引き続き、運動器系、感覚器系、生殖器系、神経系について学修し、人体の構造をさらに深く理解することを目指す。解剖学Ⅱの授業を通して、看護学に必要な人体の正常な構造の知識を身につけ、看護専門科目履修のための基礎を築く。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系の構造上の特徴を述べることができる。 2. 感覚器系、生殖器系の構造と特徴を述べることができる。 3. 神経系の構造と主な機能を述べることができる。 4. 神経系病理との繋がりを述べることができる。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回：前期のまとめ、運動器系（基本構造、骨の連結）</p> <p>第 2 回：運動器系（全身の骨）</p> <p>第 3 回：運動器系（主な骨格筋）</p> <p>第 4 回：感覚器系（視覚器、平衡聴覚器、皮膚）</p> <p>第 5 回：生殖器系（男性生殖器、女性生殖器）</p> <p>第 6 回：神経系（脊髄神経）</p> <p>第 7 回：神経系（脳神経、伝導路）、</p> <p>第 8 回：解剖実験、まとめ、テスト</p> |
| アクティブラーニング | 本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習などを取り入れて実施する。 |
| 授業内の ICT 活用 | 本授業は、WebClass ・アプリ (Visible Body など) ・DVD などの活用を取り入れて実施する |
| 評価方法 | テスト (50%)、中間テスト・小テスト (30%)、授業への取り組み (20%) などを総合的に評価する。 |
| 課題に対するフィードバック | テストの解説、レポート、リアクションペーパーのコメント、授業時間外の質問対応など |

| | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|
| 指定図書 | 系統看護学講座『解剖生理学』坂井建雄、医学書院 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | 『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善 相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上) | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | 自主学习として、図書館にあるDVD「目で見える解剖・生理」「目で見える医学の基礎」の受講を勧める。 | | | |
| オフィスアワー | 所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 生理学 I |
| 科目責任者 | 熊澤 武志 |
| 単位数他 | 2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 生理学は生命現象のメカニズムについて学ぶ学問であり、将来看護師として、患者の健康状態を評価する上で欠くことのできないのが、この生理学の知識です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、主に機能面を講義しますが、医学的な専門用語や知識を単に暗記するのではなく、生命活動との関連性を理解し、それらを連携・統合し看護に応用できる発展可能な基礎力を身に付けることを目的とします。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 消化・吸収の意義とその機能について説明できる。 2. 呼吸運動とガス交換について説明できる。 3. 循環系の意義、心臓の機能、心電図、血管系の機能、循環調節について説明できる。 4. 血液と体液の組成とその機能について説明できる。 5. 腎臓の機能、尿の生成、排尿ならびに体液の調節機構について説明できる。 6. 神経系の機能について説明できる。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回：ガイダンス・栄養の消化と吸収-1</p> <p>第 2 回：栄養の消化と吸収-2</p> <p>第 3 回：栄養の消化と吸収-3</p> <p>第 4 回：呼吸の生理学-1</p> <p>第 5 回：呼吸の生理学-2</p> <p>第 6 回：心臓・循環の生理学-1</p> <p>第 7 回：心臓・循環の生理学-2</p> <p>第 8 回：血液と体液-1</p> <p>第 9 回：血液と体液-2</p> <p>第 10 回：尿の生成とその排泄-1</p> <p>第 11 回：尿の生成とその排泄-2</p> <p>第 12 回：神経機能の基礎・自律神経系</p> <p>第 13 回：脊髄と脳-1</p> <p>第 14 回：脊髄と脳-2</p> <p>第 15 回：脳の高次機能・まとめ</p> |
| アクティブラーニング | 小テストやリフレクション課題への取り組みのほか、教室の状況によっては、グループワークを取り入れながら授業を実施します。 |
| 授業内の ICT 活用 | WebClass を活用したリフレクション課題の作成・提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。 |
| 評価方法 | 定期試験 (60%)、小テスト (30%)、リフレクション課題への記述内容・グループワークの成果 (10%) を総合的に評価します。 |
| 課題に対するフィードバック | 小テストは原則的に毎時間実施し、採点後の答えは次回の授業で返却します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。 |

| | | | | |
|--|--|---------|------|---------------|
| 指定図書 | 人体の構造と機能 (1) 解剖生理学 第11版 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版 | 坂井 建雄 | 医学書院 | | 9784260046879 |
| 参考図書 | カラー図解人体の正常構造と機能 [全10巻縮刷版] 改訂第4版 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| カラー図解人体の正常 構造と機能 [全10巻 縮刷版] 改訂4版 | 坂井 建雄 | 日本医事新報社 | 2021 | 9784784931811 |
| 事前・ 事後学修 | 小テストやリフレクション課題の作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に40分間程度、事後学修に1時間程度を費やします。 | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | |
| オフィス アワー | 熊澤武志 (1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了~18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。 | | | |
| 実務経験に 関する記述 | なし | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 生理学Ⅱ |
| 科目責任者 | 熊澤 武志 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 生理学は生命現象のメカニズムについて学ぶ学問であり、将来看護師として、患者の健康状態を評価する上で欠くことのできないのが、この生理学の知識です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、主に機能面を講義しますが、医学的な専門用語や知識を単に暗記するのではなく、生命活動との関連性を理解し、それらを連携・統合し看護に応用できる発展可能な基礎力を身に付けることを目的とします。 |
| 到達目標 | 生体防御システムについて説明できる 体温の調節機構について説明できる。 ホルモンの種類およびその作用・調節機構について説明できる。 生殖、発生、成長、老化、それぞれのメカニズムについて説明できる。 感覚系の機能について説明できる。 筋系の機能および筋収縮の分子メカニズムについて説明できる。 |
| 授業計画 | 第 1 回：生体の防御機構 第 2 回：体温とその調節 第 3 回：内分泌系の機能と調節－1 第 4 回：内分泌系の機能と調節－2 第 5 回：生殖と発生 第 6 回：成長と老化 第 7 回：感覚の生理学 第 8 回：筋肉の機能・まとめ |
| アクティブラーニング | 小テストやリフレクション課題への取り組みのほか、教室の状況によっては、グループワークやペアワークを取り入れながら授業を実施します。 |
| 授業内の ICT 活用 | WebClass を活用したリフレクション課題の作成・提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。 |
| 評価方法 | 定期試験 (60%)、小テスト (30%)、リフレクション課題への記述内容・グループワークの成果 (10%) を総合的に評価します。 |
| 課題に対するフィードバック | 小テストは原則的に毎時間実施し、採点後の答案は次回の授業で返却し解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。 |

| | | | | |
|--|--|---------|------|---------------|
| 指定図書 | 人体の構造と機能 (1) 解剖生理学 第 11 版 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第 11 版 | 坂井 建雄 | 医学書院 | | 9784260046879 |
| 参考図書 | カラー図解人体の正常構造と機能 [全 10 巻縮刷版] 改訂 4 版 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| カラー図解人体の正常 構造と機能 [全 10 巻 縮刷版] 改訂 4 版 | 坂井 建雄 | 日本医事新報社 | 2021 | 9784784931811 |
| 事前・ 事後学修 | 小テスト、リアクションペーパー作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に 40 分間程度、事後学修に 1 時間程度を費やします。 | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | |
| オフィス アワー | 熊澤武志 (1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了~18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。 | | | |
| 実務経験に 関する記述 | なし | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 栄養生化学 |
| 科目責任者 | 熊澤 武志 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 2 Semester |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 栄養生化学は生命活動と体内に取り入れた栄養素との相互作用を生理学的・化学的・栄養学的に研究する学問です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、栄養素の生化学的基礎を学び、分子や細胞レベルでの代謝・調節機構、生活習慣病の予防やライフステージに沿った栄養管理のポイントや根拠等を理解することを目的とします。本科目で学ぶ用語や名称は、医療における共通言語であり、その理解は看護を学修する上での基盤となります。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における栄養生化学の役割について述べることができる。 2. 酵素、ビタミン・補酵素について説明できる。 3. 糖質の構造、機能、代謝について説明できる。 4. 脂質の構造、機能、代謝について説明できる。 5. タンパク質の構造、機能、代謝について説明できる。 6. ポルフィリン代謝と異物代謝について説明できる。 7. 遺伝子発現の仕組みについて説明できる。 8. ライフステージごとの栄養の特徴について述べることができる。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回：ガイダンス・栄養生化学の基礎知識</p> <p>第 2 回：生体の構成成分と栄養素</p> <p>第 3 回：酵素の特徴とはたらき</p> <p>第 4 回：糖質の構造と性質</p> <p>第 5 回：糖質の代謝</p> <p>第 6 回：脂質の構造と性質</p> <p>第 7 回：脂質の代謝</p> <p>第 8 回：タンパク質の構造と性質</p> <p>第 9 回：タンパク質の代謝</p> <p>第 10 回：ビタミン・ミネラルの種類とはたらき</p> <p>第 11 回：エネルギー代謝</p> <p>第 12 回：遺伝子の生化学</p> <p>第 13 回：代謝の異常</p> <p>第 14 回：栄養状態の評価と判定</p> <p>第 15 回：ライフステージと栄養</p> |
| アクティブラーニング | 整理問題を用いた自主学修やリフレクション課題に取り組むほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークも取り入れながら授業を進めます。 |
| 授業内のICT活用 | WebClass を活用したリフレクション課題の作成・提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。 |
| 評価方法 | 定期試験 (80%)、リフレクション課題への記述内容 (20%) を総合的に評価します。 |
| 課題に対するフィード | リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。 |

| | | | | |
|-------------------------|---|------|-----|---------------|
| バック | | | | |
| 指定図書 | 人体の構造と機能 (3) 栄養学 第14版 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | 人体の構造と機能 (2) 生化学 第14版 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 人体の構造と機能[2] 生化学 第14版 | 畠山 鎮次 | 医学書院 | | 9784260035569 |
| | | | | |
| 事前・ 事後学修 | リアクションペーパー作成や整理問題を解く等して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業ではリアクションペーパーの作成も含めて、事前学修に40分程度、事後学修に40分程度を費やします。 | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | |
| オフィス アワー | 熊澤武志 (1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。 | | | |
| 実務経験に 関する記述 | なし | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 微生物・感染 |
| 科目責任者 | 永田 年 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 感染症にかかった患者を看護する立場にある人々は感染症についての知識はもちろん、感染症の原因である病原微生物について十分な知識を持ち、これに基づいた適切な処置が必要である。また、感染症と深く関連性のある免疫学についての十分な知識も必要である。これらのことを学習目的とする。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学の体系的な基礎知識とその特徴を学び、病原微生物と感染及び発病の概念が理解できるようにする。 2. 生体の種々の防御機構(特に免疫)を学び、病原微生物に対する適切な対応処置に関する知識を修得できるようにする。 3. 現在、問題になっている、院内感染、日和見感染について十分な知識を得る。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回：微生物・感染を学ぶ意義、微生物・感染の基礎知識、微生物の種類</p> <p>第 2 回：細菌・真菌・原虫・ウイルスの性質</p> <p>第 3 回：感染と感染症</p> <p>第 4 回：感染に対する生体防御機構</p> <p>第 5 回：滅菌と消毒、感染症の検査・診断・治療、感染症の現状と対策</p> <p>第 6 回：病原細菌と細菌感染症</p> <p>第 7 回：病原真菌と真菌感染症、病原原虫と原虫感染症</p> <p>第 8 回：病原ウイルスとウイルス感染症</p> |
| アクティブラーニング | なし |
| 授業内の ICT 活用 | なし |
| 評価方法 | 筆記試験 100% (定期試験) |
| 課題に対するフィードバック | なし |

| | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|
| 指定図書 | 『系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学』南嶋 洋一他著、医学書院 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 講義内容に比べ講義時間が少ないため、予習・復習をすること。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | なし | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 病理・病態 |
| 科目責任者 | 大石 ふみ子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 3セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | <p>病理学とは病気の原因や病変の成り立ち、その経過など疾病の本質について学んでいく分野である。「すりむいた傷が自然に治ってしまった」といった日常よくある現象は、病理学では「組織修復と再生」で説明することができ、臨床の現場でしばしば遭遇する「褥瘡」については、病理学で学ぶ皮膚の「循環障害」が基本的な原因となっている。脳卒中や心筋梗塞も脳、心臓の「循環障害」である。また、現在死亡原因の第1位である「がん」に関しては、病理学ではその発生原因、その後の経過について多くの研究がなされている。このように病理学では、病理学総論の「細胞障害と細胞増殖」「組織、細胞の修復と再生」「循環障害」「炎症」「腫瘍」「代謝異常」「遺伝と先天異常」を通じて、多くの疾患の発生機序や経過などを理解することができる。また、実際に病院で行なわれている病理診断、病理解剖についても紹介したい。講義資料を配布し、質問しながら講義を進める。授業中の講義はパワーポイントで作成したスライドを用いて行う。</p> |
| 到達目標 | 様々な疾患についての病理・病態を理解する。 |
| 授業計画 | <p>第1回：病理学とは何か？ 細胞障害と細胞増殖<第1, 2章参照> 安見和彦 第2回：組織細胞の修復と再生（再生，化生，創傷治癒，異物の処理について） <第3章参照> 安見和彦 第3回：循環障害1（循環障害って何？ 心臓の循環障害）<第4, 12章参照> 安見和彦 第4回：循環障害2（高血圧症と動脈硬化症，脳の循環障害） <第4, 12章及び、第22章の脳血管障害の項目参照> 安見和彦 第5回：炎症1（炎症とは？ 急性炎症と慢性炎症）<第5章参照 安見和彦 第6回：炎症2（様々な臓器における炎症） <第5章及び、第13, 14章の炎症の項目参照> 安見和彦 第7回：腫瘍1（腫瘍の形態，癌の発育と転移，良性腫瘍と悪性腫瘍，腫瘍の分化度） <第8章参照> 安見和彦 第8回：腫瘍2（細胞増殖，腫瘍発生の要因と癌遺伝子について）<第2, 8章参照> 山田英孝 第9回：老化と再生（老化と遺伝子，遺伝子修復，組織・細胞の再生について） <第2, 3章参照> 山田英孝 第10回：腫瘍3（癌の疫学，摘出された様々な腫瘍）<第8章参照> 安見和彦 第11回：骨（骨の吸収と形成，骨折の治癒，筋肉の萎縮と炎症，骨・軟部腫瘍） <第19章参照> 安見和彦 第12回：遺伝と先天異常（遺伝病，染色体異常症，遺伝子診断法について） <第9章参照> 山田英孝 第13回：代謝異常1（タンパク質・脂肪・糖質代謝異常の実際） <第10章参照> 安見和彦 第14回：代謝障害2（タンパク質・脂質・糖質の代謝異常のメカニズム） <第10章参照> 山田英孝 第15回：病理組織細胞診断（病理組織診断，細胞診断，病理解剖の実際） <第23章参照> 安見和彦</p> |

| | | | | | |
|-----------------|---|----------|-----|------|---------------|
| アクティブラーニング | なし | | | | |
| 授業内のICT活用 | リアクションペーパーについて webclass を用いる。 | | | | |
| 評価方法 | リアクションペーパー（10%）、定期試験（90%）にて評価する。 必要に応じてレポートを課すことがある。 | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中で対応する。 | | | | |
| 指定図書 | 下記参照 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | シンプル病理学 改訂第8版 | 笹野 公伸 編集 | 南江堂 | 2020 | 9784524249343 |
| | | | | | |
| 参考図書 | まし | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | 予習・復習をすること。 | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 疾病・治療学Ⅰ |
| 科目責任者 | 大石 ふみ子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 3セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 健康障害によっておこる疾患には、全身的にあるいは臓器や器官別にさまざまな種類がある。「疾病・治療学Ⅰ」では、健康の保持・増進、疾病の予防、疾病時における看護援助の必要性を理解するために、臓器・器官系統別に病態生理、診断、治療、予防について学習する。「疾病・治療学Ⅰ」では、臨床と診断に加え、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、造血器系、消化器系の代表的な疾患、および麻酔法、治療とリハビリテーションについて学習する。 |
| 到達目標 | 1. 疾患の病態生理を説明できる。 2. 疾患に特有な症状について説明できる。 3. 疾患の診断、治療に必要な検査について説明できる。 4. 疾患の治療について説明できる。 5. 健康障害の予防について説明できる。 |
| 授業計画 | <p>1. 臨床推論と診断 (渡邊 卓哉 1回)</p> <p>1) 疾患とは何か/診断とは何か</p> <p>2) 総合的診療科の専門性、その役割と機能について</p> <p>2. 呼吸器系の疾患 (橋本 大 2回)</p> <p>1) 呼吸器系の基礎知識 (肺の構造と生理機能、呼吸器系障害の症状と病態生理) について</p> <p>2) 呼吸器系の重要疾患と、呼吸器系疾患に対する検査、診断、治療法 (特に 感染症 (肺炎、抗酸菌感染を中心に)、気道疾患 (喘息、COPD を中心に)、間質性肺疾患、肺癌等)</p> <p>3. 循環器系の疾患 (岡俊明 2回)</p> <p>1) 循環器系基礎知識 (解剖、生理、血液循環のしくみ) について (特に①血液の役割 (白血球、赤血球、血小板) ②心臓の解剖 (心室、心房、肺動脈、大動脈心臓弁) ③心臓のポンプ作用 ④全身の血液循環、動脈と静脈の役割)</p> <p>2) 循環器系障害の症状と主要な循環器系疾患に対する検査・診断・治療 (特に血圧の異常 (高血圧)、心不全、心臓弁膜症、不整脈、虚血性心疾患、先天性心疾患 等)</p> <p>4. 腎・泌尿器系の疾患 (三崎太郎 2回)</p> <p>1) 腎・泌尿器系の基礎知識 (構造と機能、腎泌尿器系障害の症状と病態生理) について</p> <p>2) 腎・泌尿器系の主要疾患と、主な腎泌尿器疾患に対する検査、診断、治療法</p> <p>5. 血液・造血器系疾患 (土屋紘子 2回)</p> <p>1) 血液・造血器系の基礎知識</p> <p>2) 血液・造血器系の主要疾患と、検査・診断・治療</p> <p>6. 消化器系の疾患 (細田佳佐 3回)</p> <p>1) 消化器系の基礎知識 (消化器系の構造・解剖と働き、消化器系障害の症状と病態生理) について</p> <p>2) 上部・下部消化管の主要疾患と、検査・診断・治療</p> <p>3) 肝胆膵 (肝臓を中心に) の疾患と、検査・診断・治療</p> |

| | <p>7. 手術と麻酔（鳥羽好恵 2回）</p> <p>1) 麻酔の基礎知識（意義と種類、観察方法）</p> <p>2) 麻酔の臨床応用、麻酔の注意点と合併症</p> <p>8. 治療とリハビリテーション（俵 祐一 1回）</p> <p>各種疾患・治療プロセスにおけるリハビリテーション専門職の役割と機能について</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|---|--------|------|---------------|-----|------|--------------|-------|--------|------|---------------|--------------|-------|--------|------|---------------|--------------|------|--------|------|---------------|-----------------------------------|------|--------|------|---------------|---------------------------|-------|--------|------|---------------|
| アクティブ ラーニング | なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | リアクションペーパー（10%）、定期試験（90%）にて評価する。 必要に応じてレポートを課すことがある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 課題に対する フィード バック | 質問は、webclass 等で受け付けます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 指定図書 | 下記参照 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>疾患と看護(1)：呼吸器</td> <td>讃井 将満</td> <td>メディカ出版</td> <td>2020</td> <td>9784840468978</td> </tr> <tr> <td>疾患と看護(2)：循環器</td> <td>野原 隆司</td> <td>メディカ出版</td> <td>2020</td> <td>9784840468985</td> </tr> <tr> <td>疾患と看護(3)：消化器</td> <td>三原 弘</td> <td>メディカ出版</td> <td>2020</td> <td>9784840468992</td> </tr> <tr> <td>疾患と看護(4)：血液/ アレルギー・膠原病/ 感染症</td> <td>薊 隆文</td> <td>メディカ出版</td> <td>2020</td> <td>9784840469005</td> </tr> <tr> <td>疾患と看護(8)：腎/泌 尿器/内分泌・代謝</td> <td>繪本 正憲</td> <td>メディカ出版</td> <td>2020</td> <td>9784840469043</td> </tr> </tbody> </table> | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | 疾患と看護(1)：呼吸器 | 讃井 将満 | メディカ出版 | 2020 | 9784840468978 | 疾患と看護(2)：循環器 | 野原 隆司 | メディカ出版 | 2020 | 9784840468985 | 疾患と看護(3)：消化器 | 三原 弘 | メディカ出版 | 2020 | 9784840468992 | 疾患と看護(4)：血液/ アレルギー・膠原病/ 感染症 | 薊 隆文 | メディカ出版 | 2020 | 9784840469005 | 疾患と看護(8)：腎/泌 尿器/内分泌・代謝 | 繪本 正憲 | メディカ出版 | 2020 | 9784840469043 |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 疾患と看護(1)：呼吸器 | 讃井 将満 | メディカ出版 | 2020 | 9784840468978 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 疾患と看護(2)：循環器 | 野原 隆司 | メディカ出版 | 2020 | 9784840468985 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 疾患と看護(3)：消化器 | 三原 弘 | メディカ出版 | 2020 | 9784840468992 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 疾患と看護(4)：血液/ アレルギー・膠原病/ 感染症 | 薊 隆文 | メディカ出版 | 2020 | 9784840469005 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 疾患と看護(8)：腎/泌 尿器/内分泌・代謝 | 繪本 正憲 | メディカ出版 | 2020 | 9784840469043 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | <ul style="list-style-type: none"> 各単元において、1年次に履修した生理学、解剖学は、本科目の前提となるので十分に復習して臨むこと。 授業前に、指定図書の対応する巻の巻頭：構造と機能の部分を読み、理解しておくこと 授業後は、指定図書の対応する巻について学習しておくこと | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「医師」「専門看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| メディア 授業の実施 について | 対面授業で実施する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 疾病・治療学Ⅱ |
| 科目責任者 | 大石 ふみ子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 3セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 「疾病・治療学Ⅱ」は「疾病・治療学Ⅰ」に引き続き、健康の保持・増進、疾病の予防、疾病時における看護援助の必要性を理解するために、臓器・器官系統別に病態生理、診断、治療、予防について学習する。「疾病・治療学Ⅱ」では、内分泌・代謝系、骨・筋・運動器系、脳・神経系、自己免疫・アレルギー、乳腺、女性生殖器、耳鼻咽喉・頭頸部、さらに小児について代表的な疾患を取り上げて学習する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の病態生理を説明できる。 2. 疾患に特有な症状について説明できる。 3. 疾患の診断、治療に必要な検査について説明できる。 4. 疾患に対する治療について説明できる。 5. 健康障害の予防について説明できる。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌・代謝系 (柏原裕美子 2回) <ol style="list-style-type: none"> 1) 内分泌臓器／内分泌・代謝の機能と障害／検査・診断と治療 2) 代表的内分泌疾患とその治療 / 糖尿病の最新の治療 2. 骨関節・筋肉・運動器系の疾患 (計3回) <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動器総論 (佐々木寛二 1回) 運動器の構造と機能、病態生理について 2) 外傷・四肢の疾患と治療 (吉水隆貴 1回) 外傷／上肢・下肢の関節疾患の診断と治療 3) 脊椎疾患と治療 (水野哲太郎 1回) 脊椎の構造と機能、脊椎の主要疾患と診断と治療 3. 脳・神経系の疾患 (内山 剛 2回) <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳神経系の基礎知識 (構造と機能、機能障害について) 2) 脳・神経系の代表疾患と検査・診断・治療 <ul style="list-style-type: none"> ・神経変性疾患 (アルツハイマー病、パーキンソン病、脊髄小脳変性症など) ・その他の脳・脊髄疾患 (感染、脱髄、代謝性など) ・末梢神経疾患、神経筋接合部の疾患、筋疾患 4. 自己免疫・アレルギー疾患 (大村 晋一郎 1回) <ol style="list-style-type: none"> ①免疫反応、アレルギーの仕組み ②自己免疫疾患とその機序 ③主な膠原病疾患とその治療 5. 乳腺疾患 (吉田 雅行 1回) <ol style="list-style-type: none"> ①乳腺の構造・機能と疾患 ②乳がんの検査・診断・治療 ③今日の乳がんの最新の動向 6. 女性生殖器疾患 (安達 博 1回) <ol style="list-style-type: none"> ①女性生殖器の疾患 |

| | | | | | |
|-------------------------|--|--------|--------|------|---------------|
| | ②女性生殖器疾患の検査・診断・治療 ③今日の女性生殖器疾患の最新の動向 7. 耳鼻咽喉・頭頸部疾患 (岡村 純 1回) 1) 耳鼻咽喉・頭頸部の構造と機能について 2) 耳鼻咽喉・頭頸部の主要疾患と検査・診断・治療 8. 子どもの疾患 (大呂 陽一郎 4回) 1) 子どもの代謝性疾患・内分泌疾患 2) 子どもの感染症 3) 子どもの呼吸器疾患・アレルギー疾患 4) 子どもの循環器疾患・悪性新生物 | | | | |
| アクティブ ラーニング | なし | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | なし | | | | |
| 評価方法 | リアクションペーパー (10%)、定期試験 (90%) にて評価する。 必要に応じてレポートを課すことがある。 | | | | |
| 課題に対する フィード バック | 質問に対しては、Webclass 等で対応いたします。 | | | | |
| 指定図書 | 下記参照 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | 疾患と看護(5)：脳・神経 | 永廣 信治 | メディカ出版 | 2020 | 9784840469012 |
| | 疾患と看護(6)：眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚 | 永井 由巳 | メディカ出版 | 2020 | 9784840469029 |
| | 疾患と看護(7)：運動器 | 萩野 浩 | メディカ出版 | 2020 | 9784840469036 |
| | 疾患と看護(9)：女性生殖器 | 苛原 稔 | メディカ出版 | 2020 | 9784840469050 |
| | 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版 | 奈良間 美保 | 医学書院 | | 9784260038669 |
| 参考図書 | なし | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | <ul style="list-style-type: none"> 各単元において、1年次に履修した生理学、解剖学は、本科目の前提となるので十分に復習して臨むこと。 授業前は、対応する指定図書の巻頭の1 基礎知識 (構造と機能) の部分を学修しておくこと 授業後は、指定図書の対応する巻について学修しておくこと | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | | |
| オフィス アワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア 授業の実施 について | 対面授業で実施する | | | | |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 薬理 |
| 科目責任者 | 川村 和美 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門基礎 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | <p>薬理では、医薬品の作用機序を中心に、体内動態、副作用、相互作用などを学習します。本科目の学習を通じて、国家試験に合格するための知識を身につけるだけでなく、それぞれの医薬品の特徴や使用例を具体的に説明し、配薬、服薬介助などの臨床で医薬品に興味を持てるように、授業を進めたいと思います。広範囲を限られた時間数で終えなければならないため、スピード間のある授業です。医薬品の名前は多い上にカタカナだらけでややこしく、最初は取っ付きにくいと感じられると思いますが、皆さんが自信を持って臨床で活かせるよう、できる限りわかりやすく薬に親しみが持てるように解説しますので、積極的に参加してください。</p> <p>ともに楽しく、学びの多い授業時間にしましょう！</p> |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な薬剤の作用機序を理解する。 2. 特徴的な薬の代表的な副作用を理解する。 |
| 授業計画 | <p>臨床で薬に触れたときにどんな薬かわかる、それぞれの薬に興味を持てるように、下記のスケジュールで幅広い領域を網羅した授業を行います。</p> <p>第1回： 第1章 薬を知ろう①</p> <p>第2回： 第1章 薬を知ろう②</p> <p>第3回： 第2章 循環器内科で主に使われる薬 第3章 代謝・内分泌内科で主に使われる薬</p> <p>第4回： 第4章 消化器内科で主に使われる薬 第5章 呼吸器内科・アレルギー科で主に使われる薬、</p> <p>第5回： 第6章 感染症科で主に使われる薬 第7章 腎臓内科・泌尿器科・生殖器科で主に使われる薬</p> <p>第6回： 第8章 整形外科で主に使われる薬 第9章 腫瘍内科・緩和医療科で主に使われる薬</p> <p>第7回： 第10章 精神科・心療内科で主に使われる薬、 第11章 神経内科で主に使われる薬</p> <p>第8回： 第12章 救命救急科・麻酔科で主に使われる薬 第13章 感覚器科で主に使われる薬</p> <p>国家試験&定期試験対策問題解説</p> |
| アクティブラーニング | なし |
| 授業内のICT活用 | 授業内の質問はリアクションペーパーやWeb Class で随時、受け付けます。 |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 評価方法 | <p>評価はマークシート式の筆記試験を実施します。100点満点とし、点数配分を定期試験90%、学習態度10%（出席点）とします。合計点が60点に満たない場合は、再試を実施します。なお、本試験に欠席をした学生も再試験の対象となります。</p> <p>インフルエンザやコロナ等による感染症罹患で出席停止になった場合、レポートの提出で出席の代替といたします。</p> | | | | |
| 課題に対するフィードバック | なし | | | | |
| 指定図書 | 講師の作成したレジュメに沿って授業を行います。 | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | 日本医薬品集、治療薬マニュアル（医学書院）などの医薬品集 | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>Web Class にアップロードしてある試験対策問題を実施すると、授業の復習と国家試験対策になります。</p> <p>講義時に配布する資料は、随時、情報を更新し、Web Class 上にPDFをアップロードするので、必要に応じてご活用ください。</p> | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | <p>授業に関する質問は主にリアクションペーパーに記載してください。</p> <p>次の授業時に回答します。</p> | | | | |
| 実務経験に関する記述 | <p>本科目は、病院ならびに保険薬局における実務経験と、薬科大学、看護大学、企業における授業経験が豊富な薬剤師が教授します。</p> | | | | |
| メディア授業の実施について | <p>授業は対面で行いますが、担当教員は教育設計の専門家『インストラクショナルデザイナー』であるとともに、eラーニングによる授業設計者の資格（eLPシニアマネージャー/eLPシニアラーニングデザイナー/eLPシニアコンサルタント）を有するため、感染症対策でオンラインとなった場合には、eラーニング教材に近い講義コンテンツを提供します。</p> | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 看護学原論 I |
| 科目責任者 | 檉原 理恵 |
| 単位数他 | 2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 「看護とは何か」「看護職者は何をするのか」「看護学とはどのような学問のか」などの原理を探求し、看護学の本質的な理解を深め、看護学の発展を担う創造性豊かな看護職者としての基礎を培うことを目的とする。看護の本質や歴史を学修し、看護を構成する人・健康・環境について理解を深める。看護実践のための理論的根拠や看護技術について学修し、看護実践の基盤を構成する要素について理解を深める。看護の専門性への道程を理解し、看護・看護学のこれからの展望と課題について学修する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践と看護の変遷を理解する 2. 看護の対象、健康、環境をとらえる視点を理解する 3. 看護実践のための理論的根拠を理解する 4. 看護実践に必要な技術を理解する 5. 保健・医療・福祉のシステムの中で果たす看護の役割について自分の考えを述べることができる |
| 授業計画 | 第1回 看護とは何か 第2回 看護実践と看護の変遷 第3回 看護に求められる教育 第4回 看護の対象とその理解 統合体としての人間 第5回 看護の対象とその理解 健康障害をもつケアの対象の理解 第6回 健康・病気の捉え方・健康に影響する要因 第7回 ライフサイクルと健康 第8回 看護実践のための理論的根拠 第9回 看護実践のための理論的根拠 (ナイチンゲール、ヘンダーソン) 第10回 看護実践のための理論的根拠 (反転授業) 第11回 看護における倫理と価値 第12回 看護技術とは 第13回 看護実践における看護過程の展開 第14回 保健・医療・福祉システム 第15回 専門職としての看護のあり方 |
| アクティブラーニング | 事前課題を基に授業を展開します。 授業内で毎回グループディスカッションを実施します 第10回は学生による反転授業、第15回はグループワークをもとに ppt を活用し学修内容をプレゼンします |
| 授業内のICT活用 | WebClass を用いて出席確認、ミニテスト、リアクションを入力します。また反転授業、グループワーク時には ppt を作成します |
| 評価方法 | 授業参加度 (20%)、ミニテスト (20%)、定期試験 (60%) |
| 課題に対するフィードバック | *事前課題のミニテストについては、授業で解説をします *リアクションカードの質問には、次回授業で回答します |

| | | | | |
|-----------------|--|-----------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 看護学概論 第7版 | 志自岐 康子 | メディカ出版 | 2022 | 9784840475358 |
| | | | | |
| 参考図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 看護覚え書き | フロレンス・ナイティンゲール 著 小玉香津子・尾田葉子 訳 | 日本看護協会出版会 | 2019 | 9784818022140 |
| 看護の基本となるもの | ヴァージニア・ヘンダーソン 著 湯楨ます・小玉香津子 訳 | 日本看護協会出版会 | 2016 | 9784818019966 |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>【事前学修】</p> <p>*单元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読んでください。第2～14回には授業中にミニテストを実施します。</p> <p>【事後学修】</p> <p>*授業内容、テキストの振り返りをします。ディスカッションした内容を個人学修で振り返ります</p> | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | 榎原理恵：1616 研究室 連絡先 rie-k@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 看護学原論Ⅱ |
| 科目責任者 | 檉原 理恵 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 社会と看護学に関する基礎となる知識を学修して、社会に求められる看護職者としての基礎を培うことを目的とする。看護における法的根拠を理解するとともに、看護実践における倫理的課題や医療安全についての理解を深め、看護の専門性について理解を深める。チーム医療や保健・医療・福祉における協働について基礎的な知識や考え方を学修する。さらに、社会から求められる看護の役割の拡大への展望と課題について学修する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における法的根拠を理解する 2. 看護の対象となる人々の多様性を理解し、看護の継続性を理解する 3. 看護実践における倫理的課題を認識し、対応力の基盤をみにつける 4. 看護とその責務、今後の展望と課題について自己の考えを述べることができる |
| 授業計画 | <p>第1回 看護における法的側面 法概念と看護実践の職業的法的規則</p> <p>第2回 多職種で取り組む地域包括ケアシステム</p> <p>第3回 看護の展開と継続性 川村佐和子</p> <p>第4回 医療安全への取り組み</p> <p>第5回 倫理的課題への対応 デイバート</p> <p>第6回 災害看護と国際看護</p> <p>第7回 看護とその責務</p> <p>第8回 今後の展望と課題</p> |
| アクティブラーニング | <p>事前課題を基に授業を展開します。</p> <p>授業内で毎回グループディスカッションを実施します。</p> <p>第5回は学生によるデイバート、第8回はグループワークをもとに ppt を活用し学修内容をプレゼンします。</p> |
| 授業内のICT活用 | WebClass を用いて出席確認、ミニテスト、リアクションを入力します。また反転授業、グループワーク時には ppt を作成します。 |
| 評価方法 | 授業参加度 (20%)、ミニテスト (20%)、定期試験 (60%) |
| 課題に対するフィードバック | <p>*事前課題のミニテストについては、授業で解説をします。</p> <p>*リアクションカードの質問には、次回授業で回答します。</p> |

| | | | | |
|-------------------------|---|--------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 看護学概論 第7版 | 志自岐 康子 | メディカ出版 | 2022 | 9784840475358 |
| | | | | |
| 参考図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 看護をめぐる法と制度 第5版 | 平林 勝政 | メディカ出版 | 2024 | 9784840481588 |
| | | | | |
| 事前・ 事後学修 | <p>【事前学修】 *单元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読んでください。第2～7回には授業中にミニテストを実施します。</p> <p>【事後学修】 *授業内容、テキストの振り返りをします。グループワークに必要な内容を個人学修で振り返ります。</p> | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | |
| オフィス アワー | 榎原理恵：1616 研究室 連絡先：rie-k@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。 | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | |

| | | |
|------------|---|--|
| 科目名 | 基礎看護技術 I | |
| 科目責任者 | 田口 実里 | |
| 単位数他 | 2 単位 (60 時間) 必修 1 セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 | |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 | |
| 科目概要 | 看護の対象である人間を生活者としてとらえ、療養生活支援の専門家として、療養者の生活の質を向上するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく援助方法を学び修得する。本科目では、看護場面に共通する技術としてコミュニケーション、感染予防、バイタルサイン測定、療養環境の調整、活動と休息を援助する技術について学び修得する。また、演習では看護者と対象者の両者を経験することによって援助技術の理解を深め、看護に必要な態度を修得する。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に共通する技術の原理・原則、根拠について理解できる 2. 看護に共通する技術を修得できる 3. 看護の対象となる人の療養環境について理解し、必要な技術について学修し修得できる 4. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる 5. 実施した看護技術について、グループで意見交換し、安全・安楽の視点で評価できる 6. 能動的な学修態度を身に着けることができる | |
| 授業計画 | <p><担当教員>田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、橋積 亜希子、炭谷正太郎、佐久間佐織、榎原理恵</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 科目ガイダンス・看護技術とは</p> <p>第2回 コミュニケーションの意義と構成要素</p> <p>第3回 関係構築のためのコミュニケーションの基本</p> <p>第4回 感染予防に必要な技術 I ①</p> <p>第5回 感染予防に必要な技術 I ②・実習室オリエンテーション</p> <p>第6回 【演習】感染予防に必要な技術①</p> <p>第7回 【演習】感染予防に必要な技術②</p> <p>第8回 環境調整に必要な技術①</p> <p>第9回 環境調整に必要な技術②・ボディメカニクス</p> <p>第10回 【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメイキング、シーツ交換①</p> <p>第11回 【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメイキング、シーツ交換②</p> <p>第12回 活動と休息の基本的な知識</p> <p>第13回 活動と休息の援助の実際</p> <p>第14回 【演習】体位変換</p> <p>第15回 【演習】体位保持</p> <p>第16回 【演習】車いす移乗・移送</p> <p>第17回 【演習】ストレッチャー移乗・移送</p> <p>第18回 【演習】技術の確認：ベッドメイキング</p> <p>第19回 バイタルサインの観察①</p> <p>第20回 バイタルサインの観察②</p> <p>第21回 【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定①</p> <p>第22回 【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定②</p> <p>第23回 効果的なコミュニケーション技術</p> <p>第24回 コミュニケーション障害への対応</p> <p>第25回 【演習】効果的なコミュニケーション技術①</p> <p>第26回 【演習】効果的なコミュニケーション技術②</p> | <p>単元責任者</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里</p> <p>有村優範</p> <p>有村優範</p> <p>有村優範 他</p> <p>有村優範 他</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里 他</p> <p>田口実里 他</p> <p>早川ゆかり</p> <p>早川ゆかり</p> <p>早川ゆかり 他</p> <p>早川ゆかり 他</p> <p>早川ゆかり 他</p> <p>早川ゆかり 他</p> <p>田口実里 他</p> <p>吉里心希</p> <p>吉里心希</p> <p>吉里心希 他</p> <p>吉里心希 他</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里 他</p> <p>田口実里 他</p> |

| | | | | |
|-------------------------|--|------|-----|---------------|
| | <p>第27回【演習】技術の確認：バイタルサイン 田口実里 他</p> <p>第28回【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅰ① 田口実里 他</p> <p>第29回【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅰ② 田口実里 他</p> <p>第30回【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅰ③・まとめ 田口実里 他</p> <p>*授業計画の詳細については、科目ガイダンスで説明します。</p> | | | |
| アクティブ ラーニング | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修、事前課題をもとに授業を進行します。 ・講義ではディスカッションがあります。 ・演習はグループで進めます。実施者および患者、観察者としてロールプレイを実施し、お互いにフィードバックをします。 | | | |
| 授業内の ICT活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがあります。 ・授業の出席、リアクションペーパーやミニテストはWebClassを使用します。 | | | |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（または確認テスト）65% ・課題提出物 15% 事前課題（ミニテストなど）、事後課題（演習の振り返り） ・技術の確認 20% …合格が単位認定の必須条件 | | | |
| 課題に対する フィード バック | <ul style="list-style-type: none"> ・課題に関するミニテストについては、授業で解説をします。 ・リアクションペーパーの質問には、次回授業またはWebClassで回答します。 | | | |
| 指定図書 | <p>基礎看護技術[3] 基礎看護技術Ⅱ第19版（2025年改訂） 有田清子他 医学書院 3,520円 ISBN：9784260056885</p> | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ第19版 | 茂野 香おる | 医学書院 | | 9784260049924 |
| 参考図書 | 下記ほか、必要時授業内に提示します。 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版 | 坂井 建雄 | 医学書院 | | 9784260046879 |
| 事前・ 事後学修 | <p>【事前学修】</p> <p>（講義） 单元ごとに提示された課題（WebClass）に取り組む 学修するテキストの該当箇所を熟読、動画を視聴する</p> <p>（演習） テキスト・講義資料を熟読し、ナーシングスキルなどの動画を視聴する 演習計画書を熟読し、演習ノートを作成する、教科書や動画で学修した内容を書き込む</p> <p>【事後学修】</p> <p>（講義） テキストや授業資料等で授業内容を振り返る</p> <p>（演習） 課題（演習の振り返り：WebClass）に取り組む ※演習で実施した技術のセルフトレーニングを行う</p> | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | ※必要時、随時授業内で紹介します | | | |
| オフィス アワー | 1号館6階1619研究室 メールアドレス：misato-t@seirei.ac.jp 随時：事前にメールで問い合わせいただくとスムーズです。 | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア 授業の実施 について | 2教室間での遠隔授業を行う場合があります。その場合、单元責任者のファシリテーションのもと、担当教員・準教員が各教室に分かれて授業を進行します。 | | | |

| | | |
|-----------|--|---|
| 科目名 | 基礎看護技術Ⅱ | |
| 科目責任者 | 炭谷 正太郎 | |
| 単位数他 | 2単位 (60時間) 必修 2セメスター | |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 | |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 | |
| 科目概要 | 看護の対象となる人を生活者としてとらえ、療養生活支援の専門家として、療養者の生活の質を向上するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく援助方法を学び修得する。本科目では、療養生活を援助する基本的技術として、身体の清潔、食事・栄養、排泄を援助する技術について学び修得する。また、演習では看護者と対象者の両者を経験することによって援助技術の理解を深め、看護に必要な態度を修得する。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に共通する技術の原理・原則、根拠について理解できる 2. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる 3. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を修得できる 4. 対象に合わせた看護援助を考ることができる 5. 看護専門職者に求められる基本的な態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける | |
| 授業計画 | <p><担当教員名>炭谷正太郎、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、佐久間佐織、田口美里、橋積 亜希子 他</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 科目ガイダンス</p> <p>第2回 清潔・衣生活の基本的な知識</p> <p>第3回 清潔・衣生活の援助の実際</p> <p>第4回 【演習】寝衣交換①</p> <p>第5回 【演習】寝衣交換②</p> <p>第6回 【演習】洗髪①</p> <p>第7回 【演習】洗髪②</p> <p>第8回 【演習】清拭・寝衣交換①</p> <p>第9回 【演習】清拭・寝衣交換②</p> <p>第10回 食事に関する基本的な知識、栄養状態の評価</p> <p>第11回 食事の援助の実際（食事介助、口腔ケア）</p> <p>第12回 栄養（経管栄養・中心静脈栄養）</p> <p>第13回 【演習】技術の確認：寝衣交換</p> <p>第14回 【演習】食事介助、口腔ケア①</p> <p>第15回 【演習】食事介助、口腔ケア②</p> <p>第16回 排泄の援助の基本的な知識</p> <p>第17回 排泄の援助の実際（自然排尿、自然排便の介助の実際、洗腸）</p> <p>第18回 【演習】便器・尿器を用いた床上排泄①</p> <p>第19回 【演習】便器・尿器を用いた床上排泄②</p> <p>第20回 【演習】おむつ交換</p> <p>第21回 【演習】陰部洗浄</p> <p>第22回 感染予防に必要な技術Ⅱ</p> <p>第23回 排尿困難への援助（導尿）</p> <p>第24回 【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ①</p> <p>第25回 【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ②</p> <p>第26回 【演習】一時導尿①</p> <p>第27回 【演習】一時導尿②</p> | <p>単元責任者</p> <p>炭谷正太郎</p> <p>炭谷正太郎</p> <p>炭谷正太郎</p> <p>炭谷正太郎 他</p> <p>炭谷正太郎 他</p> <p>有村優範 他</p> <p>有村優範 他</p> <p>炭谷正太郎 他</p> <p>炭谷正太郎 他</p> <p>吉里心希</p> <p>吉里心希</p> <p>吉里心希</p> <p>炭谷正太郎 他</p> <p>吉里心希 他</p> <p>吉里心希 他</p> <p>炭谷正太郎</p> <p>炭谷正太郎</p> <p>炭谷正太郎 他</p> <p>炭谷正太郎 他</p> <p>炭谷正太郎 他</p> <p>炭谷正太郎 他</p> <p>有村優範</p> <p>炭谷正太郎</p> <p>有村優範 他</p> <p>有村優範 他</p> <p>炭谷正太郎 他</p> <p>炭谷正太郎 他</p> |

| | | | | | |
|-------------------------|--|-------------------------------|------|-----|---------------|
| | 第28回【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ① 第29回【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ② 第30回【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ③・まとめ *授業計画の詳細については、科目ガイダンスで説明します。 | 炭谷正太郎 他 炭谷正太郎 他 炭谷正太郎 他 | | | |
| アクティブ ラーニング | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修、事前課題をもとに授業を進行します 講義ではディスカッションがあります 演習はグループで進めます。実施者及び患者、観察者役よりロールプレイを実施し、お互いにフィードバックをします | | | | |
| 授業内の ICT活用 | <ul style="list-style-type: none"> 授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがあります。 授業の出席、リアクションペーパーやミニテストはWebClassを使用します。 | | | | |
| 評価方法 | 定期試験 50% 課題提出物 20% ミニテスト 10% 技術確認 20% | | | | |
| 課題に対する フィード バック | <ul style="list-style-type: none"> 課題に関するミニテストについては、授業で解説をします リアクションカードの質問には、次回授業またはWebClassで回答します | | | | |
| 指定図書 | 下記参照 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第19版 | 茂野 香おる | 医学書院 | | 9784260049924 |
| | 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第18版 | 有田 清子 | 医学書院 | | 9784260042123 |
| | | | | | |
| 参考図書 | ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン) | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版 | 坂井 建雄 | 医学書院 | | 9784260046879 |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | <p>【事前学修】 (講義) 单元ごとに提示された課題 (WebClass) に取り組む 学修するテキストの該当箇所を熟読、動画を視聴する (演習) テキスト・講義資料を熟読し、ナーシングスキルなどの動画を視聴する 演習計画書を熟読し、演習ノートを作成する、必要な動画を視聴しポイントを書き込む</p> <p>【事後学修】 (講義) テキストや授業資料等で授業内容を振り返る (演習) 課題 (演習の振り返り: WebClass) に取り組む ※演習で実施した技術のセルフトレーニングを行う</p> | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | ※必要時、随時授業内で紹介します | | | | |
| オフィス アワー | 炭谷正太郎: 1610 研究室 syoutarou-s@seirei.ac.jp 月曜日 11時~13時ですが、予約は不要です。この時間以外でも、在室していればいつでも訪問してください。会議などで不在になる場合がありますが、メールなどでご連絡いただければ調整します。 | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | ・本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です | | | | |
| メディア 授業の実施 について | 2教室間での遠隔授業を行う場合があります。その場合、单元責任者のファシリテーションのもと、担当教員・準教員が各教室に分かれて授業を進行します。 | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|----------|-------------------|--------|-----|---------------------|--------|-----|------------------|-------|-----|------------------|-------|-----|--------------------|---------|-----|--------------------|---------|-----|-------------------|-------|-----|------------------------------|-------|-----|---------------------------|-------|------|-----------------|-------|------|----------------------|---------|------|--------------------|---------|------|----------------------|-------|------|---------------------|---------|------|---------------------|---------|------|----------------------|--------|------|----------|--------|------|---------------------|--------|------|--------------------------|--------|------|-------------------|--------|------|-------------------|--------|------|---------------------|--------|------|---------------|--------|------|---------------|----------|------|-----------------------|----------|------|-----------------------|----------|------|-----------------------|----------|--------------|
| 科目名 | 基礎看護技術Ⅲ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目責任者 | 佐久間 佐織 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数他 | 2単位 (60時間) 必修 3セメスター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目概要 | 療養生活支援の専門家として、療養者の生命と生活を適切にとらえ、個々に合わせた看護を実践するために必要となる「フィジカルアセスメント」と「看護過程」の基礎的知識を学修する。さらに、グループワークを通して、学修した知識や技術、論理的思考を用いて、事例に起こっている状況を判断し、評価する力を培う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの目的を説明できる 2. 人体の構造と機能をふまえた正しい身体診査技術の方法を説明できる 3. 学んだ知識を用いて、問診および基本的な診査技術を正しく安全に実践できる 4. 観察したことを記録し、他者へ報告できる 5. 看護過程の意義を説明できる 6. 看護過程を構成する要素、プロセスについて説明できる 7. 事例を用いて看護過程を展開することができる 8. 看護過程についてクリティカルに議論することができる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <p><担当教員名>佐久間佐織、炭谷正太郎、田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、橋積亜希子、榎原理恵 他</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>科目ガイダンス ヘルスアセスメント</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>フィジカルアセスメントの基本技術、問診</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>呼吸器系のフィジカルアセスメント</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>循環器系のフィジカルアセスメント</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>呼吸のフィジカルアセスメント【演習】</td> <td>早川ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>循環のフィジカルアセスメント【演習】</td> <td>早川ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>筋・骨格系のフィジカルアセスメント</td> <td>有村 優範</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>脳・神経系（運動機能・感覚機能）のフィジカルアセスメント</td> <td>有村 優範</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>脳・神経系（意識・脳神経）のフィジカルアセスメント</td> <td>有村 優範</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>外皮系のフィジカルアセスメント</td> <td>有村 優範</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>運動機能のフィジカルアセスメント【演習】</td> <td>有村 優範 他</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>意識のフィジカルアセスメント【演習】</td> <td>有村 優範 他</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>消化器系（腹部）のフィジカルアセスメント</td> <td>橋積亜希子</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>腹部のフィジカルアセスメント①【演習】</td> <td>橋積亜希子 他</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>腹部のフィジカルアセスメント②【演習】</td> <td>橋積亜希子 他</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>アセスメントとは</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>看護問題の明確化、看護計画、実施、評価</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>機能的健康パターン（健康知覚-健康管理パターン）</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>機能的健康パターン（身体的側面）①</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>機能的健康パターン（身体的側面）②</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>機能的健康パターン（心理・社会的側面）</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第23回</td> <td>在宅療養者の看護過程の展開</td> <td>川村 佐和子</td> </tr> <tr> <td>第24回</td> <td>紙上事例の看護過程の展開①</td> <td>佐久間 佐織 他</td> </tr> <tr> <td>第25回</td> <td>紙上事例の看護過程の展開② グループワーク</td> <td>佐久間 佐織 他</td> </tr> <tr> <td>第26回</td> <td>紙上事例の看護過程の展開③ グループワーク</td> <td>佐久間 佐織 他</td> </tr> <tr> <td>第27回</td> <td>紙上事例の看護過程の展開④ グループワーク</td> <td>佐久間 佐織 他</td> </tr> </table> | 第1回 | 科目ガイダンス ヘルスアセスメント | 佐久間 佐織 | 第2回 | フィジカルアセスメントの基本技術、問診 | 佐久間 佐織 | 第3回 | 呼吸器系のフィジカルアセスメント | 早川ゆかり | 第4回 | 循環器系のフィジカルアセスメント | 早川ゆかり | 第5回 | 呼吸のフィジカルアセスメント【演習】 | 早川ゆかり 他 | 第6回 | 循環のフィジカルアセスメント【演習】 | 早川ゆかり 他 | 第7回 | 筋・骨格系のフィジカルアセスメント | 有村 優範 | 第8回 | 脳・神経系（運動機能・感覚機能）のフィジカルアセスメント | 有村 優範 | 第9回 | 脳・神経系（意識・脳神経）のフィジカルアセスメント | 有村 優範 | 第10回 | 外皮系のフィジカルアセスメント | 有村 優範 | 第11回 | 運動機能のフィジカルアセスメント【演習】 | 有村 優範 他 | 第12回 | 意識のフィジカルアセスメント【演習】 | 有村 優範 他 | 第13回 | 消化器系（腹部）のフィジカルアセスメント | 橋積亜希子 | 第14回 | 腹部のフィジカルアセスメント①【演習】 | 橋積亜希子 他 | 第15回 | 腹部のフィジカルアセスメント②【演習】 | 橋積亜希子 他 | 第16回 | 看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方 | 佐久間 佐織 | 第17回 | アセスメントとは | 佐久間 佐織 | 第18回 | 看護問題の明確化、看護計画、実施、評価 | 佐久間 佐織 | 第19回 | 機能的健康パターン（健康知覚-健康管理パターン） | 佐久間 佐織 | 第20回 | 機能的健康パターン（身体的側面）① | 佐久間 佐織 | 第21回 | 機能的健康パターン（身体的側面）② | 佐久間 佐織 | 第22回 | 機能的健康パターン（心理・社会的側面） | 佐久間 佐織 | 第23回 | 在宅療養者の看護過程の展開 | 川村 佐和子 | 第24回 | 紙上事例の看護過程の展開① | 佐久間 佐織 他 | 第25回 | 紙上事例の看護過程の展開② グループワーク | 佐久間 佐織 他 | 第26回 | 紙上事例の看護過程の展開③ グループワーク | 佐久間 佐織 他 | 第27回 | 紙上事例の看護過程の展開④ グループワーク | 佐久間 佐織 他 | <p>単元責任者</p> |
| 第1回 | 科目ガイダンス ヘルスアセスメント | 佐久間 佐織 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2回 | フィジカルアセスメントの基本技術、問診 | 佐久間 佐織 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3回 | 呼吸器系のフィジカルアセスメント | 早川ゆかり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4回 | 循環器系のフィジカルアセスメント | 早川ゆかり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5回 | 呼吸のフィジカルアセスメント【演習】 | 早川ゆかり 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6回 | 循環のフィジカルアセスメント【演習】 | 早川ゆかり 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第7回 | 筋・骨格系のフィジカルアセスメント | 有村 優範 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第8回 | 脳・神経系（運動機能・感覚機能）のフィジカルアセスメント | 有村 優範 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第9回 | 脳・神経系（意識・脳神経）のフィジカルアセスメント | 有村 優範 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第10回 | 外皮系のフィジカルアセスメント | 有村 優範 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第11回 | 運動機能のフィジカルアセスメント【演習】 | 有村 優範 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第12回 | 意識のフィジカルアセスメント【演習】 | 有村 優範 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第13回 | 消化器系（腹部）のフィジカルアセスメント | 橋積亜希子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第14回 | 腹部のフィジカルアセスメント①【演習】 | 橋積亜希子 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第15回 | 腹部のフィジカルアセスメント②【演習】 | 橋積亜希子 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第16回 | 看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方 | 佐久間 佐織 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第17回 | アセスメントとは | 佐久間 佐織 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第18回 | 看護問題の明確化、看護計画、実施、評価 | 佐久間 佐織 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第19回 | 機能的健康パターン（健康知覚-健康管理パターン） | 佐久間 佐織 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第20回 | 機能的健康パターン（身体的側面）① | 佐久間 佐織 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第21回 | 機能的健康パターン（身体的側面）② | 佐久間 佐織 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第22回 | 機能的健康パターン（心理・社会的側面） | 佐久間 佐織 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第23回 | 在宅療養者の看護過程の展開 | 川村 佐和子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第24回 | 紙上事例の看護過程の展開① | 佐久間 佐織 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第25回 | 紙上事例の看護過程の展開② グループワーク | 佐久間 佐織 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第26回 | 紙上事例の看護過程の展開③ グループワーク | 佐久間 佐織 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第27回 | 紙上事例の看護過程の展開④ グループワーク | 佐久間 佐織 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------------|---|-----------------|-----------|------|---------------|
| | 第28回 紙上事例の看護過程の展開⑤ グループワーク | 佐久間 佐織 他 | | | |
| | 第29回 紙上事例の看護過程の展開⑥ グループワーク | 佐久間 佐織 他 | | | |
| | 第30回 紙上事例の看護過程の展開⑦、まとめ | 佐久間 佐織 他 | | | |
| アクティブ ラーニング | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修、事前課題をもとに授業を進行する ・講義にはディスカッションが含まれる ・演習はグループで進める。ロールプレイを実施し、お互いにフィードバックをする ・看護過程の紙上事例の展開は、個人ワークののちグループワークを行う | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがある ・授業のリアクションペーパーはWebClassを使用する | | | | |
| 評価方法 | 確認テスト 50% (フィジカルアセスメント) ※再試験までに 60%以上を得点することが単位認定の条件 課題 50% (フィジカルアセスメント 26%、看護過程 24%) | | | | |
| 課題に対する フィード バック | <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題については、教員のコメント記載や授業・WebClassで解説する ・リアクションカードの質問には、次回授業またはWebClassで回答する ・課題はループリックを用いて評価する。ループリックの内容は授業の配付資料に提示する | | | | |
| 指定図書 | 下記参照 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | ヘルスアセスメント (Web 動画付) 改訂第2 版 臨床実践能力を高め る | 三上 れつ 編集 | 南江堂 | 2017 | 9784524257485 |
| | 基礎看護学[2] 基礎看 護技術 I 第 19 版 | 茂野 香おる | 医学書院 | | 9784260049924 |
| 参考図書 | 随時授業で紹介する。 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | 看護がみえる vol. 3 フィジカルアセスメン ト | 医療情報科学研究所 編集 | メディックメディア | 2019 | 9784896327816 |
| | 看護がみえる vol. 4 看護過程の展開 | 医療情報科学研究所 編集 | メディックメディア | 2020 | 9784896328011 |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修：各 40 分 <ul style="list-style-type: none"> ・学修するテキストの該当箇所を熟読、動画を視聴する ・单元ごとに提示された課題に取り組む 事後学修：各 40 分 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、課題に取り組む ・演習で実施した技術のセルフトレーニングを行う ※詳細は、初回ガイダンスで説明する | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | 授業内や事前・事後学修で、下記の URL のオンライン教材を利用する ナーシングスキル https://nursingskills.jp (エルゼビアジャパン) | | | | |
| オフィス アワー | 看護学部 1 号館 6 階 1618 研究室 随時 ※不在の場合は、メール (saori-s@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です | | | | |
| メディア 授業の実施 について | 授業は 2 ～3 の教室や実習室間での同時双方向メディア授業を行う。 单元責任者のファシリテーションのもと担当教員【佐久間佐織】【樫原理恵】【炭谷正太郎】【田口実里】【吉里心希】【早川ゆかり】【有村優範】【橋積亜希子】と準教員が、各実習室に分かれて授業を進行する。 | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|--|---------|----------------------|-------|-----|--------------|-------|-----|--------------|-------|-----|----------|---------|-----|--------|---------|-----|----------------|-------|-----|-------------|-------|-----|---------|---------|-----|---------|---------|------|--------|-------|------|--------|-------|------|--------|-------|------|----------------|---------|------|----------------|---------|------|------------|---------|------|------------|---------|------|---------------------|-------|------|----------|------|------|-----------|---------|------|----------------------------|-------|------|----------------------------|-------|------|---------------------|---------|------|---------------------|---------|------|--------------------|---------|--------------|
| 科目名 | 基礎看護技術Ⅳ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目責任者 | 早川 ゆかり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数他 | 2 単位 (60 時間) 必修 4 セメスター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目概要 | 看護の対象者となる人を生活者としてとらえ、療養生活支援の専門家として、療養者の生命を守り生活の質を向上するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく援助方法を学び修得する。本科目では、診療の補助技術として、呼吸・循環を整える技術、与薬の技術、検査・処置における技術、電法、救命救命処置技術、創傷管理技術について学び修得する。さらに、学修した知識や技術、論理的思考を用いて、対象に合わせた看護援助について考え、議論し、判断・実施できる力を培う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療の補助技術の原理、原則を根拠に基づいて理解できる 2. 診療の補助技術の基本技術を習得できる 3. 診療の補助技術における医療安全を理解し、事故を防ぐ方法を理解できる 4. 対象者の病状・個別性に合わせて、安全・安楽かつ効率的な看護援助を考えることができる 5. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <p><担当教員名>早川ゆかり、佐久間沙織、炭谷正太郎、田口実里、吉里心希、有村優範、橋積亜希子 他</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>科目ガイダンス・診療の補助技術と医療安全</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>呼吸・循環を整える技術①</td> <td>橋積亜希子</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>呼吸・循環を整える技術②</td> <td>橋積亜希子</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>【演習】酸素吸入</td> <td>橋積亜希子 他</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>【演習】吸引</td> <td>橋積亜希子 他</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>診察・検査・処置における技術</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>症状・生体機能管理技術</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>【演習】採血①</td> <td>早川ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>【演習】採血②</td> <td>早川ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>与薬の技術①</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>与薬の技術②</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>与薬の技術③</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>【演習】筋肉注射・皮下注射①</td> <td>早川ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>【演習】筋肉注射・皮下注射②</td> <td>早川ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>【演習】静脈内注射①</td> <td>早川ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>【演習】静脈内注射②</td> <td>早川ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>電法（冷電法—温電法に必要な基礎知識）</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>救命救命処置技術</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>【演習】技術の確認</td> <td>早川ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>創傷管理技術（創傷および褥瘡ケアに必要な基礎知識）①</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>創傷管理技術（創傷および褥瘡ケアに必要な基礎知識）②</td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>【演習】1次救命法・包帯法・湯たんぽ①</td> <td>早川ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第23回</td> <td>【演習】1次救命法・包帯法・湯たんぽ②</td> <td>早川ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第24回</td> <td>【演習】個別性に合わせた看護援助Ⅳ①</td> <td>早川ゆかり 他</td> </tr> </table> | 第1回 | 科目ガイダンス・診療の補助技術と医療安全 | 早川ゆかり | 第2回 | 呼吸・循環を整える技術① | 橋積亜希子 | 第3回 | 呼吸・循環を整える技術② | 橋積亜希子 | 第4回 | 【演習】酸素吸入 | 橋積亜希子 他 | 第5回 | 【演習】吸引 | 橋積亜希子 他 | 第6回 | 診察・検査・処置における技術 | 早川ゆかり | 第7回 | 症状・生体機能管理技術 | 早川ゆかり | 第8回 | 【演習】採血① | 早川ゆかり 他 | 第9回 | 【演習】採血② | 早川ゆかり 他 | 第10回 | 与薬の技術① | 早川ゆかり | 第11回 | 与薬の技術② | 早川ゆかり | 第12回 | 与薬の技術③ | 早川ゆかり | 第13回 | 【演習】筋肉注射・皮下注射① | 早川ゆかり 他 | 第14回 | 【演習】筋肉注射・皮下注射② | 早川ゆかり 他 | 第15回 | 【演習】静脈内注射① | 早川ゆかり 他 | 第16回 | 【演習】静脈内注射② | 早川ゆかり 他 | 第17回 | 電法（冷電法—温電法に必要な基礎知識） | 早川ゆかり | 第18回 | 救命救命処置技術 | 有村優範 | 第19回 | 【演習】技術の確認 | 早川ゆかり 他 | 第20回 | 創傷管理技術（創傷および褥瘡ケアに必要な基礎知識）① | 早川ゆかり | 第21回 | 創傷管理技術（創傷および褥瘡ケアに必要な基礎知識）② | 早川ゆかり | 第22回 | 【演習】1次救命法・包帯法・湯たんぽ① | 早川ゆかり 他 | 第23回 | 【演習】1次救命法・包帯法・湯たんぽ② | 早川ゆかり 他 | 第24回 | 【演習】個別性に合わせた看護援助Ⅳ① | 早川ゆかり 他 | <p>単元責任者</p> |
| 第1回 | 科目ガイダンス・診療の補助技術と医療安全 | 早川ゆかり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2回 | 呼吸・循環を整える技術① | 橋積亜希子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3回 | 呼吸・循環を整える技術② | 橋積亜希子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4回 | 【演習】酸素吸入 | 橋積亜希子 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5回 | 【演習】吸引 | 橋積亜希子 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6回 | 診察・検査・処置における技術 | 早川ゆかり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第7回 | 症状・生体機能管理技術 | 早川ゆかり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第8回 | 【演習】採血① | 早川ゆかり 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第9回 | 【演習】採血② | 早川ゆかり 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第10回 | 与薬の技術① | 早川ゆかり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第11回 | 与薬の技術② | 早川ゆかり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第12回 | 与薬の技術③ | 早川ゆかり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第13回 | 【演習】筋肉注射・皮下注射① | 早川ゆかり 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第14回 | 【演習】筋肉注射・皮下注射② | 早川ゆかり 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第15回 | 【演習】静脈内注射① | 早川ゆかり 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第16回 | 【演習】静脈内注射② | 早川ゆかり 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第17回 | 電法（冷電法—温電法に必要な基礎知識） | 早川ゆかり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第18回 | 救命救命処置技術 | 有村優範 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第19回 | 【演習】技術の確認 | 早川ゆかり 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第20回 | 創傷管理技術（創傷および褥瘡ケアに必要な基礎知識）① | 早川ゆかり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第21回 | 創傷管理技術（創傷および褥瘡ケアに必要な基礎知識）② | 早川ゆかり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第22回 | 【演習】1次救命法・包帯法・湯たんぽ① | 早川ゆかり 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第23回 | 【演習】1次救命法・包帯法・湯たんぽ② | 早川ゆかり 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第24回 | 【演習】個別性に合わせた看護援助Ⅳ① | 早川ゆかり 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------------|---|--------|------|-----|---------------|
| | 第 25 回 【演習】 個別性に合わせた看護援助Ⅳ② | 早川ゆかり | 他 | | |
| | 第 26 回 【演習】 個別性に合わせた看護援助Ⅳ③ | 早川ゆかり | 他 | | |
| | 第 27 回 【演習】 個別性に合わせた看護援助Ⅳ④ | 早川ゆかり | 他 | | |
| | 第 28 回 【演習】 個別性に合わせた看護援助Ⅳ⑤ | 早川ゆかり | 他 | | |
| | 第 29 回 【演習】 個別性に合わせた看護援助Ⅳ⑥ | 早川ゆかり | 他 | | |
| | 第 30 回 【演習】 個別性に合わせた看護援助Ⅳ⑦・まとめ | 早川ゆかり | 他 | | |
| アクティブ ラーニング | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修、事前課題をもとに授業を進行する ・講義にはディスカッションが含まれる ・演習はグループで進める。ロールプレイを実施し、お互いにフィードバックをする | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがある ・授業の出席、リアクションペーパーや事前事後課題は webclass を使用することがある | | | | |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 60% ・課題提出物 30% 事前課題・事後課題など ・技術の確認 10%・・・合格が単位認定の必須条件 | | | | |
| 課題に対する フィード バック | <p>課題については、授業または webclass で解説する</p> <p>リアクションペーパーの質問には、次回授業または webclass で回答する</p> | | | | |
| 指定図書 | 下記参照 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 第 18 版 | 有田 清子 | 医学書院 | | 9784260042123 |
| | 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第 19 版 | 茂野 香おる | 医学書院 | | 9784260049924 |
| | | | | | |
| 参考図書 | 下記参照 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第 11 版 | 坂井 建雄 | 医学書院 | | 9784260046879 |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：学修するテキストの該当箇所を熟読、動画を視聴する。(各 20 分) 単元ごとに提示された課題に取り組む (各 20 分) ・事後学修：授業内容を振り返り課題に取り組む (40 分) 演習で実施した技術のセルフトレーニングを行う <p>※詳細は、初回ガイダンスで説明する</p> | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | <p>授業内や事前・事後学修で、下記の URL のオンライン教材を利用する</p> <p>ナーシングスキル https://nursingskills.jp (エルゼピアジャパン)</p> | | | | |
| オフィス アワー | <p>1 号館 3 階 1306 研究室 メールアドレス：yukari-h@seirei.ac.jp</p> <p>随時 ※不在の場合はメールでご連絡ください</p> | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | <p>本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です</p> | | | | |
| メディア 授業の実施 について | <p>2 教室での遠隔授業を行う場合があります。その場合、単元責任者のファシリテーションのもと、担当教員【早川ゆかり】【佐久間佐織】【炭谷正太郎】【田口実里】【吉里心希】【有村優範】【橋積亜希子】と準教員が、各実習室に分かれて授業を進行する。</p> | | | | |

| | | |
|------------|--|---------------|
| 科目名 | 地域在宅看護学概論 I | |
| 科目責任者 | 山村 江美子 | |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 | |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 | |
| 科目概要 | 地域で暮らす人々が、看護の対象であることを理解する科目である。 様々な年代、様々な健康レベルの人々が暮らす地域・暮らしの場を理解し、地域に暮らす人々を支える看護について学修する。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象を、地域で暮らす人々として捉え、その多様性を理解し説明することができる。 2. 地域で暮らす人々の「健康」について理解し、自分の考えを説明することができる。 3. 地域で暮らす人々に関わる看護職の実践の場が、多様であることを理解する。 4. 暮らしの場で提供される看護の 1 つである、訪問看護の実際を理解することができる。 5. 地域で暮らす人々を支える地域在宅看護について、1 年次における自身の考えを説明することができる。 | |
| 授業計画 | 第 1 回：暮らしの基盤である地域を理解する ・地域とは：エリアとコミュニティ ・地域に暮らす人々に関わる看護職 ・看護職の倫理綱領 日本看護協会 ・事例学修：事例の住む地域を図式化してみよう | 山村江美子 |
| | 第 2 回：地域で暮らすとはどういうことか ・暮らしとは何か ・暮らしを取り巻く環境 ・暮らしを構成するもの・暮らしの多様性 ・暮らしと健康の関係 | 山村江美子 |
| | 第 3 回：地域で暮らす人々の健康を考える ・健康の定義、健康に関する法的根拠 ・障害の定義 ・健康増進に向けた看護の役割 ・事例を通して：健康・安全に生活を続けるために必要なこと | 檜原理恵 |
| | 第 4 回：地域で支えあって生きるとはどういうことか ・システム思考で考える地域包括ケアシステム ・地域包括ケアシステムの 4 つの「助」 ・地域共生社会とは ・自分の暮らす地域について | 山村江美子 |
| | 第 5 回：地域に暮らす人々を理解する ・地域在宅看護の対象 ・地域による多様性 ・ライフステージによる多様性 ・健康レベルの多様性 ・地域在宅看護における家族の理解 ・暮らしを支える看護 ・医療モデルから生活モデルへ | 山村江美子 |
| | 第 6 回：地域在宅における時期別の看護 ・健康な時期の看護 ・外来受診時 ・入院時 ・退院前 ・在宅移行期 | 山村江美子 |
| | 第 7 回：地域で暮らす人々への訪問看護の実際 ・地域在宅看護を担う看護職の 1 つである、訪問看護師の役割と実際 | 訪問看護ステーション看護師 |
| | 第 8 回：地域で暮らす人々・環境を可視化しよう ・個人ワーク（事前課題）について他者との共有 | 山村江美子 |

| | | | | | |
|-----------------|--|----|-----|-----|------|
| アクティブラーニング | 第8回の授業では、事前学修として調べてきたことを学生間で共有を行い、ディスカッションを行います。地域において健康をサポートする施設を把握し、健康を維持しながら生活するということを学修します。 | | | | |
| 授業内のICT活用 | リアクションペーパー、課題レポートの提出は、Web Class を使用して行います。講義時間内に、各自のPCを使用して探索的に課題を実施していきます。 | | | | |
| 評価方法 | 課題レポート80%、リアクションペーパー20% | | | | |
| 課題に対するフィードバック | リアクションペーパーにおいて対応が必要な内容へのフィードバックは、次回の講義の中で説明します。 | | | | |
| 指定図書 | 医学書院 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 参考図書 | MC メディカ出版 地域療養を支えるケア 南江堂 地域・在宅看護論 I 総論 メヂカルフレンド社 地域・在宅看護論 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | 事前事後学修については、講義時間内に説明し提示します。リアクションペーパー記述時には、事後学修を行ってから取り組んでください。 | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 講義後の休憩時間に研究室で待機します。その後は、実習指導のため実習施設へ移動することがあります。メールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 山村江美子 3412 研究室 : emiko-y@seirei.ac.jp、櫻原理恵 1616 研究室:rie-k@seirei.ac.jp | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目担当の山村は、「看護師・保健師」の実務経験を有します。実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | | | | | |

| | | |
|------------|--|---|
| 科目名 | 地域在宅看護学概論Ⅱ | |
| 科目責任者 | 山村 江美子 | |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 4 セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 | |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 | |
| 科目概要 | 人々の暮らしを支える地域在宅看護における療養移行支援、在宅療養、かかわる法制度について理解し、在宅療養者とその家族を支える訪問看護について学ぶ。地域在宅看護は、地域で暮らす人々の健康レベル・ライフステージに合わせて、多様な実践の場において看護が提供されていることを理解する。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域在宅看護における在宅療養者と家族を支える訪問看護の目的と機能、その特徴について説明できる 2. 地域在宅看護にかかわる法制度と、訪問看護制度とその機能を説明できる 3. 地域在宅看護の基本となるケアマネジメントや、多職種連携について理解し説明できる 4. 地域在宅看護における意思決定支援と倫理的課題を理解し説明することができる 5. 地域で暮らす人々を支える地域在宅看護について、自分の考えを説明できる | |
| 授業計画 | <p>第1回：地域在宅看護における時期別の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅ケアの目的 ・訪問看護とは ・訪問看護の目的、機能、特徴 ・在宅療養移行後の時期別看護 <p>第2回：地域在宅看護にかかわる制度とその活用①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療保険制度、介護保険制度 ・地域在宅看護にかかわる医療提供体制 <p>第3回：地域在宅看護にかかわる制度とその活用②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護の制度と機能 ・訪問看護に関する制度（医療保険、介護保険、公費負担制度） ・訪問看護ステーション（仕組み、運営、個人情報保護） <p>第4回：地域在宅看護における訪問看護師の実践と多職種連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護の実際 ・多職種連携、支援のネットワークづくり <p>第5回：地域在宅看護におけるケアマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントの定義と目的 ・多様な場における地域在宅看護マネジメント ・介護保険制度における地域在宅ケアマネジメント・介護支援専門員の業務 <p>第6回：地域・在宅看護過程の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域在宅看護における看護過程の基本 ・地域在宅看護過程の特徴 ・看護過程の展開に必要な枠組み <p>第7回：地域在宅看護支援の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援と倫理的課題 <p>第8回：地域在宅看護における安全をまもる看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での暮らしにおけるリスクの理解 ・地域での暮らしにおける災害対策 ・科目のまとめ | <p>山村江美子</p> <p>小池武嗣</p> <p>山村江美子</p> <p>訪問看護師</p> <p>岩瀬美保</p> <p>岩瀬美保</p> <p>酒井昌子</p> <p>小池武嗣</p> <p>山村江美子</p> |

| | | | | | |
|-------------------------|--|----|-----|-----|------|
| アクティブ ラーニング | 本授業は、学生間のディスカッション等を取り入れて実施します。 | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | Web Class を利用して、リアクションペーパーの提出等を行います。 | | | | |
| 評価方法 | 定期試験 80%、リアクションペーパー 20%、計 100% | | | | |
| 課題に対する フィード バック | 事前事後学習およびリアクションペーパーにおいて、必要な内容について次回の講義の中で説明します。 | | | | |
| 指定図書 | 医学書院 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 参考図書 | MC メディカ出版 在宅療養を支える技術 南江堂 地域・在宅看護論Ⅱ メヂカルフレンド社 在宅看護技術 第4版 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | 授業後に Web Class に掲載したリアクションペーパーの内容について、事後学修を実施して復習を行うこと（各 40 分 8 回）。 | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | | |
| オフィス アワー | 講義終了後の休憩時間に研究室に待機します。臨地実習指導の実習施設へ移動することが多くなるのでメールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 山村江美子 (3412 研究室) emiko-y@seirei.ac.jp、小池武嗣 (1607 研究室) takeshi-k@seirei.ac.jp、岩瀬美保 (3413 研究室) miho-i@seirei.ac.jp、酒井昌子 (3410 研究室) masako-s@seirei.ac.jp | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「地域・在宅看護、臨床看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア 授業の実施 について | | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 地域包括ケア看護論 |
| 科目責任者 | 酒井 昌子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 3セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々が、医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるようになるための地域包括ケアシステムについて、その概念や実際の生活・支援について学び、地域に暮らす生活者の視点から看護の役割・機能について考える。 |
| 到達目標 | 1. 地域包括ケアシステムの概念や基本的な考えを理解できる。 2. 健康上のニーズを抱えながら地域で暮らす人々における多様な生活を理解できる。 3. 住み慣れた地域で今後も自分らしく暮らし続けるための自助・互助・共助・公助について理解できる。 4. 今後も地域で暮らし続けることを希望する事例について、生活者の視点から地域包括ケアについての理解を深め、その中での看護の役割・機能について考えることができる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 酒井昌子、宮谷 恵、小平朋江、黒野智子、岩瀬美保、河野貴大、加藤貴子</p> <p>第1回：科目オリエンテーション / 地域包括ケアシステムとは <酒井></p> <p>第2回：地域で暮らす人々の多様な生活① (健康課題を持つ成人) <岩瀬・河野></p> <p>第3回：地域で暮らす人々の多様な生活② (妊産婦・障がい児) <黒野・宮谷></p> <p>第4回：地域で暮らす人々の多様な生活③ (精神障がい者・認知症高齢者) <小平・加藤></p> <p>第5回：地域で暮らす人々の多様な生活④ (地域共生社会) <酒井></p> <p>第6回：地域包括ケアの実際 ① ゲストスピーカー 池谷直士 ・身体障害を抱えながらの生活・社会活動について</p> <p>第7回：地域包括ケアの実際 ② ゲストスピーカー 滝川八千代 ・高次脳機能障害を抱えながらの生活・家族支援について</p> <p>第8回：地域包括ケアの実際 ③ ゲストスピーカー 久保田 翠 ・知的障がい者自立支援について</p> <p>第9回：地域包括ケアにおける事例学習 (PBL) <担当教員全員> ・オリエンテーション (PBLによる事例学習のすすめ方) / ・中間テスト</p> <p>第10・11回：地域包括ケアにおける事例学習 (PBL) ①② <担当教員全員> ・事例の生活の理解1 / ・事例の生活の理解2</p> <p>第12・13回：地域包括ケアにおける事例学習 (PBL) ③④ <担当教員全員> ・支援についての理解1 / ・支援についての理解2</p> <p>第14回：地域包括ケアにおける事例学習 (PBL) ⑤ 学びの発表 <担当教員全員></p> <p>第15回：地域包括ケアシステムにおける看護の機能と役割 ゲストスピーカー ケアマネジャー ・まとめ <担当教員全員></p> |
| アクティブラーニング | 本授業は、ディスカッションやPBLによる課題解決学習を取り入れて実施します。 |
| 授業内のICT活用 | WebClass を用いて、投票や質問・疑問への回答など双方向で授業を行います。 地域包括ケアにおける事例学習 (PBL) では ICT を活用して自ら課題への学習を進めたり、グループの事例学習の共有をします。 |
| 評価方法 | 第1～5回授業の事後提出物 20%、第6～8回、15回のゲストスピーカーによる講義の小レポート 20%、第10～14回PBLへの取り組みと最終レポート 50%、中間テスト 10%、地域包括ケアにおける事例学習 (PBL) および小レポートは、ルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します (WebClass に掲載)。 |
| 課題に対するフィードバック | 毎回の授業での質問については、WebClass 掲示板への記載や次回授業で全体に対して回答します。また資料等も随時 WebClass にアップします。 PBLにおいては、各グループの担当教員がその都度、質問に対応します。事例学習の発表においても講評を述べ、全体にフィードバックします。 |

| | | | | |
|-----------------|---|-----|-----|------|
| 指定図書 | 指定図書はありません。 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 参考図書 | <p>他科目の指定図書を活用してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域在宅看護学概論 I (2セメ) : 地域在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤, 第6版, 河原加代子, 医学書院. 2. 公衆衛生看護学概論 (2セメ) : 公衆衛生看護学概論, 第6版, 標 美奈子, 医学書院. 3. 社会福祉概論 (2セメ) : よくわかる社会福祉, 第11版, 山縣 文治, ミネルヴァ書房. 4. 保健医療行政論 (3セメ) : 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 改訂版, 福田 素生, 医学書院. | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 事前・事後学修 | <p>【1～5回目の授業】 事前学修内容を、WebClass タイムラインに提示するので各自取り組んで授業に臨んでください。関連する科目として、1年次の地域在宅看護学概論 I、家族関係論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学実習 I、2年次春 semester に同時進行する社会福祉概論、保健医療行政論の学修が役立ちます。各科目の講義資料、テキストを参考にしてください。事後学修は、配布資料等を見直し、わからなかったことを調べて学びを定着させて下さい。また、第1回の授業で提示した「基本用語学習」について、各自、課題に取り組むようにしてください。その内容から中間テストを出題します。事後学修内容は、第9回目以降の「地域包括ケアにおける事例学習 (PBL)」において必要になる内容です。(1時限あたり 20分程度)。</p> <p>【6～8回目の授業】 事前学修内容を、WebClass タイムラインに提示するので、各自取り組んで授業に臨みましょう (1時限あたり 10分程度)。事後学修はゲストスピーカーによる講義を受けて「地域包括ケアの実例の話を受けての学び」について、小レポートを作成してください(1時限あたり 30分程度)。</p> <p>【9～15回目の授業】 事前学修としては、WebClass に示した「地域包括ケアにおける事例学習 (PBL)」の事前資料を読み、学習目標を理解して参加する。学習に必要な参考図書や文献・資料を自分で選択し、グループでの自己学習成果の報告にむけた準備を行う。(1時限あたり 20分程度)。事後学修としては、事例展開の中の不明点についてグループや個人で調べ、次回の PBL に報告し、グループの事例に活用し展開を進めていきます。(1時限あたり 20分程度)。</p> | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | 事前事後学修やグループ学習の教材として厚生労働省、浜松市、日本看護協会等の公的機関のホームページ、ゲストスピーカーが紹介された活動に関する URL を紹介します。 | | | |
| オフィスアワー | <p>詳細は初回授業時に提示します。実習や会議により変更の可能性もあるため、事前に e-mail で連絡してください。</p> <p>科目責任者：酒井昌子 (看護学部・在宅看護学) 3410 研究室 : masako-s@seirei.ac.jp (月曜 12-13 時は比較的在室)</p> <p>科目担当者：宮谷 恵 (看護学部・小児看護学) 1713 研究室 : megumi-m@seirei.ac.jp 黒野智子 (看護学部・母性看護学) 1709 研究室 : tomoko-k@seirei.ac.jp 小平朋江 (看護学部・精神看護学) 3401 研究室 : tomoe-k@seirei.ac.jp 河野貴大 (看護学部・成人看護学) 1683 研究室 : takahiro-k@seirei.ac.jp 岩瀬美保 (看護学部・在宅看護学) 3413 研究室 : mihi-i@seirei.ac.jp 加藤貴子 (看護学部・老年看護学) 1727 研究室 : takako-k@seirei.ac.jp</p> | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師・保健師・助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | 10～14 回のグループ学習は 3 教室間で同時双方向型メディア授業を行います。 | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 地域在宅看護援助論 |
| 科目責任者 | 小池 武嗣 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 地域に暮らす「生活者」を支える看護の特性を理解するために、地域における様々な場において提供される看護を具体的に学ぶ。暮らしを支える看護技術を学び、事例演習を通して地域在宅看護過程の展開を理解する。地域在宅看護の対象である、生活者とその家族のセルフケア機能が発揮される看護援助のあり方を学修する。 |
| 到達目標 | 1. 在宅看護過程の展開方法を学び、生活の場ならではの視点を理解し、説明することができる。 2. 生活の場における看護実践の特性と、訪問看護技術を理解し、説明することができる。 3. 療養者・家族の健康段階にあわせた看護職の支援のあり方と役割について理解し、説明することができる。 |
| 授業計画 | 第 1 回 オリエンテーション 在宅における看護展開 看護過程の展開に必要な枠組み 小池・岩瀬 第 2 回 地域在宅看護における安全をまもる看護 小池 第 3 回 慢性疾患を抱える在宅療養者と家族における在宅療養支援 岩瀬 第 4 回 在宅における小児看護の実際医療的ケア児の看護 宮谷 第 5 回 在宅における基本的生活行動支援 小池 第 6 回 医療処置管理が必要な療養者の看護 小池 第 7 回 在宅における終末期の看護 酒井 第 8 回 在宅における難病療養者への看護難病とは 山村 |
| アクティブラーニング | 講義において積極的に事例を活用し、学生間のディスカッションを行います。ノートパソコンの持ち込みを認め、分からないこと等はその場で探求することも促します。 |
| 授業内の ICT 活用 | リアクションペーパーの提出は、Web Class を使用して行います。講義終了後の小テストも、Web Class を使用します。 |
| 評価方法 | ◆各講義 小テスト 70% ◆リアクションペーパー30% |
| 課題に対するフィードバック | 事前事後学修およびリアクションペーパーにおいて、対応が必要な内容へのフィードバックについては、次回の講義の中で説明します。 |

| | | | | |
|----------------------------------|---|------|-----|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第6版 | 河原 加代子 | 医学書院 | | 9784260046893 |
| 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第6版 | 河原 加代子 | 医学書院 | | 9784260047142 |
| | | | | |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 講義後に webClass 内の事後学修 (小テスト) に取り組んでください。リアクションペーパーも、しっかり記述して事後学修に活かしましょう。(事前・事後学修 40 分程度になります)。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | 講義・事例演習終了後の休憩時間に研究室で待機します。その後は実習指導のため実習施設へ移動することが多くあります。メールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 小池 武嗣 (1607 研究室) : takeshi-k@seirei.ac.jp | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「地域・在宅」看護の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 地域在宅看護援助論演習 |
| 科目責任者 | 岩瀬 美保 |
| 単位数他 | 1 単位 (30 時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP4 専門 |
| 科目の位置付 | 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探索し、多面的に考察することができる。 |
| 科目概要 | <p>本科目は、既習学修内容を基盤に、地域在宅看護援助論と連動して進められ、地域在宅看護学実習に繋がる科目です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域在宅看護学の既習した知識を統合し、在宅看護の実際に基づき、地域在宅看護に必要な知識・技術について演習を通して学修します。 ・地域在宅看護における看護過程の特徴を踏まえ、紙上事例を通し、情報収集・アセスメント・計画立案・実施評価の一連の流れを学修します。 ・事例に基づき生活の場で必要となる生活援助、医療的ケア、コミュニケーション、訪問マナーなど具体的な技術を学修します。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の展開において、多角的な視点から療養者とその家族をアセスメントすることができる 2. 看護過程の展開において、療養者や家族の望む生活を考慮した看護問題の優先順位を考慮することができる 3. 看護過程の展開において、療養者やその家族の生き方や将来への展望を理解し、つよみをいかした目標を設定できる 4. 在宅での看護技術の特徴を理解し、在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を考慮することができる 5. 訪問看護のマナーを理解し、実習に必要な作法・コミュニケーション方法を身に付けることができる |
| 授業計画 | <p>【演習室・看護過程の展開】 岩瀬・酒井・山村・小池 全 15 回担当</p> <p>第 1 回：事例演習オリエンテーション、看護過程の展開 ・5 人のグループ編成 ・演習事例(COPD)の説明と地域在宅看護過程の特徴についての講義</p> <p>第 2 回：看護過程の展開 個人ワーク 事例の情報整理とアセスメント</p> <p>第 3 回：看護過程の展開 グループワーク 事例の情報整理、課題抽出、優先順位の決定</p> <p>第 4 回：看護過程の展開 グループワーク 状況関連図の作成</p> <p>第 5 回：看護過程の展開 グループワーク 目標設定・看護計画の立案</p> <p>第 6 回：看護過程の展開 グループワーク 「看護過程の展開」グループ発表の準備</p> <p>第 7 回：看護過程の展開 グループ発表・ディスカッション</p> <p>第 8 回：看護過程の展開 まとめ</p> <p>【地域実習室においてシミュレーション演習】</p> <p>第 9 回：オリエンテーション：コミュニケーション技法と訪問看護マナーの動画を視聴 看護過程の展開で用いた事例から、必要となる看護技術を交え、各グループでロールプレイを実施</p> <p>第 10 回：ロールプレイ演習・実技</p> <p>第 11 回： 1 グループ 5 人 本人・療養者・家族・観察者となりロールプレイを行う</p> <p>第 12 回： ・訪問看護のマナーをふまえ、挨拶、実技をとりいれる ・「対話」の技術を学ぶ ・全体共有とまとめ</p> <p>第 13 回：実習準備、各施設の特徴を知り実習目標を明確にする、「訪問看護の実際」動画視聴</p> <p>第 14 回：試験 (WEB クラス上で実施)</p> <p>第 15 回：総括・まとめ</p> |

| | | | | | |
|-------------------------|--|----|-----|-----|------|
| アクティブ ラーニング | 本授業は、ディスカッション・グループワーク・シミュレーションを取り入れ実施します。 | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | ICT を利用してディスカッションおよびプレゼンテーションを行うことがあります。 Web class を利用し、試験・出席管理・提出物管理をします。 | | | | |
| 評価方法 | 在宅看護過程演習ワークブック提出物 30%、リアクションペーパー20%、演習への参加姿勢・ 取り組み態度 30%、試験 20% グループワークによるアクティブラーニングはルーブリックを用いて評価します。 ルーブリックは初回授業時に提示します。 | | | | |
| 課題に対する フィード バック | 看護過程演習ワークブックは、担当教員が内容を確認し、提出物へのコメント及び演習中の解 説によりフィードバック します。 授業へ寄せられた質問は Web class やGメールを用いて回答します。 | | | | |
| 指定図書 | なし | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 参考図書 | 地域在宅看護論 1.2 医学書院 看護がみえる5 対象の理解 メディックメディア | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修：介護保険制度とその他在宅療養に関する法と制度の復習（障害者総合支援、難病 など） 訪問看護の実際としてマナー、コミュニケーションに関する映像の視聴 地域在宅看護概論Ⅰ、Ⅱ、地域在宅看護援助論の講義内容の復習 | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | | |
| オフィス アワー | 科目責任者：岩瀬美保（3413 研究室）miho-i@seirei.ac.jp 学外での実習指導に従事して いることが多いため、メールでの連絡をお願い致します。 酒井昌子（3410 研究室）：masako-s@seirei.ac.jp 山村江美子（3412 研究室）：emiko-y@seirei.ac.jp 小池武嗣（1607 研究室）：takeshi-k@seirei.ac.jp | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 成人看護学概論 |
| 科目責任者 | 大石 ふみ子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 4セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 成人期の特徴をふまえ、家庭や職場・地域社会でさまざまな役割をもつ人々の生活および健康、健康障害に対する理解を深め、成人期にある人々を支援する看護について学修する。 また、見病期、急性期、慢性期、終末期という連続する健康レベルごとに、成人の身体的、心理的な反応について解剖学・生理学・疾病・治療学などと関連付けて理解を深める。急性期・慢性期を中心とした健康レベルごとに代表的な疾患を取り上げ、成人に及ぼされる影響・特徴的な看護問題と援助について学ぶ。 |
| 到達目標 | 1. 成人期にある人々の成長・発達過程および各期の特徴、発達課題を説明できる。 2. 成人期に生じやすい健康問題を人々の生活習慣と関連づけて説明できる。 3. 成人期の人々の心身の反応と健康や健康問題に対する看護の特徴について概念を用いて説明できる。 4. 健康レベルごとに成人の身体的、心理的反応について解剖学・生理学、疾病・治療学などと結びつけて説明し、成人に及ぼされる影響と、特徴的な看護問題と援助について説明できる。 |
| 授業計画 | <p>【成人期の特徴と今日の社会】</p> <p>第1回：科目オリエンテーション 成人看護学の構成 成人の発達、成人の特徴 大石ふみ子</p> <p>第2回：成人を取り巻く社会環境と成人の生活 成人の健康の動向と特徴的健康問題、保健・医療・福祉政策 成人を取り巻く社会環境と成人の生活 藤浪千種</p> <p>【重篤な健康レベルにある人へのケア】</p> <p>第3回：侵襲的治療を受ける患者の生体反応・心理反応 藤浪千種 第4回：術前・術中看護 藤浪千種 第5回：術後看護①術直後から急性期における看護 乾 友紀 第6回：術後看護② 回復期から社会復帰における看護 乾 友紀</p> <p>【慢性的な病とともに生きる人へのケア】</p> <p>第7回：糖尿病（代表的慢性疾患）の病態と治療 水島史乃 第8回：2型糖尿病を持つ人の病のプロセス 症状と合併症・療養プロセス 和田由樹 第9回：2型糖尿病を持つ人の療養行動への働きかけ 自己効力感・健康信念モデル 和田由樹 第10回：2型糖尿病を持つ人の療養行動への働きかけ セルフケア・セルフマネジメント 和田由樹 第11回：2型糖尿病を持つ人の療養行動への働きかけ セルフマネジメント能力を高める看護 和田由樹</p> <p>【がんとともに生きる人へのケア】</p> <p>第12回：がん集学的治療を受ける人への看護① 大石ふみ子 がん疾患の特徴・症状 ストレス・コーピングと危機 第13回：がん集学的治療を受ける人への看護② 水島史乃 がん治療と有害事象・看護 第14回：がんとともに生きる人の病のプロセス 大石ふみ子 意思決定支援 第15回：がんとともに生きる人へのケア 大石ふみ子 症状緩和・疼痛緩和・看取り 水島史乃</p> |

| | | | | |
|---------------------------------------|---|-----------|------|---------------|
| アクティブ ラーニング | なし | | | |
| 授業内の ICT 活用 | 出席確認、リアクションペーパー提出、および小テストはWeb Class を活用する。 | | | |
| 評価方法 | 定期試験 90%、リアクションペーパー10%で評価する。 授業過程における提出物不備（リアクションペーパー含む）や提出期限が遅れた場合、減点されます。 | | | |
| 課題に対する フィード バック | 事前課題や授業中の提出物について、講義の中で解説します。意見や疑問は、適宜、授業中やリアクションペーパーで受け、授業中の解説やWebclass 上でフィードバックしていきます。 定期試験に関しては、試験結果公表後に個別に質問を受け付けます。 | | | |
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 成人看護学1 成人看護学概論・成人保健 7版 | 黒江 ゆり子 | メヂカルフレンド社 | 2021 | 9784839233846 |
| 成人看護学 急性期看護 I 概論・周手術期看護 (改訂第4版) | 林直子 | 南江堂 | 2023 | 9784524232314 |
| 成人看護学 慢性期看護 (改訂第4版) | 鈴木久美 | 南江堂 | 2023 | 9784524234363 |
| 周術期の臨床判断を磨くI 第2版 | 鎌倉 やよい | 医学書院 | | 9784260050777 |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・ 事後学修 | 既習の生涯発達心理学や解剖学、生理学、代謝栄養等の授業内容を復習し、よく理解した上で授業に臨んで下さい。 予習として指定された教科書のページを読んでくること（約20分）、授業後には、学修した内容を成人期にある自分自身や家族の状況と照らし合わせ、講義で学んだことを具体的なイメージとして理解しながら授業内容のノートを整理（約25分）してその後の学修や実習で活かせるような学修を習慣としてください。 | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | |
| オフィス アワー | 臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。 大石ふみ子 : 1219 研究室 : fumiko-o@seirei.ac.jp 藤浪 千種 : 1208 研究室 : chigusa-f@seirei.ac.jp 和田 由樹 : 1213 研究室 : yuki-wd@seirei.ac.jp 乾 友紀 : 1217 研究室 : yuki-i@seirei.ac.jp 水島 史乃 : 1212 研究室 : fumino-m@seirei.ac.jp | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア 授業の実施 について | 対面授業を原則とします。 | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 急性期看護援助論 |
| 科目責任者 | 藤浪 千種 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 手術療法が対象にもたらす身体・心理・社会的影響を理解し、周術期にある対象の予防的な看護や回復を促進する看護を学修する。また、集中治療を受ける患者や救急治療を受ける患者への看護を学修する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術療法（手術療法を中心とした集学的治療を含む）が対象にもたらす身体・心理・社会的影響が説明できる。 2. 手術療法をうける患者の生命維持、合併症予防、回復促進、生活を再構築するために必要な看護が説明できる。 3. 患者を支える医療チームやシステム、地域の多様な資源を活かした継続看護が説明できる。 4. 集中治療を受ける患者、救急治療を受ける患者の看護が説明できる。 |
| 授業計画 | <p>第1回 手術を受ける患者の看護① 排泄機能の再確立（大腸・腎臓・前立腺） 寺田康祐</p> <p>第2回 手術を受ける患者の看護② 排泄機能の再確立（大腸・腎臓、前立腺） 寺田康祐</p> <p>第3回 手術を受ける患者の看護③ 摂取機能の再確立（食道、胃、肝臓、膵臓） 藤浪千種</p> <p>第4回 手術を受ける患者の看護④ 摂取機能の再確立（食道、胃、肝臓、膵臓） 藤浪千種</p> <p>第5回 手術を受ける患者の看護⑤ 呼吸機能の再確立（肺、縦隔）、集中治療 大石ふみ子</p> <p>第6回 手術を受ける患者の看護⑥ 生殖機能の再確立（乳房、子宮、卵巣） 大石ふみ子</p> <p>第7回 手術を受ける患者の看護⑦ 運動機能の再確立（脊椎、股関節、膝関節） 乾 友紀</p> <p>第8回 救急医療・救急看護、救命救急処置と生命維持 乾 友紀</p> |
| アクティブラーニング | ICT 機器を用いて、授業内の質問への対応や学生・教員間の情報共有・意見交換を行います。 |
| 授業内のICT活用 | ICT 機器を用いて、授業内での理解度確認や意見交換を行う双方向型授業を実施します。 |
| 評価方法 | 評価は各授業で提出するリアクションシート（40%）と事後テスト（60%）で行います。 |
| 課題に対するフィードバック | 授業に関する質問・意見には、授業内またはWebclass で回答します。 |

| | | | | |
|---------------------------------------|--|-----|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 成人看護学 急性期看護 I 概論・周手術期看護 (改訂第4版) | 林直子 | 南江堂 | 2023 | 9784524232314 |
| 成人看護学 急性期看護 II クリティカルケア | 佐藤まゆみ | 南江堂 | 2023 | 9784524232888 |
| 参考図書 | <ul style="list-style-type: none"> ・エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 第3版：阿部敏子（監）、山本則子他（編）、中央法規出版、2024. ・その他下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 成人看護学 成人看護技術 [Web 動画付] (改訂第3版) | 野崎真奈美 | 南江堂 | 2022 | 9784524229543 |
| 事前・事後学修 | <p>【事前学修】(各授業回 30 分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の授業回該当するページを読み気になることや分からないことなどを調べた上で講義に参加してください。 <p>【事後学修】(各授業回 30 分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を再確認し理解が不十分な点を再学修してください ・教科書の章やテーマの最後に提示されている「練習問題」に取り組みましょう。 ・教科書内の引用文献を調べたり、各自の課題や興味関心に沿った学修を主体的に行いましょう。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | <p>事前事後学修として以下のオンライン教材を活用してください。</p> <p>①ビジュランクラウド (医学映像教育センター) https://seirei.visualearn.jp/p/php/login.php</p> <p>②成人看護学 成人看護技術, 南江堂 のWeb 動画</p> | | | |
| オフィスアワー | <p>会議・実習など不在の場合がありますので、メールで事前に連絡をください。</p> <p>藤浪千種 : chigusa-f@seirei.ac.jp (1208 研究室) 大石ふみ子 : fumiko-o@seirei.ac.jp (1219 研究室) 乾友紀 : yuki-i@seirei.ac.jp (1217 研究室) 寺田康祐 : kousuke-t@seirei.ac.jp (1608 研究室)</p> | | | |
| 実務経験に関する記述 | <p>本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p> | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 急性期看護援助論演習 |
| 科目責任者 | 乾 友紀 |
| 単位数他 | 1 単位 (30 時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP4 専門 |
| 科目の位置付 | 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。 |
| 科目概要 | 急性期にある患者（特に周術期）とその家族の特徴を理解したうえで、急性期における紙上事例を活用し、看護過程を展開する方法およびその看護実践についてアクティブラーニングやシミュレーションを活用した方法を中心に学修する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術療法を受ける患者とその家族の特徴を理解し、説明できる。 2. 周術期における紙上事例から系統的に情報収集し、情報の解釈・分析・統合によって看護上の問題を導くことができる。 3. 患者の個別性を踏まえた重点的なアセスメントから看護上の問題を明確化できる。 4. 看護上の問題を解決するための個別的で具体的な看護計画を立案できる。 5. 患者の看護問題に基づき、周術期場面における個別性を踏まえた必要な看護援助が実践できる。 |
| 授業計画 | <p>担当教員：乾友紀、大石ふみ子、藤浪千種、寺田康祐、石川小雪</p> <p>第1・2回 オリエンテーション 【グループ学修】情報の整理・解釈・統合（系統的アセスメント）</p> <p>第3・4回 【グループ学修】関連図の作成、看護問題の抽出</p> <p>第5回 【グループ学修】重点アセスメント</p> <p>第6回 【グループ学修】看護計画の立案</p> <p>第7・8回 【シミュレーション演習①】術前オリエンテーション・術前訓練</p> <p>第9・10回 【シミュレーション演習②】術後の観察</p> <p>第11・12回 【グループ学修】観察結果に基づくアセスメント、経過記録</p> <p>第13・14回 【シミュレーション演習③】離床への援助</p> <p>第15回 まとめ</p> |
| アクティブラーニング | <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の授業内容はアクティブラーニングやシミュレーションが中心であり、積極的な学修姿勢が求められます。 ・課題は授業の進行に伴い、適宜提示されます。各自に与えられた課題を十分に学修する必要があります。 ・適宜、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れて実施します。 |
| 授業内のICT活用 | ICT 機器を利用した意見交換や発表を行うことがあります。具体的な方法は授業でお知らせします。 |
| 評価方法 | <p>授業への参加度 20%、看護過程演習レポート 40%、シミュレーション課題・振り返りレポート 30%、事前学修課題（ワークブック）10%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての項目はルーブリックにより評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します。 |
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ・寄せられた質問は授業中に解説を行うほか、適宜 WebClass やメールを用いて回答します。 |

| | | | | |
|--|---|-----------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 成人看護学 急性期看護 I 概論・周手術期看護 (改訂第4版) | 林直子 | 南江堂 | 2023 | 9784524232314 |
| 周術期の臨床判断を磨く I 第2版 | 鎌倉 やよい | 医学書院 | | 9784260050777 |
| 成人看護学 成人看護技術 [Web 動画付] (改訂第3版) | 野崎真奈美 | 南江堂 | 2022 | 9784524229543 |
| 参考図書 | ナーシンググラフィカ EX シリーズ (呼吸器、循環器、消化器、運動器、腎/泌尿器/内分泌・代謝、女性生殖器) など メディカ出版 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 実践に役立つ看護過程と看護診断 ヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開 第2版 | 三上 れつ 著 | ヌーヴェルヒロカワ | 2001 | 9784902085549 |
| 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第18版 | 茂野 香おる | 医学書院 | | 9784260042116 |
| 周術期看護ぜんぶガイド 急性期実習に使える! 必要な知識アセスメント技術 オールカラー | 北島泰子/著 中村充浩/著 | 照林社 | 2020 | 9784796524988 |
| 成人看護学 急性期看護 II 救急看護・クリティカルケア改訂第3版 | 佐藤 まゆみ 編集 | 南江堂 | 2019 | 9784524241644 |
| 事前・事後学修 | <p>本科目は、成人看護学概論、急性期看護援助論の学修内容を前提とし、次の急性期看護学実習とも連動する非常に重要な科目です。また、1・2年次に学修してきた知識、技術が基盤となります。看護過程演習にあたっては、慢性看護援助論演習と連動しています。授業開始前に事前学修課題を提示します。事例を理解するための知識の学修(4~5時間程度)や2年生で学修した看護過程の復習(2~3時間程度)を授業の進捗に合わせて計画的に取り組んでください。また、成人看護学概論で配布するワークブックを事前学修課題として取り組み、提出してください。その他、必要な事前課題は適宜アナウンスします。</p> | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | <p>事前事後学修として以下のオンライン教材を活用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジュランクラウド (医学映像教育センター) https://seirei.visualearn.jp/p/php/login.php ・成人看護学 成人看護技術, 南江堂 のWeb 動画 | | | |
| オフィスアワー | <p>会議・実習など不在の場合がありますので、メールで事前に連絡をください。 乾友紀: yuki-i@seirei.ac.jp (1217 研究室) 大石ふみ子: fumiko-o@seirei.ac.jp (1219 研究室) 藤浪千種: chigusa-f@seirei.ac.jp (1208 研究室) 寺田康祐: kousuke-t@seirei.ac.jp (1608 研究室) 石川小雪:</p> | | | |
| 実務経験に関する記述 | <p>本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p> | | | |
| メディア授業の実施について | <p>対面授業を原則とします。</p> | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 慢性看護援助論 |
| 科目責任者 | 和田 由樹 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 慢性疾患を有する人と家族が、セルフマネジメントを行いながらその人らしい生活を送るための援助の基盤となる、疾患と治療に関する知識および理論・概念を活用した基本的な看護について学修する |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 慢性看護において重要な慢性疾患の病態・症状・治療と、それにより起こる身体・心理・社会的影響を考え、生活上の変化について理解できる 慢性疾患を有する人と家族へのセルフマネジメントを促進する基本的な援助方法について理解できる 慢性疾患を有する人に関わる専門職とチーム医療の重要性について理解できる 必要な看護について他者が理解できるよう論理的に伝える力を修得する |
| 授業計画 | 1 回 科目オリエンテーション／慢性看護について／慢性看護援助論演習について 2 回 担当疾患について最終資料確認・内容の共有 3 回 【グループでの演習】グループワーク 教員がチューターとして参加する 4 回 【グループでの演習】グループワーク 教員がチューターとして参加する 5 回 【全体共有】2 疾患（虚血性心疾患・慢性腎臓病） グループで作成した講義内容資料を用いて講義をする 6 回 【全体共有】2 疾患（脳卒中・糖尿病） グループで作成した講義内容資料を用いて講義をする 7 回 【全体共有】2 疾患（肝硬変・慢性閉塞性肺疾患） グループで作成した講義内容資料を用いて講義をする 8 回 客観テスト／まとめ |
| アクティブラーニング | ラーニングピラミッドに基づいたアクティブラーニング |
| 授業内の ICT 活用 | webclass でのアンケートや課題提出、出欠管理を行います |
| 評価方法 | 筆記試験、レポート、グループワークへの参加度および個人学習資料等で評価を行います レポートについては、ルーブリックを用いた評価は行いません グループワークへの参加度および個人学習資料等については、ルーブリックを用いて評価を行います 【評価方法ごとの配分】 筆記試験（75%） レポート（10%） グループワーク参加度および個人学習資料等（15%） |
| 課題に対するフィードバック | 質問等への回答は Web Class あるいは講義内にフィードバックします |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | 黒江ゆり子編 成人看護学①『成人看護学概論／成人保健』メジカルフレンド社, (最新版) 2021年12月:第7版 鈴木久美, 旗持知恵子, 佐藤直美編 成人看護学『慢性期看護』病気とともに生活する人を支える 南江堂, 改訂第4版, 2023 | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | 今まで履修した科目で、本科目に関連する図書など | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | 1 単位 (15 時間) の科目です 1 単位の授業科目は 45 時間分の学修が必要なため、 講義・演習を除き、各自事前・事後学修は約 30 時間分必要です | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | | | | | |
| オフィスアワー | 和田由樹: 1213 研究室 yuki-wd@seirei.ac.jp 水島史乃: 1215 研究室 fumino-m@seirei.ac.jp 河野貴大: 1608 研究室 takahiro-k@seirei.ac.jp 山崎淑恵: 1216 研究室 yoshie-ya@seirei.ac.jp 長山有香理: 1606 研究室 yukari-na@seirei.ac.jp 実習や会議等により不在の可能性もあるため、事前に各教員に E-mail で連絡をいただけますとありがたいです | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 慢性看護援助論演習 |
| 科目責任者 | 山崎 淑恵 |
| 単位数他 | 1 単位 (30 時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP4 専門 |
| 科目の位置付 | 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。 |
| 科目概要 | 慢性疾患を有する人の特徴や対象のセルフマネジメント能力を高めるための看護について理解したうえで、臨床事例を用いた看護過程の展開と治療を受ける患者に対する看護実践をアクティブラーニングやシミュレーションによって学修する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患を有する人の看護過程に関わる基本的知識を理解できる。 2. 臨床事例について、ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いて看護に必要な情報を系統的に収集・解釈・分析・統合できる。 3. 対象の情報を解釈・分析・統合をした上で、看護問題を明確化できる。 4. 対象の状況をアセスメントし、具体的な看護計画の立案および評価・修正ができる。 5. シミュレーション演習などを通して、健康障害をもつ成人の治療や療養を支えるための看護技術を理解し、実践できる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>山崎淑恵、和田由樹、水島史乃、河野貴大、長山有香理</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 看護過程演習【講義：看護過程】</p> <p>第3・4回 看護過程演習【系統別アセスメント・関連図・看護問題の抽出】 〈個人学修＋グループ学修〉</p> <p>第5・6回 看護過程演習【重点アセスメント・看護問題の明確化】 〈個人学修＋グループ学修〉</p> <p>第7～9回 看護過程演習【看護計画立案】〈個人学修＋グループ学修〉</p> <p>第10回 看護過程演習【看護計画の評価／修正】〈グループ学修〉</p> <p>第11・12回 シミュレーション演習【対話】 グループ演習【健康管理実践】</p> <p>第13・14回 ME 機器・輸液管理演習</p> <p>第15回 慢性看護援助論演習まとめ</p> |
| アクティブラーニング | <ul style="list-style-type: none"> ・本科目はアクティブラーニングを取り入れた授業であり、各自に与えられた課題を十分に学修する必要があります。受講に際して積極的な学修姿勢が求められます。 ・本科目ではディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れて学修を進めます。 |
| 授業内のICT活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT を利用してディスカッションおよびプレゼンテーションおよび学びのシェアリングを行うことがあります。具体的な具体的な方法は授業でお知らせします。 ・Web class を利用し、提出物管理や出欠確認をします。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングへの参加 10%、看護過程演習レポート 60%、シミュレーション演習 5%、課題レポート 10%、ME 機器演習レポート 10%、事前学修課題 5% 〈計 100%〉 ・看護過程演習はルーブリックを用いて評価を行います。ルーブリックは授業内で提示します。 |
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程レポートは、担当教員が内容を確認し、提出物へのコメント等によりフィードバックします。 ・授業へ寄せられた質問は講義で解説を行うほか、適宜 Web class やメールを用いて回答します。 |

| | | | | |
|--|---|-----------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 成人看護学 慢性期看護 (改訂第4版) | 鈴木久美 | 南江堂 | 2023 | 9784524234363 |
| 参考図書 | <ul style="list-style-type: none"> ・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②, 医学書院 (購入済) ・加納 隆他：ナースのためのME 機器マニュアル 第2版, 医学書院 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 実践に役立つ看護過程 と看護診断 ヘンダー ソン・ゴードンのデー タベースに基づく事例 展開 第2版 | 三上 れつ 著 | ヌーヴェルヒロカワ | 2001 | 9784902085549 |
| 根拠がわかる疾患別看護 過程 (改訂第3版) | 新見明子 | 南江堂 | 2021 | 9784524248391 |
| 成人看護学 成人看護技 術 [Web 動画付] (改訂 第3版) | 野崎真奈美 | 南江堂 | 2022 | 9784524229543 |
| 事前・ 事後学修 | <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、既習学修内容を基盤に慢性看護援助論と連動して進められ、臨地看護学実習に繋がる非常に重要な科目です。 ・臨床事例を用いた看護過程の協働学修では、初回授業開始前までに事例提示します。 ・授業の進捗に合わせて、事例を理解するための知識の学修(4~5時間程度)や既習学修内容の復習(2~3時間程度)に計画的に取り組んでください。事前学修が不十分な場合は、協働学修・演習に参加できないことがあります。事後学修として、授業で理解が不十分な点の再学修をしてください。 ・他の科目でも課題が出されます。本科目の課題も計画的に取り組んでください。 | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | 医学映像教育センター VISUALEARN ビジュランクラウド | | | |
| オフィス アワー | <p>詳細は初回授業時に提示します。 実習や会議により不在の場合があります。事前に科目責任者の教員にG-mail で事前に連絡ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山崎淑恵： 看護学部 1216 研究室：yoshie-ya@ seirei. ac. jp ・和田由樹： 看護学部 1213 研究室：yuki-wd@seirei. ac. jp ・水島史乃： 看護学部 1215 研究室：fumino-m@seirei. ac. jp ・河野貴大： 看護学部 1608 研究室：takahiro-k@seirei. ac. jp ・長山有香理：看護学部 1606 研究室：yukari-na@seirei. ac. jp | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | |

| | | |
|---------------|---|---|
| 科目名 | 老年看護学概論 | |
| 科目責任者 | 山田 紀代美 | |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 4セメスター | |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 | |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 | |
| 科目概要 | 老年期にある人の特徴を加齢変化から理解し、高齢者及び家族を取り巻く社会の動向や社会問題について知り、老年看護の役割について理解できることを目的とする | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある人の身体・心理・社会的特徴を生涯発達の視点、加齢変化から説明できる 2. 老年期にある人を取り巻く社会背景について述べられる 3. 老年看護の理念、役割、専門性について述べられる 4. 介護保険制度におけるサービスについて理解し、多職種との連携について考えることができる 5. 生活機能を重視した ICF モデルの考え方を学習し、高齢者・家族を対象とした看護過程を展開する為の基本的知識を学ぶ 6. 高齢者の人権と倫理的問題、尊厳について説明できる | |
| 授業計画 | 第1回： 老いるということ 第2回： 人口の高齢化現象と課題 第3回： 超高齢社会における保健・医療・福祉の動向 第4回： ライフステージとしての老年期の特徴 第5回： 加齢変化と身体 (身体の特徴) 第6回： 加齢変化と身体 (身体の特徴) 第7回： 加齢変化とこころ (知能と記憶 老性自覚 死に対する見方) 第8回： 加齢変化と社会 (役割 経済的基盤 生活パターン) 第9回： 高齢者虐待・拘束 第10回： 高齢者の人権と倫理問題 (成年後見制度) 第11回： 高齢者との対話からの学びを小グループで意見交換 第12回： 高齢者との対話からの学びについてグループ毎に発表 第13回： 家族介護の多様化と家族支援 第14回： 介護保険制度とサービス 第15回： 高齢者看護に必要な看護概念と理論 (ICF モデルの考えかた) | 山田紀代美 内藤智義 木村暢男 内藤智義 内藤智義 内藤智義 山田紀代美 山田紀代美 木村暢男 木村暢男 山田・木村 山田・木村 山田紀代美 木村暢男 山田紀代美 |
| アクティブラーニング | <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義では、具体的事象を想起しやすいよう授業テーマに関連した時事問題や実習場での一場面を提示し、授業時に学生自身の感想・考えを述べる機会 (または課題) を設定します。 2. 高齢者を理解するために、学生の身近にいる高齢者にインタビューを行いレポートにまとめます。またその内容をグループ毎に発表し意見交換を行います。 | |
| 授業内のICT活用 | グループワークはGoogle driveを使用する。 | |
| 評価方法 | 定期試験 90% | 課題提出物 10% |
| 課題に対するフィードバック | <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の授業で、質問・感想・要望・改善点等についてリフレクションペーパーを記述してもらい、質問・要望・改善点について次回以降の授業での回答や対応に努めます。 2. インタビューのレポートに対しては、発表会での意見交換時にコメントを述べフィードバックします。 | |

| | | | | |
|-------------------------|--|-----|-----|------|
| 指定図書 | 電子図書 e テキスト 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 ISBN 9784260056892 ￥2800 定価3080円 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・ 事後学修 | <p><事前学習> 事前学習の具体的内容は、シラバスを確認し、テキストの関連部分を読み、概要を予習してきてください。(約20分)</p> <p><事後学修> 配布資料や教科書の指定ページを確認し授業内容を復習してください。(約20分)</p> | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | |
| オフィス アワー | <p>山田紀代美：看護学部 研究室：1615 e-mail: kiyomi-y@seirei.ac.jp 木村暢男：看護学部 研究室：2704 e-mail: nobuo-k@seirei.ac.jp 内藤智義：看護学部 研究室：1614 e-mail: tomoyoshi-n@seirei.ac.jp</p> <p>時間については、各担当教員の授業や会議などで変更の可能性があります、 主に実習終了後の16時30分以降になります。 ※あらかじめメール予約をしてもらえれば確実です。</p> | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア 授業の実施 について | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 老年看護援助論 |
| 科目責任者 | 木村 暢男 |
| 単位数他 | 1単位 (15時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 老年期に特徴的な疾患について学修すると共に、疾患や障害を有している高齢者の生活機能の視点から高齢者に必要な看護を修得する。また、エンド・オブ・ライフケアについて理解し、人生の終焉に向かう高齢者への看護を学ぶ。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期に特徴的な疾患や障害に関する基本的知識が理解できる。 2. 老年期に特徴的な疾患や障害を抱える高齢者への看護方法が理解できる。 3. エンド・オブ・ライフケアを理解し、高齢者のよりよい終末期の在り方を考えることができる。 |
| 授業計画 | <p>第1回：高齢者の特徴的疾患と看護：聴覚・視覚・言語機能の低下のある高齢者の看護 (木村暢男)</p> <p>第2回：高齢者の特徴的疾患と看護：脳梗塞・脳出血の看護 (加藤貴子)</p> <p>第3回：高齢者の特徴的疾患と看護：骨折および骨格系疾患の看護 (山田紀代美)</p> <p>第4回：高齢者の特徴的疾患と看護：老人性肺炎・誤嚥性肺炎の看護 (内藤智義)</p> <p>第5回：高齢者の特徴的疾患と看護：神経疾患・高次脳機能障害の看護 (渡邊昌子)</p> <p>第6回：高齢者の特徴的疾患と看護：認知症の看護 (内藤智義)</p> <p>第7回：検査・薬物療法を受ける高齢者の看護 (木村暢男)</p> <p>第8回：高齢者の終末期看護 (エンド・オブ・ライフケア、終末期の看護実践) (渡邊昌子)</p> |
| アクティブラーニング | なし |
| 授業内のICT活用 | なし |
| 評価方法 | 小テスト結果 90% (毎回の授業の最後に小テストを実施します)、授業への参加状況 10%。ルーブリックでの評価はしない。 |
| 課題に対するフィードバック | 小テストの結果等における、学生の皆さんの学習の進捗状況や理解状況に対し、適宜、フィードバックを行っていきます。 |

| | | | | |
|-----------------|--|------|-----|---------------|
| 指定図書 | 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2024 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 老年看護学 第9版 | 北川 公子 | 医学書院 | | 9784260031868 |
| | | | | |
| 参考図書 | 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 2024 エンド・オブ・ライフを見据えた高齢者看護のキホン 日本看護協会出版会 2015 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 老年看護 病態・疾患論 第5版 | 鳥羽 研二 | 医学書院 | | 9784260031721 |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 授業の前には、必ず、授業内容に関する教科書の当該箇所を読んできてください。授業後は、小テスト結果を見直すと共に、授業内容に関して、教科書の該当箇所を確認しておいてください。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | オフィスアワーは初回授業で提示します。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は、「看護師」の実務経験を有する講師が実務の経験を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | | |
|-------------|--|--|
| 科目名 | 老年看護援助論演習 | |
| 科目責任者 | 内藤 智義 | |
| 単位数他 | 1 単位 (30 時間) 必修 5・6 セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP4 専門 | |
| 科目の位置付 | 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。 | |
| 科目概要 | <p>高齢者が疾患・障害を持ちながらも、その人らしく生活を営むことができるよう ICF (国際生活機能分類) の生活機能モデルなどから各生活機能の視点で強みをいかす目標志向型思考で課題を抽出する看護過程の展開を学修する。</p> <p>高齢者疑似体験演習・立案した看護計画の実践を通して、高齢者理解を深め高齢者の特徴に合わせた援助技術を習得し、老年看護学実習の準備を整えることができる。</p> | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期に多くみられる疾患を抱える高齢者とその家族を対象とした日常生活を支える看護が理解できる。 2. 事例を用いて看護過程を展開し、生活機能の視点で強みをいかす目標志向型思考で課題を抽出できる。 3. 介護施設の援助場面を想定し、高齢者の個別性に踏まえた根拠に基づく看護援助を実践できる。 | |
| 授業計画 | <p>第 1 回：日常生活を支える看護：排泄障害 (排尿・排便)</p> <p>第 2 回：日常生活を支える看護：高齢者とのコミュニケーション</p> <p>第 3 回：日常生活を支える看護：水分・食生活 (嚥下障害の援助を含む)</p> <p>第 4 回：日常生活を支える看護：清潔と個人衛生 (ドライスキン・褥瘡含む)</p> <p>第 5 回：日常生活を支える看護：移動と自立への援助 (転倒含む)</p> <p>第 6 回：日常生活を支える看護：活動と休息 (生活のリズム・睡眠障害含む)</p> <p>第 7 回：日常生活を支える看護：認知症看護 (パーソンセンタードケア・ユマニチュード含む)</p> <p>第 8 回：老年看護過程の展開 (事例紹介)</p> <p>第 9 回：事例演習 (情報の整理)</p> <p>第 10 回：事例演習 (情報の分析)</p> <p>第 11 回：事例演習 (課題の明確化)</p> <p>第 12 回：事例演習 (看護計画の立案)</p> <p>第 13 回：高齢者疑似体験・看護計画の実践に向けて自己学習 (演習環境の説明含む)</p> <p>第 14 回：高齢者疑似体験・看護計画の実践 (移動・食事・排泄の援助など)</p> <p>第 15 回：高齢者疑似体験・看護計画の実践 (移動・食事・排泄の援助など)</p> | <p>内藤智義</p> <p>山田紀代美</p> <p>木村暢男</p> <p>加藤貴子</p> <p>加藤貴子</p> <p>渡邊昌子</p> <p>木村暢男</p> <p>内藤智義</p> <p>内藤智義</p> <p>内藤・山田・渡邊・木村・加藤</p> <p>内藤・山田・渡邊・木村・加藤</p> <p>内藤・山田・渡邊・木村・加藤</p> <p>内藤・山田・渡邊・木村・加藤</p> <p>内藤・山田・渡邊・木村・加藤</p> <p>内藤・山田・渡邊・木村・加藤</p> |
| アクティブラーニング | <ul style="list-style-type: none"> ・講義にはディスカッションが含まれます。 ・事例の展開は、個人ワークの後にグループワークを行います。 ・高齢者疑似体験・看護計画の実践は、グループで進めます。演習を実施し、グループで互いにディスカッションをします。 | |
| 授業内の ICT 活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがあります。 ・講義・演習のリアクションペーパーや事前・事後課題は WebClass を使用します。 | |
| 評価方法 | <p>課題提出物 70%、リアクションペーパー 20%、グループワークへの参加状況・態度 10%。 なお、課題提出物やグループワークへの参加状況・態度の評価にはルーブリックを用いません。</p> | |

| | | | | | |
|-----------------|---|-------|------|-----|---------------|
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の課題提出物は、実習担当教員は内容を確認し、コメント等によりフィードバックをします。 ・質問には、次回の授業またはWebClassで回答します。 | | | | |
| 指定図書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護学」医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護 病態 疾患論」医学書院 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | 老年看護学 第9版 | 北川 公子 | 医学書院 | | 9784260031868 |
| | 老年看護 病態・疾患論 第5版 | 鳥羽 研二 | 医学書院 | | 9784260031721 |
| | | | | | |
| 参考図書 | 「エンド・オブ・ライフを見据えた高齢者看護のキホン100」日本看護協会出版会 参考書等は、随時紹介します。 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <事前学習> ・具体的内容は授業ごとにプリントを配布します。主に老年看護学概論や老年看護援助論で学んだ内容です。 ・Web Class で事前課題が出る場合は内容を予習して授業に臨んで下さい。(約20分) <事後学修> ・配布資料や教科書の指定ページを確認し授業内容を復習してください。(約20分) | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 内藤智義：看護学部 研究室：1614 研究室 e-mail：tomoyoshi-n@seirei.ac.jp 会議・実習で不在の場合は、メールで連絡をください。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 母性看護学概論 |
| 科目責任者 | 藤本 栄子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 4セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 女性の生涯を通じたリプロダクティブ・ヘルスの観点から、母性看護学の対象特性および看護実践を理解するための基盤となる概念、および母性看護の役割と今後の課題について学修する。また、家族計画、性感染症とその予防および看護を中心に、リプロダクティブヘルスケアについて学修する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 「母性・父性・親性」、「親になること」、「親子関係の形成」について理解できる。 2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツおよび女性の健康における意志決定とセルフケアについて理解できる。 3. セクシュアリティ、性の多様性について理解できる。 4. 母性看護の理念と役割、倫理的看護実践について理解できる。 5. 妊娠・分娩・子育てに伴う女性（胎児・新生児を含む）の身体、心理・社会、日常生活の側面から対象の全体像を捉え、変化とその援助について理解できる。 |
| 授業計画 | <p>第1回：母性看護とは 1) オリエンテーション 藤本栄子 2) 母性とは？父性とは？ 3) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 産むこと・産まないこと・産めないこと（女性の意思決定について考える） 4) 女性の健康とセルフケア</p> <p>第2回：母子関係と家族発達 室加千佳・藤本栄子 1) 愛着・母子相互作用と母子関係の形成 2) 親になるとは？ 親子関係 ―妊婦さんの体験談から学ぶ―</p> <p>第3回：「妊娠期」ってどんな時期？ 室加千佳 第4回：「産む」ってどんなこと？ 神崎江利子 第5回：「産褥期・育児期」ってどんな時期？ 神崎江利子 第6回：「胎児期～新生児期」ってどんな時期？―児からの視点― 室加千佳 第7回：親になること及び妊娠期から産褥・育児期（新生児期を含む）までのまとめ （中間確認テスト） 神崎江利子・藤本栄子</p> <p>第8回：性的傾向とジェンダーアイデンティティの多様性 日高庸晴 ―医療従事者に求められる役割―</p> <p>第9回：セクシュアリティ―生命の誕生と性の分化について考える― 村松美恵 第10回：ハイリスク新生児―早産児の特徴― 杉浦 弘 第11回：周産期の異常 成瀬寛夫 第12回：セクシュアリティ―発達各期の性の特徴・健康障害及び看護― 村松美恵 1) 思春期・青年期の性の特徴と看護 2) 成熟期の性の特徴と看護（不妊の女性の看護を含む）</p> <p>第13回：セクシュアリティ/リプロダクティブヘルス・ライツ 黒野智子・村松美恵 ―性感染症―</p> <p>第14回：産褥期の異常 成瀬寛夫 第15回：「更年期」ってなに？、母性看護のまとめ 黒野智子・藤本栄子</p> |

| | | | | | |
|-------------------------|--|----|-----|-----|------|
| アクティブ ラーニング | 事前学修や体験談、事例をもとに、グループ・ディスカッションを行い、全体での意見交換を行います。 | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | 個人やグループの意見（発表）をオンライン上で入力し、プロジェクターを用いてスクリーンに表示します。また、教員が作成した視聴覚教材や医学書院 e テキスト、Nursing Skills、ビジュアル等を使用します。 | | | | |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・確認テスト（中間を含む）および定期試験 80%。確認テストは講義時間内に WebClass または紙面にて実施します。 ・事前・事後学修（WebClass 含む）、トピックスレポートへの参加度 20% ・不可の場合は 1 回の再試験をおこないます。 ・演習、レポートで評価しますがルーブリックは使いません。 | | | | |
| 課題に対する フィード バック | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修に関しては、講義で説明します。 ・学生から質問があれば、時間の講義、または WebClass やリアクションシート等にてフィードバックします。 ・必要事、日程等調整の上、個別の疑問にも対応します。 | | | | |
| 指定図書 | 『系統看護学講座 専門 24 母性看護学[1]』森恵美編、医学書院 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 参考図書 | ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 『病がみえる vol. 10 産科 第 4 版』医療情報科学研究所 メディックメディア 『新生児学入門 第 5 版』仁志田博司、医学書院 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修は、WebClass または授業の最後に、次回授業までの課題を提示します。 ・事後学修は、授業の最後または WebClass でその日の授業内容に関する課題などを出題します。（事前学修は 60 分程度、事後学修は 30～40 分程度の時間を要する） ・WebClass の利用や提出の際には、日時制限がありますので、各自で必ず確認するようにしてください（WebClass への掲載や入力は、決められた時間以外にはできません） <p>※詳細は、第 1 回のオリエンテーションで説明します。 ※母性看護学概論のお知らせは webClass を活用しますので、各自で必ず確認するようにしてください。（タイムラインの掲載事項、WebClass からのメールは必ず確認すること。）</p> | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | <p>自主学習として、指定図書巻末の動画視聴を勧めます。</p> <p>『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 動画一覧 ナーシング・スキル（日本版） https://www.nursingskills.jp/ ビジュアル https://seirei.visualearn.jp/p/（使用日時を厳守のこと）</p> | | | | |
| オフィス アワー | <ul style="list-style-type: none"> ・看護学部 1714 研究室 時間については、オリエンテーション時に提示します。 ・臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前に下記のメールアドレスを利用して確認してください。 <p>藤本栄子 (eiko-f@seirei.ac.jp) 黒野智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp), 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp) 村松美恵 (mie-t@seirei.ac.jp) 室加千佳 (chika-mu@seirei.c.jp)</p> | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「助産師」の資格および実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア 授業の実施 について | WebClass での学生の皆さんの回答を集計し、必要に応じて同時双方向メディアで共有する場合があります。 | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 母性看護援助論 |
| 科目責任者 | 神崎 江利子 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 母性看護学概論で学んだ知識に加えて、対象の特徴や健康状態をアセスメントするための知識と技術・態度を段階を追って学んでいけるよう、事例（家族を含む）の提示や特徴的な場面の設定を通して、身体、心理・社会、日常生活の側面から対象の全体像をアセスメントすることを学ぶ。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を通して、リプロダクティブ・ヘルスの観点から女性を支える支援（セルフケアの支援・意思決定支援等）を理解する。 2. 妊産婦および家族の身体・心理・社会および日常生活についてアセスメントを実施する。 3. 『親になること』のプロセスのアセスメントを実施する。 4. 退院後の子どものいる生活を描きアセスメントを実施する。 5. 新生児のアセスメントのための基本的観察技術を理解し、実施する。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>神崎江利子、黒野智子、室加千佳、村松美恵、藤本栄子</p> <p>第 1 回：オリエンテーション／妊婦(胎児を含む)の特徴と健康状態のアセスメント 各事例の特徴をグループで共有する</p> <p>第 2 回：産婦(胎児・新生児を含む)の特徴と健康状態のアセスメント グループワーク</p> <p>第 3 回：褥婦の特徴と健康状態のアセスメント グループワーク</p> <p>第 4 回：性周期とセクシュアリティ グループワーク</p> <p>第 5 回：退院後の生活をイメージする～赤ちゃんのいる生活～ グループワーク 地域における子育て世代の母子及び家族の健康状態のアセスメント</p> <p>第 6 回：新生児の特徴と健康状態のアセスメント グループワーク</p> <p>第 7 回：ハイリスク新生児の特徴と健康状態のアセスメント グループワーク</p> <p>第 8 回：正常から逸脱した妊産婦（ハイリスク妊産婦）のアセスメント グループワーク</p> <p>※母性看護援助論では、母性看護学概論で学んだ知識に加えて、対象の特徴や健康状態をアセスメントするための知識と技術・態度を段階を追って学んで行けるよう、事例（家族を含む）の提示や特徴的な場面を設定をしながら、授業展開を行います。</p> |
| アクティブラーニング | 母性看護概論で修得した知識や課題学修（事前学修）を基にグループワークを実施した後に、全体での発表等をおこない、母性看護援助論演習につなげます。 |
| 授業内の ICT 活用 | 個人やグループの意見（発表）をオンライン上で入力し、スクリーンまたは電子黒板に表示します。授業内での理解度確認を行うため ICT 教材を利用して双方向型授業を行うこともあります。また、教員が作成した視聴覚教材や医学書院 e テキスト、Nursing Skills、ビジュラン等を使用します。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の確認テスト（80％）：講義時間内に紙面またはwebにて実施します。 ・課題レポート、事前・事後学修（webclass 含む）グループワークへの参加度等で評価します（20％）。課題レポートは、ループリックを用いて評価をおこなうものもあります。 |
| 課題に対するフィードバック | 事前学修に関しては、講義またはwebclassにて説明します。学生から質問があれば、講義（母性看護援助論含む）、またはWebClass やリアクションシート等にてフィードバックします。また、必要に応じて個別面談で対応します。 |

| | | | | |
|-----------------------|--|-----------|------|---------------|
| 指定図書 | 『系統看護学講座 専門 24 母性看護学[1]』森恵美編、医学書院 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 ※母性看護学概論と同じテキストを使用いたします。 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 母性看護学[1] 母性看護学概論 第14版 | 森 恵美 | 医学書院 | | 9784260042253 |
| 母性看護学[2] 母性看護学各論 第14版 | 森 恵美 | 医学書院 | | 9784260042239 |
| 参考図書 | 『病気がみえる vol10.産科第4版』医療情報科学研究所 メディックメディア 『新生児学入門 第5版』仁志田 博司, 高橋 尚人他 医学書院 ※その他の参考書については、随時、講義にてお知らせします | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 病気がみえる vol. 10 産科 第4版 | 医療情報科学研究所 編集 | メディックメディア | 2018 | 9784896327137 |
| 【第5版】新生児学入門 | 仁志田博司/編集 | 医学書院 | 2018 | 9784260036252 |
| 事前・事後学修 | <p>・事前学修は、WebClass または授業の最後にて、次回授業までの課題を提示します。</p> <p>・事後学修は、授業の最後または WebClass で、その日の授業内容に関する課題等を出題します。(事前学修は60分程度、事後学修は30~40分程度の時間を要する)</p> <p>・WebClass の利用に際し、日時制限のあるものがありますので、各自で必ず確認するようにしてください。(WebClass への掲載、入力や提出は、決められた期間以外にはいたしません。)</p> <p>自主学習として、下記の動画の閲覧をお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 図書巻末の動画一覧 ナーシング・スキル (日本版) https://www.nursingskills.jp/ 看護 roo 動画でわかる看護シリーズ https://www.kango-roo.com/mv/ VISUALEARN クラウド https://seirei.visualearn.jp/p/ (使用時間厳守のこと) <p>※詳細は、第1回のオリエンテーションで説明します。 ※母性看護援助論のお知らせはWebClass を活用しますので、各自で必ず確認するようにしてください。(タイムラインおよびWebClass からのメールは必ず確認のこと)</p> | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | <p>看護援助のイメージ化やアセスメント力を高めるために、下記の動画の視聴をお勧めします</p> <ul style="list-style-type: none"> 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 図書巻末の動画一覧 ナーシング・スキル (日本版) https://www.nursingskills.jp/ 看護 roo 動画でわかる看護シリーズ https://www.kango-roo.com/mv/ VISUALEARN クラウド https://seirei.visualearn.jp/p/ (使用時間厳守のこと) | | | |
| オフィスアワー | <p>看護学部 1710 研究室、時間については、オリエンテーション時に提示します。 講義内容に関わらず質問があれば、いつでも気軽に e-mail 等で連絡ください。 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp), 黒野 智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp) 室加 千佳 (chika-mu@seirei.ac.jp), 村松 美恵 (mie-t@seirei.ac.jp)</p> | | | |
| 実務経験に関する記述 | <p>本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p> | | | |
| メディア授業の実施について | <p>WebClass に掲載する指定期間内に事例のアセスメントを行い、必要に応じて同時双方向メディアでの演習をおこない学びを共有する。</p> | | | |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 母性看護援助論演習 |
| 科目責任者 | 室加 千佳 |
| 単位数他 | 1 単位 (30 時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP4 専門 |
| 科目の位置付 | 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。 |
| 科目概要 | 妊産褥婦及び胎児・新生児の看護支援を考察し、看護実践に必要な基本的能力・基本的看護技術を修得する。 母性看護の臨床実践で想定される具体的な看護場面を設定し、ウェルネス志向型の看護過程の展開を学修する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 生活者としての妊産褥婦（胎児・新生児を含む）の健康ニーズに対して、妊産褥婦に関わる看護師、助産師、保健師の役割と看護援助を理解できる。 リプロダクティブ・ヘルスの観点から家族計画、災害看護の演習課題を通して、女性を支える支援を考察できる。 妊産褥婦事例の看護過程の展開し、ロールプレイを通して考察できる。 新生児にとって優しいケアとは何か、どのように実践に応用するかをシミュレーション学修を通して考察できる。 母子に必要な基本的看護技術を修得できる。 グループワークで得られた気づきを他のグループの学生に自分の言葉で説明し、共有できる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>室加、藤本、黒野、神崎、村松</p> <p>第1回：妊婦（胎児を含む）が健康に過ごすための看護 ① グループワーク、実技（腹囲・子宮底長測定等）</p> <p>第2回：妊婦（胎児を含む）が健康に過ごすための看護 ② 各事例の看護援助の共有</p> <p>第3回：産婦の産む力・胎児の生れる力を引き出す看護 ① グループワーク、ロールプレイ</p> <p>第4回：産婦の産む力・胎児の生れる力を引き出す看護 ② グループワーク、ロールプレイ／母性看護領域における看護過程の特徴</p> <p>第5回：『親になること』を育む看護 ① グループワーク、ロールプレイ（授乳援助、褥婦の観察、足浴）</p> <p>第6回：『親になること』を育む看護 ② グループワーク、ロールプレイ（授乳援助、褥婦の観察、足浴）</p> <p>第7回：リプロダクティブ・ヘルスに関する看護（セルフケア・家族計画等）？ グループワーク</p> <p>第8回：リプロダクティブ・ヘルスに関する看護（セルフケア・家族計画等）② 各事例の看護援助の共有</p> <p>第9回：女性の危機的状況（防災対策）への看護 グループワーク</p> <p>第10回：新生児へのやさしい看護（ハイリスク新生児）① グループワーク・シミュレーション</p> <p>第11回：新生児へのやさしい看護（ハイリスク新生児）② 各事例の看護援助の共有</p> <p>第12回：正常から逸脱した妊産婦への看護（ハイリスク妊産婦）① グループワーク</p> <p>第13回：正常から逸脱した妊産婦への看護（ハイリスク妊産婦）② 各事例の看護援助の共有</p> <p>第14回：新生児の観察と援助（小児看護学領域と合同で実施） シミュレーション、実技（新生児バイタルサイン測定等）</p> <p>第15回：新生児の沐浴</p> |

| | | | | | |
|-------------------------|--|--------------|-----------|------|---------------|
| アクティブ ラーニング | 母性看護援助論、事前学修を基に事例を用いて、シミュレーション学修、ディスカッションやロールプレイを取り入れたグループワークを実施した後に、全体での共有を実施します。 | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | 母子看護実習室の天井カメラ、360 度カメラで撮影した映像や電子黒板等利用して、グループワーク等で実践した看護援助をクラスで共有化し、ディスカッションを通して発展します。また、VR・シミュレータ・高機能シミュレータを使用したシミュレーション学修を実施します。教員が作成したDVD、NursingSkills、ビジュラン等を使用します。 | | | | |
| 評価方法 | 課題提出物（各事例に関する事前・事後学修や課題レポート）80%、演習参加状況・態度（グループワーク等）20%。 なお、グループワークへの参加状況・態度の評価にはルーブリックを用います。 | | | | |
| 課題に対する フィード バック | 課題に関しては、教員が内容を確認し、コメント等によりフィードバックします。 質問には、次回の演習またはWebClass やリアクションシート等にてフィードバックします。また、必要時には個別面談で対応します。 | | | | |
| 指定図書 | 下記参照 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | 母性看護学[1] 母性看護学概論 第14版 | 森 恵美 | 医学書院 | | 9784260042253 |
| | 母性看護学[2] 母性看護学各論 第14版 | 森 恵美 | 医学書院 | | 9784260042239 |
| 参考図書 | なし | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | 病気がみえる vol.10 産科 第4版 | 医療情報科学研究所 編集 | メディックメディア | 2018 | 9784896327137 |
| | 【第5版】新生児学入門 | 仁志田博司/編集 | 医学書院 | 2018 | 9784260036252 |
| 事前・ 事後学修 | <ul style="list-style-type: none"> 事前学修は、WebClass または母性看護援助論の講義時に、課題等を提示します。 事後学修は、WebClass または講義の最後に課題等を提示します（事前学修は60分程度、事後学修は30～40分程度）。 必ず決められた日時までに、リアクションペーパー等をWebClassに入力してください。 WebClass の利用や課題提出には、日時制限がありますので、各自で必ず確認してください（WebClass への入力、決められた期間以外にはできません）。 | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | <p>自主学修として、下記の動画視聴を勧めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『系統看護学講座 専門25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 巻末動画一覧 ナーシング・スキル（日本版） https://www.nursingskills.jp/ ビジュラン https://seirei.visualearn.jp/（使用日時を厳守のこと） NHK ハートネットテーマ別情報HP https://www.nhk.or.jp/heart-net/topics/ など <p>※その他の参考図書については、随時、講義にてお知らせいたします。</p> | | | | |
| オフィス アワー | <p>室加千佳：看護学部 1604 研究室 時間については、オリエンテーション時に提示します。 会議・実習で不在の場合は、メールで連絡ください。 室加千佳 (chika-mu@seirei.ac.jp)、黒野智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp) 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp)、村松美恵 (mie-t@seirei.ac.jp)、藤本栄子 (eiko-f@seirei.ac.jp)</p> | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア 授業の実施 について | グループワーク等の意見共有に電子黒板を使用し、ディブリーフィング等を実施する際には、演習で実践した看護援助場面を天井カメラや iPad で撮影し、これらを複数の教室間に繋ぎ利用します。 | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 小児看護学概論 |
| 科目責任者 | 市江 和子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 4セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 看護や養護の対象である小児の特性を、子どもを取り巻く環境と成長・発達の側面から学ぶ。また、健全な発達を支援する小児保健に関する施策の意義と内容を、保健医療、福祉、教育の面から検討し、発達段階別の生活と養護について理解する。さらに、小児の各発達段階に応じた健康の維持増進を支援する小児看護の機能と役割について理解を深める。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長・発達について学び、身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 小児保健の動向をとらえ、小児における保健・医療・福祉について理解する。 3. 小児期における基本的な生活習慣、健康診査、予防接種について学び、小児とその家族の健康をまもるための支援を理解する。 4. 小児期特有の事故について学び、安全教育の必要性を知り、事故対策および救急法の具体的な援助を理解する。 5. 子どもの権利と小児看護における倫理的問題を理解する。 6. 小児医療と小児看護における看護職の果たす役割を理解する。 |
| 授業計画 | <p>第1回 小児の概念と小児看護の理念および役割 市江和子 成長・発達に関するワークシートと学習の進め方</p> <p>第2回 小児の成長・発達の概観① (成長・発達の原則、影響要因) 市江和子</p> <p>第3回 小児の成長・発達の概観② (形態的成長・発達) 市江和子</p> <p>第4回 小児の成長・発達の概観③ (機能的発達) 市江和子</p> <p>第5回 小児の成長・発達の概観④ (心理社会的発達・発達の評価) 市江和子</p> <p>第6回 基本的な生活習慣の発達とその援助① (新生児、乳児) 宮谷 恵</p> <p>第7回 基本的な生活習慣の発達とその援助② (幼児、全般) 宮谷 恵</p> <p>第8回 基本的な生活習慣の発達とその援助③ (離乳食について) 宮谷 恵</p> <p>第9回 事故の予防と安全教育 (救急法を含む) 宮谷 恵</p> <p>第10回 小児保健の動向① (小児保健に関する統計) 宮谷 恵</p> <p>第11回 小児保健の動向② (小児を取り巻く社会環境、小児をめぐる法律と施策) 宮谷 恵</p> <p>第12回 予防接種 小出扶美子</p> <p>第13回 乳幼児期の健康診査と保健指導 小出扶美子</p> <p>第14回 子どもの人権と倫理的問題 市江和子 権利・倫理的問題に関するワークシートと学習の進め方</p> <p>第15回 小児看護・医療の変遷と展望 市江和子</p> |
| アクティブラーニング | <p>授業ごとにリアクションペーパーでの質問、意見には授業時や全体・個別メール、WebClassで返答する。</p> <p>「基本的な生活習慣の発達とその援助③ (離乳食について)」においては、離乳食に関する演習を実施する。</p> |
| 授業内のICT活用 | インターネットから必要な情報を検索して、ワークシートの学習をする。 |
| 評価方法 | 筆記試験90%、課題10%だが、授業への参加状況等も加味して総合的に評価する。ルーブリックは用いない。 |
| 課題に対するフィードバック | 学習内容に関するワークシートを課題とし、学習の進め方を随時説明する。授業の関係する講義内容時に、課題についてフィードバックを行う。 |

| | | | | |
|-----------------|---|-----|-----|------|
| 指定図書 | 奈良間美保編：系統看護学講座 専門分野 小児看護学（1）小児看護学概論 小児臨床看護総論、医学書院、2024. | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 成長・発達、小児保健に関するワークシートで、1回の講義に40分程度、事前学修を進めてください。担当教員が、適宜、ミニテスト等を実施しますので、事後学修として復習してください。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | 市江和子：金曜日午前（1712 研究室） Kazuko-i@seirei.ac.jp 宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室） megumi-m@seirei.ac.jp 小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室） fumiko-k@seirei.ac.jp | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 小児看護援助論 |
| 科目責任者 | 小出 扶美子 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 健康を障害された子どもとその家族を理解し、健康障害や入院・受診が子どもと家族に及ぼす影響を考察しながら、子どもの成長・発達段階、健康レベル及び子どもと家族の権利をふまえた看護援助の方法を学ぶ。また、小児期におこりやすい健康障害に伴うさまざまな症状を理解し、その症状に対する看護の方法を学ぶ。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害・入院・受診が子どもとその家族に及ぼす影響を考察し、その影響を最小限とするための看護が理解できる。 2. 子どもと家族の権利をふまえた看護援助として、プレパレーションの必要性とその方法を理解し、検査や処置のプレパレーションの内容を考えることができる。 3. 小児期におこりやすい健康障害のさまざまな症状に対する看護の方法が理解できる。 4. 健康を障害された子どもの成長・発達段階、健康レベルに応じた看護が理解できる。 |
| 授業計画 | <p>第1回： 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 小出扶美子</p> <p>第2回： 外来における子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第3回： 子どもとプレパレーション① プレパレーションとは 小出扶美子 (入院している子どもにとっての遊び、子どもの権利とプレパレーション)</p> <p>第4回： 子どもとプレパレーション② グループワーク 小出扶美子 (プレパレーションの方法と内容)</p> <p>第5回： さまざまな症状を示す子どもと家族の看護① 山本 智子 (発熱、脱水)</p> <p>第6回： さまざまな症状を示す子どもと家族の看護② 山本 智子 (呼吸困難、痙攣、発疹、他)</p> <p>第7回： 急性期にある子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第8回： 慢性期にある子どもと家族の看護 小出扶美子</p> |
| アクティブラーニング | 講義時に小グループでのディスカッションを取り入れる。第4回目の講義は、検査や処置を受ける子どもに対するプレパレーションの課題に対して、グループワークを実施し、対象となる幼児期の子どもが理解できる言葉で説明内容を考える。 |
| 授業内のICT活用 | 授業ごとのリアクションペーパーはWeb Class を活用する。グループワークでは ICT 機器を活用する |
| 評価方法 | 筆記試験 80%、プレパレーションのグループワークのルーブリック評価 10%、課題 10%だが、授業への参加状況・授業内に提出するリアクションペーパーの提出状況も加味して、総合的に評価する。 |
| 課題に対するフィードバック | リアクションペーパーの質問や意見に対して、授業時や全体・個別メール、WebClass で回答する。自己学修ノートの回答は WebClass に提示する。グループワークについては、WebClass にフィードバックを掲載する。 |

| | | | | |
|--------------------------------|---|------|-----|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版 | 奈良間 美保 | 医学書院 | | 9784260038607 |
| 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版 | 奈良間 美保 | 医学書院 | | 9784260038669 |
| 参考図書 | 講義時に紹介します。 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 事前・事後学修 | 講義予定表に記載してある授業テーマと関連する教科書の章を読むこと。また、講義の单元ごとに自己学習のノートを配布するので、講義後に講義内容の要点を教科書や配布資料を用いて復習する。1コマあたりの時間の目安は予習20分、復習20分とする。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | 講義内容に関連した動画やインターネット上のサイトは、講義時に紹介またはWebClassに掲載します。 | | | |
| オフィスアワー | 小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室）fumiko-k@seirei.ac.jp 山本 智子：月曜日午後（1218 研究室）tomoko-y@seirei.ac.jp | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」と実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | 実施なし | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 小児看護援助論演習 |
| 科目責任者 | 宮谷 恵 |
| 単位数他 | 1 単位 (30 時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP4 専門 |
| 科目の位置付 | 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。 |
| 科目概要 | 小児の発達段階と健康レベルをふまえ、健康障害および発達障害をもつ小児および家族への看護援助を理解し、基本的な技術と態度を学ぶ。小児看護学概論、小児看護援助論で学習した知識、技術を、事例展開や演習を活用して実践し、小児と家族へのより適切な援助や養護の重要性の理解を深める。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期におこりやすい健康障害をもつ小児とその家族への看護の方法が理解できる。 2. 健康障害および発達障害が小児とその家族に及ぼす影響が理解できる。 3. 小児看護を実践するために、基本的な看護過程及び特有な看護技術が理解できる。 4. 他領域も含め学んできた知識を用いて、健康障害および発達障害をもつ小児とその家族の特性を考慮した看護援助について考察することができる。 |
| 授業計画 | <p>第1回：腎臓に障害をもつ子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第2回：循環器に障害をもつ子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第3回：悪性新生物の子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第4回：心身障害をもつ子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第5回：障害をもち在宅生活する子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第6回：周手術期の子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第7回：子どものフィジカル・アセスメント① 山本智子 (総論、一般状態、頭部・頸部、胸部・背部、リンパ系、皮膚等)</p> <p>第8回：子どものフィジカル・アセスメント② 山本智子 (腹部、四肢、臀部等、心臓・血管系、筋・骨格系、神経系)</p> <p>第9回：検査・処置を受ける子どもの看護① 小出扶美子 (検査・処置を受ける子どもと家族の体験と援助)</p> <p>第10回：検査・処置を受ける子どもの看護② 小出扶美子 (採血、与薬、輸液方法等の検査・処置について)</p> <p>第11回：小児看護技術演習① (オリエンテーション) 宮谷 恵</p> <p>第12回：小児の看護過程① (看護過程の基本と看護診断) 市江和子</p> <p>第13回：小児の看護過程② 市江和子 (事例を用いた看護過程の展開の実際：健康障害をもつ子どもと家族の看護)</p> <p>第14回：小児の看護過程③ 市江和子 (事例を用いた看護過程の展開の実際：障害をもつ子どもと家族の看護)</p> <p>第15回：小児看護技術演習② (実技演習) 宮谷 恵、市江和子、小出扶美子、山本智子</p> |
| アクティブラーニング | 第15回目に小児モデル人形・バイタルサインシミュレーターを用いた実技演習を行う。また授業ごとにリアクションペーパーでの質問・意見には授業時や個別メール、WebClass で返答する。 |
| 授業内のICT活用 | 授業ごとのリアクションペーパーはWeb Class を活用する。 |
| 評価方法 | 筆記試験 90%、リアクションペーパー10%だが、授業への参加状況も加味して、総合的に評価する。 |
| 課題に対するフィードバック | 自己学修ノート (ワークシート) への回答は、授業時に提示する。 |

| | | | | |
|--------------------------------|---|------|-----|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版 | 奈良間 美保 | 医学書院 | | 9784260038669 |
| 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版 | 奈良間 美保 | 医学書院 | | 9784260038607 |
| 参考図書 | 必要時に提示する | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 事前・事後学修 | 事前学習としては、その日の授業内容（テーマ）をあらかじめ確認し、小児看護学関連だけでなく他の授業科目の内容でも、すでに学習している関連事項について復習しておいて下さい。事後学習はその日のうちに、配布資料等を見直してわからなかったことを調べ、自己学修ノート（ワークシート）が提示される場合はそれを行い、学びを定着させて下さい。1コマあたりの時間の目安は事前学習 20分、事後学習 20分です。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | 講義の理解に役立つ動画やインターネット上のサイトは講義時に紹介、またはWebClassに掲載します。 | | | |
| オフィスアワー | 宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室） megumi-m@seirei.ac.jp 小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室） fumiko-k@seirei.ac.jp 市江和子：金曜日午前（1712 研究室） kazuko-i@seirei.ac.jp 山本智子：月曜日午後（1218 研究室） tomoko-y@seirei.ac.jp | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | 実施なし | | | |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 精神看護学概論 |
| 科目責任者 | 入江 拓 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 4セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 精神疾患を抱えて生きる対象者や家族に看護師として向かうためには、看護過程、疾患や治療に関する知識は必要不可欠ですが、こころの病いとともに生きることが、当事者にどのように心理社会的にまた、主観的に「体験」されるのか、ということに関する理解がその土台となります。看護師も同じ人間としての弱さや限界を抱える存在であることを認めつつ、対象者を冷静に捉える視座を養うことが大切です。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が各自の人間観および、養われつつある看護観を吟味し記述できる。 2. 精神看護の目標と役割について説明できる。 3. 偏見のメカニズムについて説明できる。 4. 精神の機能と障害について、当事者（個人・家族）の主観的体験という視点からイメージできる。 5. 人間を身体/生物学的視点、精神/心理学的視点、文化/社会学的視点、実存/人間学的視点から捉える視座とその意味について説明できる。 6. 精神疾患の病態・病理および治療の概観について理解できる。 |
| 授業計画 | <p>第1回：精神看護とは （こころとからだ、正常と異常、人間観） <入江拓></p> <p>第2回：精神看護の目的と役割 （対象者の主観的体験とは？） <入江拓></p> <p>第3回：精神看護では何をどのように見るか （どこから何を眺めているのか？） <入江拓></p> <p>第4回：精神看護に求められるもの （対象者を解ろうとすることを阻むもの。偏見・囚われ・構え） <入江拓></p> <p>第5回：精神看護における対象者の理解の試み （対象者と取り巻く状況の視覚化） <入江拓></p> <p>第6回：ライフサイクル各期における心理発達の障害 （危機的状況に焦点をあてて） <入江拓></p> <p>第7回：精神疾患の成り立ち （精神の機能と障害） <入江拓></p> <p>第8回：脳故障類型と精神症状 <今泉寿明></p> <p>第9回：神経症性障害 <今泉寿明></p> <p>第10回：気分障害 <今泉寿明></p> <p>第11回：統合失調症 <今泉寿明></p> <p>第12回：器質性精神障害（症状性精神障害を含む） <今泉寿明></p> <p>第13回：精神科治療（薬物療法、精神療法、社会資源の利用） <今泉寿明></p> <p>第14回：生理的障害及び身体要因に関連した行動症候群 （摂食障害、アルコール関連精神障害、薬物依存） <入江拓></p> <p>第15回：精神看護の行為を支えるもの （ケアリング・共感・精神看護とは、まとめ） <入江拓></p> |

| | | | | | |
|-------------------------|--|-----|-----|------|--|
| アクティブ ラーニング | 当事者の主観的体験をふまえた看護をおこなうための視座を養うために、自己理解および、対象理解のための小課題をおこないます。結果は全体に対して解説し、それを受けてさらに課題レポートを作成しWEB Class にて提出します。これまでの自分自身のありようや、物事に対する考え方や構え、捉え方の癖などについてあらためて振り返り、「自分の言葉」で「自分の考え」を表現することから始めることが必要です。適宜課せられる指定図書による予習・復習および、学んだことや疑問を整理して記述するリアクションペーパーへの言語化は各単元の理解を深める上で大切です。また、各単元で知識の整理ができ、試験対策にもなるようなドリルを毎回WebClass に「知識の整理」として設けて復習や試験対策に活用できるようにします。 | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | なし | | | | |
| 評価方法 | 定期試験 95%、課題提出物 5%、で総合的に評価します。 | | | | |
| 課題に対する フィード バック | 演習結果及び、簡単な課題レポート（リアペ）の結果については、全体に対して、資料および、講義内で解説します。リアクションペーパーの記述、質問については個人が特定されない形で適宜資料にて全体に対してフィードバック、共有し、各々の学習の動機づけとします。 | | | | |
| 指定図書 | 看護のための精神医学 第2版 中井久夫、山口直彦（医学書院） 精神医学テキスト ―精神障害の理解と治療のために―（第5版）、上島国利、立山万里、三村将（南江堂） | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | 事前・事後学習：授業内容に関連する資料は毎回配布します。適宜指定図書および、配布資料内から 40 分程度で可能な事前・事後学修を課します。配布資料は実習でも活用するため保管しておくこと。配布資料および、講義内容に対応する形でWebClass に單元ごとに掲載される「知識の整理」で、要点の整理を都度行う事。 | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | | |
| オフィス アワー | 入江は看護学部の所属（3403 研究室 taku-i@seirei.ac.jp）です。授業内容に関する質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取るか、講義後に声をかけてください。時間調整をして応じます。WebClass のメール機能でも可能です。 | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | | |

| | | |
|---------------|---|--|
| 科目名 | 精神看護援助論 | |
| 科目責任者 | 小平 朋江 | |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 5・6 セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 | |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 | |
| 科目概要 | 精神看護学の枠組みや看護援助のための知識を踏まえ、看護過程など臨床で精神疾患を持った対象者に対してどのように治療的に関わっていくか、その援助のあり方を具体的に学びます。精神疾患を抱えながら生きる対象者は、どのような体験をしているのかに関心を持てることが重要です。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学で必要とされている知識と技術を理解できる。 2. 精神疾患を抱えながら生きる対象者が体験していることと呈する症状・状態を関連させて看護援助について記述できる。 3. 精神看護学で使用する各種の理論とそのアプローチの方法を理解できる。 4. 精神保健福祉および精神医療体制の現状を理解できる。 5. 「入院している場」と「生活している場」とを結び付けてイメージできる。 | |
| 授業計画 | 第1回：精神科臨床の流れ 第2回：統合失調症をもつ人の心の理解と看護（急性期） 第3回：統合失調症をもつ人の心の理解と看護（慢性期） 第4回：神経症群（神経症性障害）をもつ人の心の理解と看護 第5回：パーソナリティ症（パーソナリティ障害）をもつ人の心の理解と看護 第6回：気分症群（気分障害）をもつ人の心の理解と看護 第7回：薬物療法と看護 第8回：精神看護における援助的人間関係とは | 小平朋江 小平朋江 小平朋江 松本有希 松本有希 松本有希 清水隆裕 小平朋江 |
| アクティブラーニング | 授業後のリアクションペーパーでは、疾患や障害の特徴を踏まえて自分はどんな関わりや看護援助をしたいか具体的に考え、記述することを通して、学生なりの看護援助を説明する経験を積み重ねていきます。授業の中で活用する「ナラティブ教材」（病いや障害の語りの教材）を参照し、ナラティブに関連の資料を本学の図書館などで探すことも可能です。このような資料に触れることで、学生自身の気づきや学びを手がかりに、病いの体験を知ることが大切です。2～3人の小さなグループで話し合う時間を持ち、当事者視点の病いの体験について考えます。 | |
| 授業内のICT活用 | なし | |
| 評価方法 | 定期試験 95%、課題提出物 5%、各単元ごとに知識の確認を行い、総合的に評価します。 | |
| 課題に対するフィードバック | リアクションペーパーに記述される気づきや学び、疑問を講義でフィードバックして共有しながら、授業を進めていきます。 | |

| | | | | |
|------------------------------|--|-----------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 精神看護学 2 第6版 | 川野 雅資 編集 | ヌーヴェルヒロカワ | 2015 | 9784861740657 |
| 精神看護学 第3版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 | 田中 美恵子 | 医歯薬出版 | 2024 | 9784263710708 |
| | | | | |
| 参考図書 | 授業中に随時連絡 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 指定図書を活用して毎回の授業内容に関連したページを具体的に指示します。その指示された部分を事前・事後学修として良く読んで授業に出席すること。加えて、授業時、配布する資料を用いての事前・事後学修についても指示します。事前・事後学修時間の目安は 40 分程度です。配布資料は実習でも活用するため保管しておくこと。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | 小平朋江（看護学部教員 3401 研究室:tomoe-k@seirei.ac.jp）は、実習病院に出向いている時間帯が多いため、面接予約などは早めにメールで連絡を入れて下さい。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 精神看護援助論演習 |
| 科目責任者 | 清水 隆裕 |
| 単位数他 | 1 単位 (30 時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP4 専門 |
| 科目の位置付 | 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。 |
| 科目概要 | ライフサイクル各期における精神保健の課題について精神保健上の意味を再検討し、さらに地域で暮らす精神障がい者への精神保健指導、生活支援に必要な基本的な知識と方法を学修する。さらに、精神看護の看護過程を展開する際に必要な知識と方法について演習を用いて整理し、理解を深める。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患により入院治療中の対象者を理解し、看護過程を展開できる。 2. 精神医療の関連法規が説明でき、臨床の場での活用方法を学ぶ。 3. ライフサイクル各期における精神保健の課題が説明でき、対象の課題を理解できる。 4. 地域で暮らす精神障がい者への精神保健指導、生活支援に必要な基本的な知識を理解し、説明できる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員>清水隆裕、入江拓、小平朋江、松本有希</p> <p>第1回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（こども・学校） <清水隆裕> 第2回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（職場・中年・高齢者） <清水隆裕> 第3回：ライフサイクルを通しての課題（依存、自殺、認知症） <清水隆裕> 第4回：精神医療の歴史と看護、関連法規・政策の変遷 <清水隆裕> 第5回：精神看護における倫理と関連法規 <清水隆裕> 第6回：精神看護における薬物療法 <清水隆裕> 第7回：精神科リハビリテーションと看護 <清水隆裕> 第8回：精神看護における地域精神保健活動と地域移行支援 <清水隆裕> 第9回：精神看護におけるアセスメント技法 <入江拓> 第10回：精神看護で用いる看護理論の活用法 <松本有希> 第11回：精神看護における全人的理解のための試み <入江拓> 第12回：精神看護学実習における情報の整理と活用 <松本有希> 第13回～15回：事例からの構造判別図の記載・看護現象診断・看護計画までの看護過程の展開をグループワークで行う <清水隆裕、入江拓、小平朋江、松本有希></p> |
| アクティブラーニング | 第12回～第15回は、事例による看護過程の展開を行います。グループワークを主体として実施、課題をまとめ発表します。事例において探索が必要なことは、その場で調べるという取り組みを行います。 |
| 授業内のICT活用 | 第12回～第15回の事例による看護過程の展開ではICTを使います。事前に必要なICTを伝えます。 |
| 評価方法 | 演習の成果物 20%、定期試験 80%、ルーブリックは用いません。 |
| 課題に対するフィードバック | 演習の成果物に関しては、成果物提出後 Webclass 内で共有し解説します。リアクションペーパーの記述、質問については授業内に全体に対してフィードバック、共有し、学習の動機づけとします。 |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | 川野雅資編「精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版」Nouvelle HIROKAWA, (2015) 川野雅資編「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版」NOUVELLE HIROKAWA (2015) | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | 中井久夫・山口直彦 「看護のための精神医学」医学書院 第2版 (2004) 田中美恵子編著「精神看護学 第2版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開」医歯薬出版 (2020) | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | 指定図書を活用して毎回の授業内容に関連したページを具体的に指示します。その指示された部分を事前・事後学修として良く読んで授業に出席すること。加えて、授業時、配布する資料を用いての事前・事後学修についても指示します。事前・事後学修時間の目安は40分程度です。 | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | 活用しません。 | | | | |
| オフィスアワー | 清水隆裕は看護学部の所属 (1214 研究室 takahiro-sh@seirei.ac.jp) です。質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取り、おいでください。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | | |
|---------------|---|--|
| 科目名 | 家族看護論 | |
| 科目責任者 | 山村 江美子 | |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 3 セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 | |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 | |
| 科目概要 | 看護の対象である「家族」を理解するために、家族看護学の基盤となる理論を学ぶ。家族は看護の対象であり、家族が発達課題の達成に加え偶発的な状況的危機に遭遇した場合において、家族への看護支援について学修する。各領域の教員が講義を担当する、オムニバスの講義科目である。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象である「家族」の特性や家族の健康について考えることができる。 2. 基盤となる家族看護理論を学び、発達課題や健康課題をもつ「家族」の理解につなげる。 3. 家族周期における家族の特徴を理解し、家族看護を考えることができる。 4. 家族のセルフケア機能が発揮される家族看護について、考えることができる。 5. 各領域の家族看護の実際を理解し、課題を抱える家族の支援について考えることができる。 | |
| 授業計画 | <p>第1回：看護の対象としての「家族」 家族のセルフケア機能について 山村江美子 ・家族とは ・家族看護とは ・家族看護の定義 ・家族のセルフケア機能とは ・家族を看護する看護職の役割と基本姿勢 ・家族看護の焦点 ・家族アセスメントについて</p> <p>第2回：家族を理解するための理論① 家族発達理論・家族システム理論 山村江美子 ・家族を発達する存在として理解 ・発達段階における特徴と課題 ・家族の発達課題の移行期 ・健康問題を抱える家族の状況 ・家族発達理論を基にした家族の理解 ・システムとしての家族の特徴を理解 ・家族システム理論の家族看護への活用</p> <p>第3回：家族を理解するための理論② 家族ストレス対処理論 山村江美子 ・3つのモデル ・家族ストレス対処理論の家族看護への活用 ・ジェノグラム作成 ・エコマップの理解 ・事例学修</p> <p>第4回：事例学修 健康課題をもつ家族への支援 山村江美子 第5回：成人看護における家族支援 大石ふみ子 第6回：小児看護における家族支援 小出扶美子 第7回：精神看護における家族支援 清水隆裕 第8回：地域在宅看護における家族支援 山村江美子</p> | |
| アクティブラーニング | 事例学修を行い学生間でのディスカッションを実施します。Web Class を利用して事後学修を行い、講義内でフィードバックを行います。 | |
| 授業内のICT活用 | リアクションペーパー、課題レポートの提出は、Web Class を使用して行います。講義時間内に、各自のPCを使用して探索的に課題を実施していきます。 | |
| 評価方法 | 課題レポート 80%、リアクションペーパー提出 20% | |
| 課題に対するフィードバック | リアクションペーパーにおいて対応が必要な内容へのフィードバックは、次回の講義の中で説明します。 | |

| | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|
| 指定図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | 医学書院 別巻 家族看護学 南江堂 家族看護学 臨床場面と事例から考える 改訂第3版 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 事前事後学修については、講義時間内に説明し提示します。リアクションペーパー記述時には、事後学修を行ってから取り組んでください。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | 講義後の休憩時間に研究室で待機します。その後は、実習指導のため実習施設へ移動することがあります。メールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 山村江美子 3412 研究室：emiko-y@seirei.ac.jp、 大石ふみ子 1219 研究室：fumiko-o@seirei.ac.jp 小出扶美子 2713 研究室：fumiko-k@seirei.ac.jp 清水隆裕 1241 研究室：takahiro-sh@seirei.ac.jp | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目担当者は、「看護師・保健師」の実務経験を有します。実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 看護倫理 |
| 科目責任者 | 大石 ふみ子 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 7 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP6 専門 |
| 科目の位置付 | 看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。 |
| 科目概要 | 生命倫理、看護倫理の歴史と主要な概念を学習し、対象者の人権を尊重し擁護した看護実践について考える。看護実践で直面する倫理的ジレンマに対する倫理意思決定の方法を学び、専門職としての倫理規定について考える。 |
| 到達目標 | 1. 看護倫理および生命倫理について説明できる。 2. 看護実践に関わる倫理原則、概念を説明できる。 3. 倫理的意決定のプロセスを説明できる。 4. 受精から終末期における看護に関わる倫理的課題を説明できる。 5. 実習での経験を振り返り自らの専門性における倫理的責務を説明できる。 |
| 授業計画 | 第1回 看護倫理と倫理の基本原則 大石 ふみ子 看護倫理とは：看護と倫理、看護専門職と職業倫理（日本看護協会倫理綱領） 生命倫理とは：生命倫理の研究領域 倫理上の基本原則／看護における倫理的問題・ジレンマ 第2回 倫理的意決定のプロセス 大石 ふみ子 1) 倫理的判断のよりどころ 2) 倫理的意決定のプロセス 3) 看護師の倫理的責務 第3回 患者の権利と倫理に関する基本概念（用語） 大石 ふみ子 第4回 母性看護における倫理的課題 藤本 栄子 第5回 小児看護における倫理的課題 市江 和子 第6回 精神看護における倫理的課題 入江 拓 第7回 在宅看護における倫理的課題 酒井 昌子 第8回 成人看護における倫理的課題 大石 ふみ子 |
| アクティブラーニング | 事例の活用、授業内での演習、webclass 等による事前学修課題の提示と授業内でのフィードバックを行い、専門職としての責務と実習での内省を促していく。 |
| 授業内のICT活用 | 課題提出に使用 |
| 評価方法 | 第4回～第8回のリアクションペーパーやレポート：50% 最終課題レポート：50%（第1～3回の内容を踏まえ、本学での学びすべてを元に作成） レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。 |
| 課題に対するフィードバック | リアクションペーパーや毎回のレポートで対応が必要なコメントや質問については、webclass を用いて回答し、共有する。 |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | 講義の中で紹介・説明する | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>授業前課題：weblink または前回授業の最後に、次回授業までの課題を提示する（事前学修 40分 2～8回）。</p> <p>授業後課題：各論講義（第4回～第8回）毎に、提示される課題に回答／レポート提出をする（各40分×5回）</p> <p>最終学年の授業のため、領域別の各看護実習や統合実習などで体験した事例を事前に復習して参加する。</p> | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | <p>臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。オムニバスで講義を担当する教員については、講義後に質問の時間を設けることを基本とします。</p> <p>大石ふみ子(1219 研究室: fumiko-o@seirei.ac.jp)、水曜日 12:00～13:00</p> <p>藤本 栄子 (1714 研究室: eiko-f@seirei.ac.jp)</p> <p>入江 拓(3403 研究室: taku-i@seirei.ac.jp)</p> <p>市江 和子(1712 研究室: kazuko-i@seirei.ac.jp)</p> <p>酒井 昌子(3410 研究室: tadashi-s@seirei.ac.jp)</p> | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | 実施しない。 | | | | |

| | | |
|---------------|--|--|
| 科目名 | 看護管理論 I | |
| 科目責任者 | 田口 実里 | |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 7 セメスター | |
| DP 番号と科目領域 | DP6 専門 | |
| 科目の位置付 | 看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。 | |
| 科目概要 | 看護の対象となる人々に最も有効で良質な看護を提供するための「しくみ」について学び、その内容や方法について理解する。組織における看護の機能と看護活動のあり方や、看護の質管理および改善への取り組みを学修し、自律し協働できる看護マネジメントスキルを備えた看護職者としての基礎を培うことを目的とする。看護管理学の知識体系である看護ケアのマネジメント、看護サービスのマネジメント、看護組織と管理、人的資源管理における基礎的な知識や考え方を学修する。看護サービスのマネジメントにおける看護学生の課題認識を考察する。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理学に含まれる要素についての概略について理解できる。 2. 対象に看護を提供するうえでどのようなマネジメントが必要か理解できる。 3. 複数の対象に対して適切に看護を提供するために必要な方式について理解できる。 4. 看護業務の実践のために必要なマネジメントについて理解できる。 5. 看護組織と管理の基礎について理解できる。 6. サービスを提供するうえで必要なリーダーシップ・メンバーシップについて理解できる。 7. 看護を取り巻く諸制度や日本の医療体制について理解できる。 8. 専門職者として自身のキャリアがどのように発展できるか理解できる。 9. 各単元において看護サービスのマネジメントにおける看護学生の課題認識について述べることができる。 | |
| 授業計画 | 第 1 回： 科目ガイダンス 看護管理を学ぶこと、看護サービス管理について 第 2 回： 看護ケアのマネジメント 第 3 回： 看護提供方式について 第 4 回： 看護サービスのマネジメント 第 5 回： マネジメントに必要な知識 (組織論) 第 6 回： リーダーシップ・メンバーシップ 第 7 回： 看護を取り巻く諸制度・医療体制 第 8 回： キャリア開発 | 田口実里 田口実里 田口実里 田口実里 田口実里 檜原理恵 田口実里 田口実里 |
| アクティブラーニング | グループワーク：授業中にグループワーク・ディスカッションの時間をとる。提示したテーマに関してグループおよび全体で意見交換を行う。 講義内容の振り返り：授業終了時に、リアクションペーパーとして、授業への質問・意見・感想を Webclass に登録する。 | |
| 授業内の ICT 活用 | Webclass による小テストの実施、リアクションペーパーの登録 | |
| 評価方法 | 授業への取り組み・事後課題 30%、リアクションペーパー20%、科目試験 50% | |
| 課題に対するフィードバック | リアクションのフィードバックは、次回の講義開始時に行う。 | |

| | | | | |
|--------------------------|--|------|-----|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 看護の統合と実践[1] 看護管理 第11版 | 上泉 和子 | 医学書院 | | 9784260053044 |
| 参考図書 | 必要時、授業内で提示する。 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・ 事後学修 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 初回講義時に「ガイダンス資料」にて授業の概要を提示する。 2. 授業の時に、次の授業の事前課題を提示する。授業は事前課題に基づいて展開するので、課題に基づいた予習を必ずしていること。 3. 事後課題を提示する場合はwebclass に設定する。期限内に必ず取り組むこと。 | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | |
| オフィス アワー | 1号館6階1619研究室 メールアドレス：misato-t@seirei.ac.jp 随時：事前にメールで問い合わせいただくとスムーズです。 | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 看護管理論Ⅱ |
| 科目責任者 | 檜原 理恵 |
| 単位数他 | 1単位（15時間） 選択 8セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP6 専門 |
| 科目の位置付 | 看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。 |
| 科目概要 | 社会から求められる役割の変化に伴う看護組織の在り方について、また看護サービスを提供するシステムについて諸理論を活用し理解を深め、実習で体験した現象について客観的に考察する視点を培うことを目的とする。また、グループワークを通し自己の考えを論理的に主張し、他者の意見を傾聴しながらディスカッション能力を身につける。看護の専門性を理解し、看護組織として看護ケアを効果的に提供するための方略について学修する。 |
| 到達目標 | 1. 看護単位の運営に関する諸原則を理解する。 2. 質の高い看護の提供に関わる要因を理解する。 3. 看護サービス管理上の現象を分析する。 4. 看護単位における改善策を考案する。 |
| 授業計画 | 第1回：ガイダンス看護サービス管理の基礎 第2回：看護提供方式とそれぞれの特徴 第3回：看護の質向上を組織で目指すために 第4回：働きやすい職場環境づくり 第5回：看護サービス管理における現象の分析（グループワーク） 第6回：看護単位における改善策の考案（グループワーク） 第7回：看護単位における改善策の考案（グループワーク） 第8回：グループ発表 まとめ |
| アクティブラーニング | 事前課題を基に授業を展開します。 授業内で毎回グループディスカッションを実施します。 |
| 授業内のICT活用 | WebClass を用いて出席確認、リアクションを入力します。グループワーク時にはpptを作成します。 |
| 評価方法 | 授業への取り組み 20%、課題発表 20%、課題レポート 60% |
| 課題に対するフィードバック | 講義内容のフィードバックは次回の授業時にお伝えします。 |

| | | | | |
|-----------------|---|-----|-----|------|
| 指定図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>1【事前学修】</p> <p>*单元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読んでください。</p> <p>【事後学修】</p> <p>*授業内容、テキストの振り返りをします。ディスカッションした内容を個人学修で振り返ります</p> | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | <p>檜原理恵：1616 研究室 連絡先 rie-k@seirei.ac.jp</p> <p>田口実里：1619 研究室 連絡先 misato-t@seirei.ac.jp</p> <p>時間はオリエンテーション時にお知らせします。</p> | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 看護技術開発論 |
| 科目責任者 | 炭谷 正太郎 |
| 単位数他 | 1単位 (15時間) 選択 7セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP4 専門 |
| 科目の位置付 | 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。 |
| 科目概要 | 対象の個別のニーズに合わせた看護ケアを実践するためには、看護の専門的知識を活用し、状況に応じて看護技術の方法を変化させたり、創造することが求められる。こうした看護行為には科学的根拠が重要視されており、実践と研究の積み重ねがなされている。一方で、看護技術は相互作用で成り立っており、ケアの効果をもたらす機序が解明されないまま実践されているものも少なくない。本科目では、看護技術の行為を成り立たせている原理・原則とその根拠について科学的に検証する手法を学修する。具体的には、看護技術に関する課題を見つけ、その課題について科学的に検証する。そして、検証した結果をふまえ、創造的な看護技術を探究する素地を養うことを目指す。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術について検証したい課題を明確にすることができる 2. 看護技術を科学的に検証するための具体的な方法論を考えることができる 3. 明らかにしたい看護技術に関するテーマを科学的な方法で検証することができる 4. 検証した結果をもとに新たな看護技術のあり方について自分の考えを述べるることができる |
| 授業計画 | <p><担当教員名>炭谷 正太郎、佐久間 佐織</p> <p>第1回 科目ガイダンス 看護技術に関するリサーチクエスチョン 炭谷 正太郎 佐久間 佐織</p> <p>第2回 看護技術の検証に関する文献検討 炭谷 正太郎 佐久間 佐織</p> <p>第3回 看護技術の検証の基礎知識 データ収集、データ分析 炭谷 正太郎 佐久間 佐織</p> <p>第4回 看護技術の検証の実際① 実施計画の立案 炭谷 正太郎 佐久間 佐織</p> <p>第5回 看護技術の検証の実際② 実施計画の立案 炭谷 正太郎 佐久間 佐織</p> <p>第6回 看護技術の検証の実際③ データ収集 炭谷 正太郎 佐久間 佐織</p> <p>第7回 看護技術の検証の実際④ データ分析 炭谷 正太郎 佐久間 佐織</p> <p>第8回 看護技術の検証結果の考察 看護技術の開発への展望 炭谷 正太郎 佐久間 佐織</p> |
| アクティブラーニング | <ul style="list-style-type: none"> ・ ゼミ形式で進行しますので、毎回ディスカッションがあります ・ ディスカッションをとおして、主体的に問題解決に臨む姿勢を培います。 |
| 授業内のICT活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがあります ・ 授業に関する連絡などはWebClassを使用します |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 討議などへの取り組み 40% ・ プレゼンテーション 30% ・ レポート 30% |
| 課題に対するフィードバック | 講義の際に、前回までの講義の講評、質疑、課題や解決方法などフィードバックを行います。 |

| | | | | |
|-----------------|---|-----------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 看護研究 | 坂下 玲子 | 医学書院 | | 9784260021821 |
| | | | | |
| 参考図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 看護における研究 第2版 | 南裕子・野嶋佐由美 編 | 日本看護協会出版会 | 2017 | 9784818020665 |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 毎回の授業内容に関して主体的に議論できるように自身の考えおよび資料等の準備をしておく。授業で提示される文献クリティークを怠らない。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | e-ラーニング教材として、テキスト動画、ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン) の視聴 | | | |
| オフィスアワー | 炭谷正太郎：1610 研究室 syoutarou-s@seirei.ac.jp 月曜日 11時～13時ですが、予約は不要です。この時間以外でも、在室していればいつでも訪問してください。会議などで不在になる場合がありますが、メールなどでご連絡いただければ調整します。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | 本科目は遠隔授業の実施科目ではありません。 | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 災害看護論 |
| 科目責任者 | 乾 友紀 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 必修 8 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP6 専門 |
| 科目の位置付 | 看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。 |
| 科目概要 | 災害看護とは、災害が人々のいのち・健康と生活に及ぼす影響を可能な限り少なくする看護活動である。具体的には平常時の減災・予防活動、発災時の緊急対応、さらに発災後の復旧復興における中・長期活動等である。超高齢社会の今、各々の「時間軸」および「場」における看護活動はますます期待されている。授業では看護活動の特性に焦点をあて、災害看護の基礎知識と技術および多職種との連携・協働について具体的に理解し学修する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護の定義を理解し、災害の種類による健康問題の特性を理解できる。 2. 災害に関する政策・法律・支援体制について理解できる。 3. 災害各期（準備期・発災時・発災後急性期・復旧復興・長期）における看護活動について理解できる。 4. 災害被災者に必要な支援について考えることができる。 5. 地方自治体や、医療機関における災害対策や対応の実際を理解できる。 6. 災害発生時に必要な看護活動を理解し、関連する技術について実践できる。 7. 災害発生時の自己の役割を認識し、必要な準備や対応について考えることができる。 |
| 授業計画 | <p>第1回 災害の種類と人々への影響（定義、種類、生活・社会への影響、健康被害） 藤井愛海</p> <p>第2回 災害に関する政策・法律や災害時の支援体制及び連携 藤井愛海</p> <p>第3回 災害医療・看護活動の特徴 藤井愛海 （定義、災害サイクル、災害発生前、災害初期から中長期における医療・看護活動）</p> <p>第4回 災害関連死と要配慮者への支援 藤井愛海</p> <p>第5回 病院における災害対策・対応の実際（聖隷三方原病院） 大瀧友紀</p> <p>第6回 地方自治体における災害対策・対応の実際（浜松市健康福祉部 健康医療課） 浜松市健康医療課</p> <p>第7・8回 災害時の緊急支援活動/災害時に必要な基本的看護技術と緊急支援活動 ・一次救命処置（BLS）、トリアージ、包帯法（実践演習） ・看護の現場における災害対応（グループワーク） 小池武嗣・早川ゆかり・有村優範・乾友紀</p> |
| アクティブラーニング | 第7・8回は2グループに分かれて災害時に必要な実践演習を行います。また、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れた授業を実施します。 |
| 授業内のICT活用 | 授業後のリアクションペーパーおよびレポート課題の提出はWebClassを用いて行います。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業後のリアクションペーパー・演習・レポートで評価します(第1-6回のリアクションペーパー30%、技術演習・グループワーク評価20%、総合レポート50%)。 ・総合レポートは、ルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します。 |
| 課題に対するフィードバック | 寄せられた質問は適宜授業中に解説を行うほか、WebClassやメールを用いて回答します。 |

| | | | | |
|-----------------|---|--------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 災害看護 第5版 | 酒井 明子 | メディカ出版 | 2022 | 9784840475457 |
| 参考図書 | 授業時に適宜紹介します。 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 事前学修：授業内容と密接に関連する項目について、授業進度に応じて学修を進めてください。 事後学修：授業内容を中心に振り返り、復習してください。理解を深めたことについてリアクションペーパーに記載してください。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | 事前事後学修やレポート作成においては以下を活用してください。 医中誌 Web、Cinii、メディカルオンライン、J-Stage 等 | | | |
| オフィスアワー | 可能な限り、あらかじめメールにてご連絡をお願いします。非常勤講師への質問等は科目責任者へご連絡ください。 乾友紀 (1217 研究室) : yuki-i@seirei.ac.jp 小池武嗣 (1607 研究室) : takeshi-k@seirei.ac.jp 早川ゆかり (1306 研究室) : yukari-h@seirei.ac.jp 有村優範 (1607 研究室) : masanori-a@seirei.ac.jp | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | 対面授業を原則とします。 | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|------|--------------------|------|-----|--------------|------|-----|--------------|------|-----|-------------|------|-----|-----------------|------|-----|-----------------------|------|-----|-----------------------|------|-----|-----------------------|------|
| 科目名 | 国際看護論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目責任者 | 藤浪 千種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| DP 番号と科目領域 | DP7 専門 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目の位置付 | 地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目概要 | 本科目では、世界の健康格差や在日外国人患者への理解を通して、国際看護実践の基盤となる知識を養い異文化感性を向上させグローバルな看護の在り方を考えていきます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 国際的な健康課題とその背景を理解できる。 2. 国際協力における看護の取組みについて理解できる。 3. 異文化間感受性を向上させ、グローバルな看護のあり方について考えることができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>グローバルに看護を考えるとということ</td> <td>藤浪千種</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>世界の健康格差と保健医療</td> <td>西川浩昭</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>国際協力・海外活動の実際</td> <td>特別講師</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>開発途上国の文化・生活</td> <td>特別講師</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>医療通訳の立場から見た国際看護</td> <td>特別講師</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>国内における国際看護① (グループワーク)</td> <td>藤浪千種</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>国内における国際看護② (グループワーク)</td> <td>藤浪千種</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>国際看護論における学び (グループワーク)</td> <td>藤浪千種</td> </tr> </table> | 第1回 | グローバルに看護を考えるとということ | 藤浪千種 | 第2回 | 世界の健康格差と保健医療 | 西川浩昭 | 第3回 | 国際協力・海外活動の実際 | 特別講師 | 第4回 | 開発途上国の文化・生活 | 特別講師 | 第5回 | 医療通訳の立場から見た国際看護 | 特別講師 | 第6回 | 国内における国際看護① (グループワーク) | 藤浪千種 | 第7回 | 国内における国際看護② (グループワーク) | 藤浪千種 | 第8回 | 国際看護論における学び (グループワーク) | 藤浪千種 |
| 第1回 | グローバルに看護を考えるとということ | 藤浪千種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2回 | 世界の健康格差と保健医療 | 西川浩昭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3回 | 国際協力・海外活動の実際 | 特別講師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4回 | 開発途上国の文化・生活 | 特別講師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5回 | 医療通訳の立場から見た国際看護 | 特別講師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6回 | 国内における国際看護① (グループワーク) | 藤浪千種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第7回 | 国内における国際看護② (グループワーク) | 藤浪千種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第8回 | 国際看護論における学び (グループワーク) | 藤浪千種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アクティブラーニング | <ul style="list-style-type: none"> 第3・4回の外部講師の講義においては皆でディスカッションを行います。 第6・7回は授業の中でグループで定めたテーマに基づいたリサーチを行いそれらを発表し意見交換します。 第8回は各自の学びをプレゼンテーションして意見交換します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業内のICT活用 | <ul style="list-style-type: none"> Webclass や Google スライドなどを用いて受講者間の情報共有を図ります。 インターネットなどで国際看護に関する様々なデータ・情報などを調べます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> 評価は以下①-③の方法で行います。 ①各講義のリアクションペーパー40% ②グループワークへの参加状況 10% ③グループワークやプレゼンテーション成果物 (レポート・プレゼン資料等) 50% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> 授業に関する質問への解答はWebclass または授業内で行う。 授業内の意見交換やグループワーク内容へのフィードバックは授業内で行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|---------------------|--|--------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 国際化と看護 | 大橋 一友 | メディカ出版 | 2018 | 9784840465939 |
| 参考図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 【第2版】知って考えて実践する国際看護 | 近藤麻理／著 | 医学書院 | 2018 | 9784260035361 |
| 事前・事後学修 | <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業テーマに関連したテーマやキーワードを調べたり、教科書関連部分を読み授業に参加する。 外部講師担当の授業では、講師への質問や皆で話したいことなどを準備しておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を通して関心を持った事柄や疑問をインターネットなどを活用し自分で調べておく。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | <ul style="list-style-type: none"> 不在にしていることもあるため、質問や相談などがある場合は事前メールでご連絡ください。 具体的な時間については初回オリエンテーションの際に提示します。 <p>藤浪千種（研究室：1208） メールアドレス：chigusa-f@seirei.ac.jp 西川浩昭（研究室：1620） メールアドレス：hiroaki-ni@seirei.ac.jp</p> | | | |
| 実務経験に関する記述 | ・本科目は看護師・保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|---|------------|----------|-------------|-----|-----------------------------------|----------|--------------|-----|----------------|-----|---------------|-----|---------------------|----|-----------------------|---|--------------------------------|----------|------------------------------|----------|------------------------------|----------|--------------------------|----------|-----------------------------------|----------|-----------------------------------|----------|--------------------------|-----|
| 科目名 | 看護研究 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目責任者 | 佐久間 佐織 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 4セメスター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| DP番号と科目領域 | DP4 専門 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目の位置付 | 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目概要 | 看護における研究の意義とプロセスの基礎的知識を学修する。また、グループで関心のある研究テーマを設定し、関連領域の文献を検索・検討により学術的な動向を整理し、研究課題の方向性を導くプロセスを実践することを通して、研究の基礎的能力を養う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と研究の進め方を理解できる 2. データベースを活用して文献検索ができる 3. 文献クリティークの意義を理解し、実践することができる 4. 看護研究における倫理的配慮の基本的な考え方を理解できる 5. 量的研究と質的研究の特徴について理解できる 6. 関心のある研究テーマについて文献検討することができる 7. 関心のある研究テーマについてグループで議論することができる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <p><担当教員名>佐久間佐織、清水隆裕、乾友紀</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：看護研究とは</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第2回：研究課題の選定</td> <td>佐久間</td> </tr> <tr> <td>第3回：文献検索 *医中誌 web、メディカルオンラインによる検索</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第4回：論文クリティーク</td> <td>佐久間</td> </tr> <tr> <td>第5回：看護研究における倫理</td> <td>佐久間</td> </tr> <tr> <td>第6回：研究デザインの選択</td> <td>佐久間</td> </tr> <tr> <td>第7回：質的研究の特徴、面接法の進め方</td> <td>清水</td> </tr> <tr> <td>第8回：量的研究の特徴、質問紙調査の進め方</td> <td>乾</td> </tr> <tr> <td>第9回：関心あるテーマについての文献検索 【グループワーク】</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第10回：研究テーマの設定、文献検索 【グループワーク】</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第11回：研究テーマに関する文献検討 【グループワーク】</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第12回：文献検討と発表準備 【グループワーク】</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第13回：研究テーマに関する文献検討について発表【グループワーク】</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第14回：研究テーマに関する文献検討について発表【グループワーク】</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第15回：研究計画書の書き方、研究成果の発表方法</td> <td>佐久間</td> </tr> </table> <p>※詳細は第1回で説明します</p> | 第1回：看護研究とは | 佐久間、清水、乾 | 第2回：研究課題の選定 | 佐久間 | 第3回：文献検索 *医中誌 web、メディカルオンラインによる検索 | 佐久間、清水、乾 | 第4回：論文クリティーク | 佐久間 | 第5回：看護研究における倫理 | 佐久間 | 第6回：研究デザインの選択 | 佐久間 | 第7回：質的研究の特徴、面接法の進め方 | 清水 | 第8回：量的研究の特徴、質問紙調査の進め方 | 乾 | 第9回：関心あるテーマについての文献検索 【グループワーク】 | 佐久間、清水、乾 | 第10回：研究テーマの設定、文献検索 【グループワーク】 | 佐久間、清水、乾 | 第11回：研究テーマに関する文献検討 【グループワーク】 | 佐久間、清水、乾 | 第12回：文献検討と発表準備 【グループワーク】 | 佐久間、清水、乾 | 第13回：研究テーマに関する文献検討について発表【グループワーク】 | 佐久間、清水、乾 | 第14回：研究テーマに関する文献検討について発表【グループワーク】 | 佐久間、清水、乾 | 第15回：研究計画書の書き方、研究成果の発表方法 | 佐久間 |
| 第1回：看護研究とは | 佐久間、清水、乾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2回：研究課題の選定 | 佐久間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3回：文献検索 *医中誌 web、メディカルオンラインによる検索 | 佐久間、清水、乾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4回：論文クリティーク | 佐久間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5回：看護研究における倫理 | 佐久間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6回：研究デザインの選択 | 佐久間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第7回：質的研究の特徴、面接法の進め方 | 清水 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第8回：量的研究の特徴、質問紙調査の進め方 | 乾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第9回：関心あるテーマについての文献検索 【グループワーク】 | 佐久間、清水、乾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第10回：研究テーマの設定、文献検索 【グループワーク】 | 佐久間、清水、乾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第11回：研究テーマに関する文献検討 【グループワーク】 | 佐久間、清水、乾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第12回：文献検討と発表準備 【グループワーク】 | 佐久間、清水、乾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第13回：研究テーマに関する文献検討について発表【グループワーク】 | 佐久間、清水、乾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第14回：研究テーマに関する文献検討について発表【グループワーク】 | 佐久間、清水、乾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第15回：研究計画書の書き方、研究成果の発表方法 | 佐久間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アクティブラーニング | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館や文献検索サイトを利用し、自らの興味のある専門分野や関連諸学の学識を活用するために、積極的に文献検索を行う ・関心のある研究テーマについて、グループワークを進めて成果を発表する ・学生間、担当教員とディスカッションすることで学修を深める | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業内のICT活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・電子教科書を使用しますので、授業ではPC・タブレットが必要です ・文献検索やグループワーク、発表でもPCを使用します ・授業や課題で、医学中央雑誌 Web、メディカルオンラインを活用します | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|-----------------|--|-------|------|-----|---------------|
| 評価方法 | 授業中の提出物：15% グループワークへの参加度、プレゼンテーション、成果物：25% 課題レポート：60% ※提出物、プレゼンテーション、課題レポートはルーブリックを用いて評価する | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 提出物や質問に対するフィードバックは、次回授業またはWebClassで回答する | | | | |
| 指定図書 | 電子教科書を使用します。 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | 看護研究 第2版 | 坂下 玲子 | 医学書院 | | 9784260049955 |
| | | | | | |
| 参考図書 | 授業内で紹介します。 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | 看護の学修で関心を持ったテーマについての文献を読んでください。 授業回数に関わらず、文献を活用しながら、研究課題について継続的な学修が必要です。 | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | 医学中央雑誌 web メディカルオンライン | | | | |
| オフィスアワー | 佐久間佐織：1618 研究室 saori-s@seirei.ac.jp 清水 隆裕：1241 研究室 takahiro-sh@seirei.ac.jp 乾 友紀：1217 研究室 yuki-i@seirei.ac.jp 随時 ※不在の場合は、メール (saori-s@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | | | | | |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 卒業研究ゼミナール |
| 科目責任者 | 江口 晶子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 7・8 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP4 専門 |
| 科目の位置付 | 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。 |
| 科目概要 | 自らが設定した課題について、興味のある専門分野や関連諸学の学識を用いて、広い視野で議論し考察する能力を身につける。 選択した領域において、これまでの学修の中で関心をもった事象について、先行研究や関連文献を幅広く検討し、研究課題を明確化し、現実的・具体的な研究計画書を作成する。 |
| 到達目標 | 1. 自己の関心のある看護や人間に関する現象を明らかにすることができる。 2. 関連文献を検討し、自己の研究課題を明確化することができる。 3. 研究課題を科学的に探究するための方法を検討できる。 4. 研究を実施するにあたって必要な倫理的配慮を検討できる。 5. 規定に従い、研究計画書を作成することができる。 |
| 授業計画 | <p>担当教員：看護学部全教員</p> <p>学生は、全 10 領域から 1 領域を選択し履修する。 これまでの学修（講義、演習、実習など）の中で、関心をもった事象、問題、疑問などについて、文献を検索、整理、分析し、研究課題として明確化する過程を学ぶ。 さらに、明確化された研究課題についてどのような方法で明らかにするのか、研究目的に沿って、研究デザインや研究方法を決定し、研究計画を立てる過程を学修する。 選択した領域において、学生間や教員、専門家などとの討議、教員の指導により授業を展開する。</p> <p>※詳細は、各領域の履修要項などで別途示す。</p> <p><全体の流れ> 4月：領域別ガイダンス 以下、4月～11月をめぐり、選択領域の指導教員とスケジュール調整をしながら、主体的に学修を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究疑問や関心のある現象の明確化 ② 研究課題（研究テーマ）の検討と絞り込み ③ 研究課題に関連した文献検討 ④ 文献検討のまとめ、研究の枠組みの設定（研究目的・研究内容の決定） ⑤ 研究方法の検討 研究デザインの選択、研究期間・場所、研究対象・募り方、調査内容、データ収集方法と手順、データ分析方法など ⑥ 研究に必要な倫理的配慮 ⑦ 研究計画書の作成 <p>※研究課題によって、研究の遂行が可能な場合は、看護学部・助産学専攻科学生倫理委員会の承認を得て研究を実施できる。また、実施した研究成果を関連学会などで発表することができる。 ※指導教員の研究活動や学会、研究会などに参加する機会があれば、適宜参加することができる。</p> |

| | | | | | |
|-------------------------|--|-------|------|-----|---------------|
| アクティブ ラーニング | 自らの疑問、設定した研究課題について、専門分野や関連諸学の学識を活用し、積極的に文献検索を行い、学生間および担当教員等とディスカッションすることで学修を深める。 | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | 文献検索、文献学習では大学図書館 HP を活用し、データベース検索、電子ジャーナル、学術情報リポジトリなどを活用する。 | | | | |
| 評価方法 | 初回の領域別ガイダンス時に提示する。 | | | | |
| 課題に対する フィード バック | 研究課題の進捗状況に合わせ指導教員からフィードバックを行う。 | | | | |
| 指定図書 | 下記参照 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | 看護研究 | 坂下 玲子 | 医学書院 | | 9784260021821 |
| 参考図書 | 領域別ガイダンス時や授業の中で提示する。 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 事前・ 事後学修 | 看護の学修で関心を持った内容に関する文献を読んでください。 文献を活用しながら、研究課題について継続的に学修してください。 | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | 医中誌 web など | | | | |
| オフィス アワー | 初回の領域別ガイダンス時に提示します。 | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | なし | | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし（ただし、指導教員の判断で、ゼミ等を Web 会議システム等で行うことがある。） | | | | |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 国際看護研修 |
| 科目責任者 | 渥美 陽子 |
| 単位数他 | 1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP7 専門 |
| 科目の位置付 | 地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。 |
| 科目概要 | アメリカの医療施設における看護実践の見学、および提携先大学での看護演習を通じて国際的な視野を養い、保健医療福祉制度、看護師の役割・実践、他職種との連携について学ぶことを目的とする。研修は、事前研修、現地研修（講義、シミュレーション演習、病院での看護師シャドウイング、医療施設見学等）、および事後研修で構成され、並行して、個人およびグループで課題に取り組む。実践的な学びを通じて、異文化理解と専門的知識を深め、グローバルな視点で看護について考える。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) アメリカにおける保健・医療制度を理解し、看護職が果たす役割や看護実践について、日本との相違点や共通点を考える。 2) 患者・利用者の治療・ケアに関与する各専門職の役割を理解し、チーム医療について学ぶ。 3) 異文化体験を通じて、アメリカの人々の暮らしや社会、多様な価値観を理解し、異文化への適応力を高める。 4) 日本の文化、価値観、家族観を再評価し、国際的な視点から自国の文化に対する理解を深める。 5) 英語を用いたコミュニケーションを積極的に実践し、異文化環境での言語能力や対人スキルを向上させる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 渥美陽子、木村暢男、炭谷正太郎、藤浪千種</p> <p>事前研修：</p> <p>第 1 回 オリエンテーション：研修の概要・課題について、渡航準備①（ハンドブック、提出書類の確認、役割分担等）</p> <p>第 2 回 渡航準備②、英会話トレーニング（自己紹介、質問練習、SBAR による情報整理・報告）</p> <p>第 3 回 保健・医療制度、看護基礎教育に関する講義</p> <p>第 4 回 看護シミュレーション演習における英会話トレーニング</p> <p>第 5 回 課題発表</p> <p>第 6 回 渡航準備③（アメリカの基本情報、入国認証 ESTA 申請登録など）</p> <p>第 7 回 渡航準備④（出発前最終確認）</p> <p>現地研修：</p> <p>第 8 回～第 14 回 保健医療制度の講義、シミュレーション演習、医療・福祉施設の見学、シャドウイング等</p> <p>事後研修：</p> <p>第 15 回：看護研修全体の振り返りと報告会準備</p> |

| | | | | | |
|-------------------------|--|----|-----|-----|------|
| アクティブ ラーニング | 研修参加にあたっては、日米の保健医療・看護教育制度、文化、社会・歴史的背景、健康問題、看護の現状と課題等に関する基本的な理解と議論を深め、自分なりの視点と課題を明確にしておく。そのために個人及びグループで3つの事前課題に取り組み、成果を発表する。研修後には全体の振り返りで学びを共有し、レポートを作成する。 | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | WebClass を用いて、事前課題の提出と理解度の確認を行う。 | | | | |
| 評価方法 | 事前研修・課題 35%、現地研修 50%、事後研修・課題 15% | | | | |
| 課題に対する フィード バック | 事前事後学修の各課題に対し、履修者全員が研修の目的・目標に到達できるまで、各担当者が個別・グループ指導を行う。 | | | | |
| 指定図書 | なし | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | 4つの課題を課す。①日米の医療や看護教育等に関する調べ学修、②研修先(施設)の概要に関する情報収集、③英会話・看護英語のセルフトレーニング、および④学びのレポート作成。課題内容により異なりますが、週平均 1~2 時間の自己学習が必要です。③については毎日、30分以上の語学学習を習慣づけてください。 | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | 厚生労働省、「2023年海外情勢報告」(本文) 第1章 労働施策の概要と最近の動向 第2節 アメリカ合衆国 (United States of America) 第2章 社会保障施策の概要と最近の動向 第2節 アメリカ合衆国 (United States of America) https://www.mhlw.go.jp/stf/toukei_hakusho/kaigai23_00001.html | | | | |
| オフィス アワー | 木曜日午後 (3413 研究室)。不在の場合には、メール (yoko-a@seirei.ac.jp) でご連絡ください。 | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | なし | | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | | |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 国際看護実習 |
| 科目責任者 | 藤浪 千種 |
| 単位数他 | 2単位 (90時間) 選択 7セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP7 専門 |
| 科目の位置付 | 地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。 |
| 科目概要 | 日本での事前学習やシンガポールの保健・医療・福祉施設での看護実習を通して、日本とシンガポールにおける社会文化的背景、健康ニーズ、保健・医療・看護について学修する。また、国際社会における看護専門職への期待や果たすべき役割を考察し、自身が看護専門職としてグローバルに活躍するための目標や課題を見出す。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. シンガポールの生活習慣、文化、健康課題、保健・医療システム、看護教育制度が理解できる。 2. シンガポールの人々の健康課題と看護専門職の役割、看護の実際が理解できる。 3. グローバル化社会における看護の可能性や役割を考察することが出来る。 4. 医療専門職・一社会人として責任ある態度で積極的に学ぶことができる。 5. 自身がグローバルに活躍する看護専門職となるための課題や目標が見いだせる。 |
| 授業計画 | <p>【担当教員】藤浪千種、加藤貴子 【引率教員】加藤貴子</p> <p>【対象学生】看護学部4年次生 2名</p> <p>【臨地実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 期間：2週間 9月予定 2) 実習場所：シンガポール ナンヤン理工学院・保健医療施設等 (保健医療施設：例) <ul style="list-style-type: none"> * TTSH Ang-Mo Kio-Thye Hua Kwan Hospital (リハビリテーション病院) * Tan Tock Seng Hospital (タントクセン病院) *Dover Park Hospice(ホスピス) *Health Promotion Board (シンガポール健康省管轄 健康増進協会) *Home Nursing Foundation (訪問看護) *AWWA Dementia Day Care Center in Yushun (認知症デイケアセンター) *AWWA Inregrated Home&Day Care Center in Ang Mo Kio (ホーム&デイケアセンター) 3) 実習内容：主に以下①―④である。 <ol style="list-style-type: none"> ①ナンヤン理工学院看護教員による保健・医療・看護に関する講義 ②英語によるプレゼンテーション、ディスカッション ③病院・施設等の見学 ④病院・施設等での実習 4) その他 実習内容やスケジュールは国際状況やナンヤン理工学院との調整で最終的に決定されるため変更の可能性あり。 |
| アクティブラーニング | ・実習科目です。 |
| 授業内のICT活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットなどで保健医療に関する国際情勢、シンガポールの医療保障制度・健康指標データ等を調べる。 ・臨地実習期間中は遠隔会議システムやSNS等を活用し実習の振り返りやまとめを行う。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・評価は以下①②の方法で行う。 ①課題レポート (事前文献学習レポート、英語によるプレゼンテーション資料、振り返りレポート、報告会プレゼンテーション資料を含む) 30% ②臨地実習の目標達成度 70% ※ルーブリックは用いない。 |

| | | | | | |
|-----------------|---|--------|------|---------------|--|
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ・実習前の学修では、科目担当教員と引率教員が課題レポートへのコメントやディスカッションを通して、課題とその成果に対するフィードバックを行う。 ・臨地実習中の学修では、引率教員とナンヤン理工学院教員が実習をサポートしながら、課題とその成果に関するフィードバックを行う。 ・実習後の学修では、引率教員が課題レポートへのコメントやディスカッションを通して、課題とその成果に対するフィードバックを行う。 | | | | |
| 指定図書 | 下記参照 | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| 国際化と看護 | 大橋 一友 | メディカ出版 | 2018 | 9784840465939 | |
| 参考図書 | ・授業中に随時提示します。 | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>【実習前学修】 4～8月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献学習・意見交換・レポート作成 <ul style="list-style-type: none"> ・日本とシンガポールにおける生活習慣、文化、主な健康課題、保健・医療システム、看護教育制度等に関する学修を行う。 2. 臨地実習計画書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・関心のある保健・医療・看護に関するテーマについて学ぶための実習計画書を作成する。 3. プレゼンテーション資料（英語）の作成とプレゼンテーションの練習 <ul style="list-style-type: none"> ・上記2で取り上げたテーマに関するプレゼンテーション資料を英語で作成し、プレゼンテーションの方法を学ぶ。 4. 英語学習 <ul style="list-style-type: none"> ・毎日30分以上の英語学習を行う。 ・TOEIC受験：Listening & Reading Test（実習までに1回受験）：任意 5. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・教員（引率教員、専門分野教員）との学修会 <p>※参加学生のニーズや臨地実習施設に沿った学修も適時追加で行う。</p> <p>【実習後学修】 9～11月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・実習前・実習中の学修内容をもとに、関心のあるテーマを決定しレポートを作成する。 ・臨地実習やシンガポール滞在中の体験をもとに、国際社会における看護の可能性や役割、自身がグローバルに活躍する看護専門職となるための課題や目標を整理する。 2. 国際看護実習報告会で、実習の学びについてのプレゼンテーションを行う。 | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省. 統計情報・白書. 第2章 東及び東南アジア地域にみる社会保障施策の概要と最近の動向、第3節 シンガポール共和国 (Republic of Singapore) https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/22/ https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/22/dl/c4-07.pdf ・世界保健機関. Global Health Observatory (GHO) data Singapore. https://www.who.int/singapore/ | | | | |
| オフィスアワー | <ul style="list-style-type: none"> ・不在にしていることもあるため、質問や相談などがある場合は事前にメールでご連絡ください。具体的な時間については初回オリエンテーション時に提示します。 藤浪千種（研究室：1208） メールアドレス：chigusa-f@seirei.ac.jp 加藤貴子（研究室：1212） メールアドレス：takako-k@seirei.ac.jp | | | | |
| 実務経験に関する記述 | ・本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 基礎看護学実習 I |
| 科目責任者 | 田口 実里 |
| 単位数他 | 1 単位 (45 時間) 必修 2 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 看護の対象となる人々の医療施設における療養環境の実際を理解し、療養生活における看護の役割について考える。また、看護学生に必要な基本的態度を身につける。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の入院中の療養環境の実際を理解することができる 2. 病院での看護実践の見学や体験をとおして、療養生活における看護の役割について考えることができる 3. 看護学生に必要な基本的な態度を身につける |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 田口実里、佐久間佐織、炭谷正太郎、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、橋積亜希子、夏目麻理 他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松市リハビリテーション病院、浜松ろうさい病院、北斗わかば病院、遠州病院 2. 実習期間 実習オリエンテーション 12月～1月 3回 臨地実習 2月 3. 実習展開 実習オリエンテーション (学内) 臨地実習 (3日間) 臨地での学びに対する実習成果報告会 (学内) |
| アクティブラーニング | 実習科目 |
| 授業内のICT活用 | なし |
| 評価方法 | 到達目標に合わせ、ルーブリックを用いて評価する。 |
| 課題に対するフィードバック | 教員との面談や体験報告会でのコメント、実習記録へのコメントなどにより、事前学修、実習記録、実習での体験についての成果や課題、解決方法についてフィードバックする。 |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | 必要時、事前に提示する。 | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | 必要時、都度提示する。 | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>【事前学修】 実習要項を熟読する 看護学原論Ⅰ、看護学原論Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱの学修内容を復習する 学修した看護技術についてセルフトレーニングする 実習施設、代表的な疾患や治療について調べる</p> <p>【事後学修】 実習で質問されたことや疑問をテキストなどを使って調べる</p> | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | 事前事後学修として以下の URL のオンライン教材を利用する ナーシングスキル： https://nursingskills.jp/ , エルゼビアジャパン | | | | |
| オフィスアワー | 看護学部 1 号館 6 階 1619 研究室 随時 ※不在の場合は、メール (misato-t@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である | | | | |
| メディア授業の実施について | 感染状況などにより、病院での実習が実施できない場合には、遠隔での実習となる場合がある。 | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 基礎看護学実習Ⅱ |
| 科目責任者 | 炭谷 正太郎 |
| 単位数他 | 2単位(90時間) 必修 3 Semester |
| DP番号と科目領域 | DP4 専門 |
| 科目の位置付 | 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。 |
| 科目概要 | 受け持ち患者への看護実践活動を通し、患者の療養生活を理解し、援助のための基本的な看護技術と看護過程の基礎を学修する。また、対象者に必要な療養生活援助のための計画を立案し、看護技術を実践・評価する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者を尊重し、援助的な人間関係を構築することができる 2. 患者の情報を整理・統合し、療養生活の援助を中心とした看護過程を展開することができる 3. 展開した看護過程に基づき患者に必要な看護ケアを実施し、評価することができる 4. 看護職に必要な基本的な態度を持ち、主体的に行動できる |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 炭谷正太郎、佐久間佐織、田口実里、橋積 亜希子、吉里心希、早川ゆかり、有村優範 他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 6月：OSCE 8月～9月：学内実習、臨地実習、症例カンファレンス、評価面談 2. 実習場所 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松市リハビリテーション病院、浜松医療センター、浜松ろうさい病院、北斗わかば病院 3. 実習展開 OSCE、実習オリエンテーション、臨地実習、症例カンファレンス、評価面談で構成する |
| アクティブラーニング | 多面的な経験をし学ぶ実習科目です。 |
| 授業内のICT活用 | 実習オリエンテーション、奨励カンファレンスの出席、リアクションペーパーはWebClassを使用します。 |
| 評価方法 | <p>実習への取り組み姿勢・カンファレンスへの参加度 50%、自己評価に基づく振り返り 30%、実習記録 10%、課題レポート 10%</p> <p>実習の到達目標に合わせ、項目ごとにルーブリックを用いて評価します。 OSCEに合格することが臨地実習に参加するための要件となります。</p> |
| 課題に対するフィードバック | 臨地実習当日および最終の評価面談にて実習記録等を基に担当教員と面談の時間をもち、自己の課題と解決方法についてフィードバックを行います。 |

| 指定図書 | 下記参照 | | | |
|--|--|------|------|---------------|
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第19版 | 茂野 香おる | 医学書院 | | 9784260049924 |
| 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第18版 | 有田 清子 | 医学書院 | | 9784260042123 |
| | | | | |
| 参考図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| ヘルスアセスメント 〈Web 動画付〉改訂第2版 臨床実践能力を高める | 三上 れつ 編集 | 南江堂 | 2017 | 9784524257485 |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 受け持ち患者への看護実践に備え基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱで学修した看護技術の復習が必要となります。また、基礎看護技術Ⅲで学修した看護過程の展開を理解した上で、受け持ち患者に対する看護計画の立案や看護ケアの実施・評価を行うことが求められます。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | ナーシングスキル： https://nursingskills.jp/ ，エルゼビアジャパン | | | |
| オフィスアワー | オリエンテーション時にお知らせします。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | 本科目は遠隔授業の実施科目ではありません。 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 地域在宅看護学実習 |
| 科目責任者 | 岩瀬 美保 |
| 単位数他 | 2単位 (90時間) 必修 5・6セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | 在宅看護の対象である療養者と家族の理解に努め、生活の場における看護実践の特性と看護過程を理解し、生活の場における看護技術の専門性を考察する実習を行う。 在宅療養者の生活の質の向上に向けた法や制度の活用を理解し、地域包括ケアシステムの重要性、多職種連携・協働を学ぶ実習を行う。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象である療養者と家族を総合的に捉えることができる。 2. 訪問事例において、療養者とその家族を療養生活のアセスメントし、課題解決に向けての看護過程を考えることができる。 3. 訪問看護の実際から、療養者と家族の生活に応じた援助方法を理解する。 4. 地域包括ケアシステムにおける看護の継続性や多職種連携、協働の実際を学び、療養者・家族を支える社会資源の活用について考えることができる。 5. 看護学生としての礼節を重んじ、専門職種としての態度・姿勢・行動をとることができる。 |
| 授業計画 | <p>担当教員名：岩瀬美保 酒井昌子 山村江美子 小池武嗣</p> <p>実習期間：2週間（臨地6日間）</p> <p>実習施設：訪問看護ステーション住吉、浅田、貴布祢、高丘、細江、三方原、三ケ日、富丘坂の上訪問看護ステーションあずきもち、訪問看護ステーション上西坂の上在宅医療支援医院 坂の上暮らしの相談所 訪問看護ステーション北斗わかば 北斗わかば居宅介護支援事業所</p> <p>実習方法：実習時間は8:30～16:45である。 現地実習：6.5日間（1日約2件 スタッフとともに同行訪問を行う）</p> <p>学内実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に訪問したケースから1件を選択し、看護過程を展開する（情報収集、アセスメント、状況関連図作成、看護計画立案） <p>カンファレンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニカンファレンス毎日16:15～16:45：学生間で情報や体験を共有し学びを深める ・中間もしくは最終カンファレンス（1週目金曜または2週目火曜に学生、実習指導者、教員で実施する。施設毎に異なる） ・学内のまとめ（2週目木曜 9:00～12:00 学生、教員全員が参加し、2週間の訪問看護実習で学んだことを発表・共有する） <p>課題レポート 在宅看護実習を通して学んだ「生活の場における看護実践の特性と看護師の専門性」について論じる（1200文字以上A4用紙2枚まで）</p> |

| | | | | | |
|-------------------------|--|----|-----|-----|------|
| アクティブ ラーニング | 実習科目です | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | 必要時、遠隔会議システムなどを活用したオンライン実習を行います。 実習中の自己学修の成果はweb クラスのポートフォリオで管理します。 | | | | |
| 評価方法 | 実習目標の達成度 10% 出席状況 10% 日々の記録・看護過程展開（関連図、看護計画）・課題レポート 50% 実習に取り組む姿勢や態度 30% | | | | |
| 課題に対する フィード バック | 「毎日の記録」2枚は、翌日までに同行訪問スタッフに提出し、コメント欄の記載によってフィードバックを受ける。 状況関連図・看護計画の作成過程において、担当教員の指導を受けて提出用に完成をさせる。 | | | | |
| 指定図書 | なし | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 参考図書 | 強みと弱みからみた地域・在宅看護過程 河野あゆみ編集 医学書院 療養者が望む暮らしを支える地域・在宅看護過程 尾崎章子/蒔田寛子 編集 医歯薬出版 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | <p>事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度やその他関連する制度・社会資源について復習する ・ケアマネジメント、介護支援専門員の役割、地域在宅看護で関係する多職種について復習する ・実習施設の概要、地域特性を調べておく ・訪問者としてのマナーについて復習する <p>毎日異なるご利用者宅に同行訪問をするため、同行訪問後の事後学修が必要となる。疾患・使用薬剤・基本的治療・利用している社会資源サービスなどを確認する。</p> <p>毎日の事後学修は「自己学修記録用紙」に記載、もしくは、ワードで作成しweb クラス内ポートフォリオに提出する。</p> | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | | |
| オフィス アワー | <p>科目責任者：岩瀬美保 (3413 研究室) miho-i@seirei.ac.jp 学外での実習指導に従事していることが多いため、メールでの連絡をお願い致します。</p> <p>酒井昌子 (3410 研究室) : masako-s@seirei.ac.jp 山村江美子 (3412 研究室) : emiko-y@seirei.ac.jp 小池武嗣 (1607 研究室) : takeshi-k@seirei.ac.jp</p> | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「看護師・保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア 授業の実施 について | 実習科目です | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 急性期看護学実習 |
| 科目責任者 | 寺田 康祐 |
| 単位数他 | 2単位 (90時間) 必修 5・6セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | 急性期(周術期)にある人の特徴とその家族の全体像を理解し、必要な看護実践を行うための知識・技術・態度を習得する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期にある患者とその家族に関心を寄せ、適切な援助関係を築くことができる。 2. 周術期にある患者の特徴を理解し、看護過程を展開できる。 3. 周術期にある患者に対し、根拠に基づいた看護を実践できる。 4. 医療チームの一員として責任ある態度で積極的に実習に取り組むことができる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>大石ふみ子、藤浪千種、乾友紀、寺田康祐、石川小雪 ほか</p> <p><授業概要> 周術期にある患者を受け持ち、疾患・病態、検査・処置、手術療法、その他の治療による生体侵襲や心理的・社会的影響を理解し、予測される変化に対して科学的根拠に基づき合併症予防や回復促進を目標とした看護を実践する。</p> <p><実習期間> 2週間</p> <p><実習施設> 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院の成人外科系病棟、手術室</p> <p><実習方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1名(または2名)の手術療法を受ける患者を受け持つ ・受け持ち患者の手術を見学する ・術後の合併症予防と回復促進の看護過程を展開する ・臨床実習指導者と共に看護計画に沿って看護実践をする ・臨床実習指導者とカンファレンスを行う ・周術期看護について臨床講義を受ける <p>詳細は『急性期看護学実習要項』『臨地看護学実習の手引き』をもとに、実習オリエンテーションで説明します。</p> |
| アクティブラーニング | 実習科目です。 |
| 授業内のICT活用 | なし |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ループブックを用いて評価します。ループブックは実習記録とともに配布し、また、WebClassにも掲載します。 <p>看護実践・実習記録：90% 実習態度：10%</p> |
| 課題に対するフィードバック | <p>事前学習ワークブックは実習初日に担当教員が確認をします。</p> <p>実習記録に関しては担当教員が毎日確認し、看護実践場面、カンファレンスなどを含めて個人・グループに対して成果や課題などをフィードバックします。</p> |

| | | | | |
|---------------------------------|---|------|------|---------------|
| 指定図書 | 指定図書はありません。 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 参考図書 | <p>・エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 第3版：阿部敏子（監）、山本則子他（編）、中央法規出版、2024。 その他は下記を参照してください。</p> | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 成人看護学 急性期看護 I 概論・周手術期看護 (改訂第4版) | 林直子 | 南江堂 | 2023 | 9784524232314 |
| 周術期の臨床判断を磨く I 第2版 | 鎌倉 やよい | 医学書院 | | 9784260050777 |
| 事前・事後学修 | <p>本科目は、成人看護学概論、急性期看護援助論、急性期看護援助論演習の内容を踏まえる科目です。特に、急性期・慢性看護援助論演習で学修した内容（看護過程の展開、シミュレーション）を活用して看護実践を行うため、理解を深めておいてください。</p> <p>【事前学習】演習の内容（看護過程の展開、シミュレーション内容）、ワークブックを活用し、看護実践に必要な知識・技術の確認をしてください。</p> <p>【事後学修】看護実践の振り返りやまとめ、翌日の行動計画立案や看護実践を行うための知識・技術の確認に毎日約180分の自己学修をが必要です。</p> | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | <p>以下の教材を活用し、看護技術や看護過程・疾患について学修してください。</p> <p>医学映像センター：「VISUALEARN CLOUD」</p> | | | |
| オフィスアワー | <p>質問や相談などは事前にGmailでアポイントを取ってください。</p> <p>科目責任者：寺田康祐 kousuke-t@seirei.ac.jp 1608 研究室 担当教員：大石ふみ子 fumiko-o@seirei.ac.jp 1219 研究室 藤浪千種 chigusa-f@seirei.ac.jp 1208 研究室 乾友紀 yuki-i@seirei.ac.jp 1217 研究室 石川小雪</p> <p>各実習担当者への連絡方法は、初日のオリエンテーション時にお知らせします。</p> | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 慢性看護学実習 |
| 科目責任者 | 河野 貴大 |
| 単位数他 | 2 単位 (90 時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | 慢性疾患により入院治療を受ける患者とともに健康問題を見出し、解決するための能力を習得する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患が患者と家族に与える影響を身体的、心理的、社会的側面からアセスメントできる。 2. 病いをもって生活する患者と家族の療養上の問題を抽出し、看護過程を展開できる。 3. 病いをもって生活する患者と家族が、自律した生活を送るための支援を理解し、看護を一部実践できる。 4. 慢性疾患を有する対象への看護実践を通して、病気とともに生活することに対する看護者としての考えを深める。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>：河野貴大、河口てる子、和田由樹、水島史乃、山崎淑恵、長山有香理</p> <p>【実習期間】2 週間 【実習施設】聖隷浜松病院、聖隷三方原病院の成人内科系病棟 【実習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、学生同士のディスカッションを活発に行い、慢性疾患を有する対象への看護の理解を深めます。 ・臨地実習では、慢性疾患を有する対象を受け持ち、対象と家族に対する看護を実践します。 ・実習における注意点、実習施設の所在地は「臨地看護実習の手引き」を、学修進度や詳細な実習方法、事前学修に関しては「慢性看護学実習要項」を確認してください。 ・実習の具体的な学修方法・内容・進度などは、実習初日のオリエンテーションで説明します。 |
| アクティブラーニング | 実習科目です。 |
| 授業内の ICT 活用 | Web Class を使用し、一部の提出物、課題の管理を行います。 また、実習の学びに関するプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの詳細な内容は実習記録とともに配布します。 対象理解：20%、看護問題の抽出と実践（倫理観含む）：70%、レポート：10% 計 100% ・最終日に学生と教員で個人面談を行います。 |
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修課題については WebClass に掲載します。 ・実習中の記録は担当教員が毎日確認し、看護実践場面、カンファレンス等も含めて個人・グループに対して成果や課題をフィードバックします。 ・実習における各自の学びについて、グループメンバーとディスカッションすることで共有を行うとともに教員からフィードバックを行います。 |

| | | | | |
|------------------------|--|-----|------|---------------|
| 指定図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 参考図書 | 以下に加え、対象に応じて学修に必要なものを提示します。 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 成人看護学 慢性期看護 (改訂第4版) | 鈴木久美 | 南江堂 | 2023 | 9784524234363 |
| 事前・事後学修 | 実習中の事前・事後学修は、その日の看護の振り返り、翌日のケアに対する目的、安全性・根拠に基づいた計画、指導者・教員から提示された学修、ケアを提供するためのアセスメントなどを行うため、180分/日程度の学修が必要です。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | 看護実践に必要な基本的知識、技術の確認のために活用してください。 「VISUALEARN CLOUD」 | | | |
| オフィスアワー | 科目責任者：河野貴大 (1608 研究室) : takahiro-k@seirei.ac.jp 各実習担当教員は、WebClassに掲載するとともに実習オリエンテーション時にお知らせします。 質問や相談などは実習担当教員または科目責任者に Gmail でアポイントを取って下さい。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は、「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 老年看護学実習 |
| 科目責任者 | 加藤 貴子 |
| 単位数他 | 2単位 (90時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | 健康並びに生活支援の必要な対象者を身体的・心理的・社会的な存在として統合的に理解し、その人のもてる力を活かした看護を考え実践する能力を養う。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者に関心を持ち、適切なコミュニケーションの方法について考えることができる。 2) 加齢による身体的・心理的变化及び社会的役割の変化を理解することができる。 3) 疾病や障害を持ちつつ自立を目指しながら生きる高齢者についての理解を深められる。 4) 高齢者の身体的・精神的・心理的・社会的な特徴をふまえ、健康上・生活上の課題のアセスメントができる。 5) 個別性を考慮し、自立を目指した高齢者の生活支援を計画・実践・評価することができる。 6) 高齢者と家族を取り巻く保健・医療・福祉システムの現状を知り、看護の役割が理解できる。 7) 高齢者に対し、尊厳ある態度を身につけ、老年観を発展することができる。 |
| 授業計画 | <p>【担当教員名】加藤貴子 山田紀代美 渡邊昌子 木村暢男 内藤智義</p> <p>【実習期間】臨地実習2週間</p> <p>【実習施設】</p> <p>浜松市リハビリテーション病院 西山病院 北斗わかば病院 介護老人保険施設 介護老人保健施設：三方原ベテルホーム、 介護老人福祉施設：浜松十字の園、 介護付有料老人ホーム：浜名湖エデンの園、浜松ゆうゆうの里</p> <p>【臨地実習方法】*日程は祭日などで変更することがある。</p> <p>病院実習：1週間：患者1名を受け持ち、看護過程を展開し、実践・評価をする。</p> <p>施設実習：2日間：利用者1名を受け持ち、コミュニケーションや個々の活動を通して、 現在の楽しみや生きがい、今後の希望などについて把握し、自己の老年観を発展させる</p> <p>【評価について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習最終日に実習評価表を用いて自己評価し、実習目標の到達度、看護実践を可視化し評価を行う。 |
| アクティブラーニング | <p>実習科目です。</p> <p>臨地実習では、グループ事に毎日カンファレンスを行います。</p> <p>病院実習、施設実習の最終日は実習指導者が同席したカンファレンスを行い学びを深めます。</p> <p>施設実習では、各施設の特性などの学びを共有する発表会を行います。</p> |
| 授業内のICT活用 | <p>社会情勢、保健・医療・福祉システムの現状、地域連携、疾病や障害をもちつつ自立を目指しながら生きる高齢者などについて、幅広く知識を深め、より理解ができるよう、文献やインターネットを活用して調べます。</p> <p>グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。</p> |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 評価方法 | <p>1. 目標達成度 病院実習 60 点、施設実習 30 点、態度・意欲等 10 点 *実習記録に関してはルーブリックを使用致しません。</p> <p>2. 臨地実習を欠席した場合、実習目標の到達度状況により、臨地での追実習を行う場合があります。</p> | | | | |
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ・実習記録へのコメントの記載、カンファレンスでの指導・助言を行います。 ・課題領域についての根拠やその後のアセスメント計画、実践・評価などについて適宜個別指導を行います。 ・実習中や終了後にフィードバックを行います。 | | | | |
| 指定図書 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | 生活機能からみた 老年看護過程 病態・生活機能関連図 第4版 | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | 事前・事後学習：老年看護学概論、老年看護援助論、老年看護援助論演習の講義資料を活用できるようにまとめてください。 | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 加藤貴子：看護学部 研究室：1212 研究室 e-mail：takako-k@seirei.ac.jp | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | 実習科目です。 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 科目名 | 母性看護学実習 |
| 科目責任者 | 村松 美恵 |
| 単位数他 | 2単位 (90時間) 必修 5・6セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | 母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護援助論演習で習得した知識や技術を活用し、生活者としての妊産婦、新生児（胎児）、夫（パートナー）、家族に対して積極的な関心を持ち、適切な対人関係のもとに看護過程を用いて、親となり、新たな家族形成を必要とする人々に対する看護を学修する。ハイリスク新生児に接してその特徴を知り、児とその家族に対する看護を学修する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産婦と新生児の特徴を理解し、看護の対象に積極的な関心を持ち、適切な対人関係のもと五感を用いて対象のニーズの特定、看護過程の展開や指導案の立案ができる。 2. 妊産婦と家族の権利を擁護し、看護者としての倫理観を養う。 3. 対象のタイミングを考えて、母性看護に特有な看護技術を実践できる。 4. 妊産婦と家族に必要な関係職種の専門性を生かした連携・協働、看護職に期待されている役割を理解できる。 5. 妊産婦との関わりを通して生命の尊厳について考えることができる。 6. リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する知識の普及など生涯にわたる女性の健康の保持・増進について考えることができる。 7. 緊急時（災害を含む）の看護職の果たす役割を理解できる。 8. 自ら進んで労を厭わず、多面的な経験をし、看護の概念の理解を深めることができる。 9. 学生間でメンバー・リーダーの役割を担うだけでなく、保健・医療・福祉チームの一員としての役割と責任が自覚できる。 10. 自己の健康管理を行い、看護専門職となるため自己を律して責任ある実習態度をとることができる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 村松美恵、黒野智子、神崎江利子、室加千佳、藤本栄子</p> <p>実習実習：聖隷三方原病院、聖隷浜松病院の2施設と地域での子育て支援ひろば等である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥・新生児看護実習：1組の母子を1～2名の学生で、継続して受け持つ。 2. 産婦看護実習：帝王切開分娩を受け持つこともある。 3. 妊婦看護実習・子育て（育児）支援実習：助産外来、出産準備クラス（母親学級など）、母乳外来、地域の子育て支援事業等に参加し、妊娠中や退院後の母児（およびその家族）の理解につなげると共に看護者と関連職種との連携についても学修する。 4. ハイリスク児看護実習：聖隷三方原病院 NICU、聖隷浜松病院 NICU・GCU にてシャドウイング実習やハイリスク児を受け持つことがある。 5. ハイリスク妊産婦実習：聖隷浜松病院 MFICU にてシャドウイング実習や産褥を継続して受け持つ実習を行う。聖隷三方原病院 C2 病棟にて妊婦を継続して受け持つこともある。 6. 妊産婦の日常生活を考え、保健指導案を作成する。 7. 緊急時（災害を含む）における女性への支援について考える。 8. 地域の男女共同参画の現状や課題について考える。 <p>※1～5のいずれかの対象を通して目標に達するように学修する。 ※実習スケジュールの詳細は、WebClassに掲載する。また、実習に関する様々な情報は、WebClassまたはGmailで配信するため必ず確認すること。</p> |

| | | | | | |
|-------------------------|--|--------|--------|------|---------------|
| アクティブ ラーニング | 自ら進んで労を厭わず多面的な経験をし学ぶ実習科目である。 | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | グループ発表のプレゼンテーションは電子黒板を利用して行う。教員が作成した視聴覚教材（web 聖隷タウン等）を使用する。 | | | | |
| 評価方法 | 実習姿勢・実習記録・レポートをもとに実習目標達成度についてルーブリック（自己評価表に記載された項目参照）を用いて評価する（100%） | | | | |
| 課題に対する フィード バック | 学生の疑問に対しては、日々のカンファレンスや実習のまとめ、個別面談にてフィードバックする。 | | | | |
| 指定図書 | 下記参照。 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | 母性看護学[1] 母性看護学概論 第14版 | 森 恵美 | 医学書院 | | 9784260042253 |
| | 母性看護学[2] 母性看護学各論 第14版 | 森 恵美 | 医学書院 | | 9784260042239 |
| | | | | | |
| 参考図書 | 下記参照。その他、実習中に随時紹介する。 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | 概論・リプロダクティブヘルスと看護 第3版 | 中込 さと子 | メディカ出版 | 2024 | 9784840481601 |
| | 母性看護の実践 第3版 | 小林 康江 | メディカ出版 | 2024 | 9784840481618 |
| | 母性看護技術 第6版 | 荒木 奈緒 | メディカ出版 | 2024 | 9784840481625 |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | <ul style="list-style-type: none"> ・「母性看護学 学修ノート」を見直すこと。 ・講義時の配布資料も活用すること。 ・母性看護実習室（母性領域側）の沐浴槽は、学生が自主的に練習できるように準備してあるため、使用希望時間を予約表に記載して実習前までに必ず練習すること。沐浴槽の予約方法、使用方法等は、WebClass に掲示している。 ・実習の手引きはWebClass に掲示しているため、事前に確認しておくこと。 ・自主学習として、以下の URL 講座の視聴を勧める。 VISUALEARN クラウド https://seirei.visualearn.jp/p/php/login.php | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習として、以下の URL 講座の視聴を勧める。 NursingSkill www.nursingskills.jp MNN-009 産褥の退院指導 看護 roo https://www.kango-roo.com/mv/ 動画でわかる看護技術 母性看護技術 看護 roo https://www.kango-roo.com/learning/8497/ 周産期ケアマニュアル | | | | |
| オフィス アワー | 看護学部、2711 研究室。時間については、オリエンテーション時に提示する。 村松美恵 (mie-t@seirei.ac.jp)、黒野智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp) 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp)、室加千佳 (chika-mu@seirei.ac.jp) 藤本栄子 (eiko-f@seirei.ac.jp) | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。 | | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし。 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 小児看護学実習 |
| 科目責任者 | 山本 智子 |
| 単位数他 | 2単位 (90時間) 必修 5・6セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | 健康な乳幼児の保育活動に参加し、子どもとの関わり方や成長・発達に適した日常生活の援助の方法を学修する。病院や医療型障害児入所施設で健康を障がいの子どもや発達に障がいがある子どもを受け持ち、生命の尊厳と隣人愛を基盤として、看護過程を展開しながら子どもとその家族を総合的に理解し、子どもとその家族への看護を学修する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. こども園実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の成長・発達の特徴について理解できる。 2) 家庭・地域社会など小児を取り巻く状況を理解できる。 3) 小児の成長・発達に適した生活援助を実践することができる。 2. 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の成長・発達の特徴が理解できる。 2) 小児の現在の健康障害および健康レベルが理解できる。 3) 健康障害・発達障害や入院・受診が小児と家族に及ぼす影響を理解できる。 4) 小児と家族の理解に基づき看護過程が展開できる。 5) 小児と家族の状況に応じた看護援助が実践できる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>山本智子、小出扶美子、宮谷 恵、市江和子 他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 <ul style="list-style-type: none"> ・ こども園実習 (保育園含む) は、聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園、聖隷こども園わかば、聖隷こども園桜ヶ丘、聖隷こども園ひかりの子、和光こども園、なごみこども園、聖隷浜松病院ひばり保育園、学内など。 ・ 病院実習は、聖隷浜松病院の小児病棟・小児科外来、聖隷三方原病院の小児病棟 (病棟の状況によって小児科外来またはPICUの見学を含む)、聖隷おおぞら療育センター (医療型障害児入所施設) のうち、いずれか一ヶ所で行う。 2. 実習期間：臨地実習は2週間行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学内実習日 (実習オリエンテーション、記録の整理等) 2日間 ・ こども園実習3日間 ・ 病院実習5日間 3. 実習計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ こども園実習と病院実習の実習計画は、事前に配布する小児看護学実習配置表に記載している。 ・ 状況に応じてオンラインを活用して実習する。 4. 実習内容 <ul style="list-style-type: none"> それぞれの実習の内容についての詳細は、実習オリエンテーションで説明をする。 |

| | | | | | |
|-------------------------|---|----|-----|-----|------|
| アクティブ ラーニング | 実習科目である。 | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | インターネットから必要な情報を検索して、実習記録E-2（自己学習）、E-3（受け持ち患児の観察項目・内容）を学習する。 また、WebClass、ビジュランクラウドなどを使用する。 | | | | |
| 評価方法 | 実習記録や実習に取り組む姿勢から各実習目標の達成度を実習評価表の評価基準にそって評価をする。こども園実習Ⅱはルーブリックを用いて総合的に評価を行う。 | | | | |
| 課題に対する フィード バック | 事前学習課題および実習中の課題はその都度確認し、個々にフィードバックを行う。 | | | | |
| 指定図書 | 講義で使用した指定図書を使用する。また、実習内で適宜資料を提示する。 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 参考図書 | 実習内で適宜資料を提示する。 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | WebClass 内にある「小児看護学実習」のこども園実習 事前学習課題と小児看護学実習事前学習課題を行い、小児の成長・発達や小児看護実践に必要な知識と看護技術について事前学習をする。 実習中の学習は教員の指示に従って、実習記録を進めていく。 実習用事前学習課題は 4 時間程度、実習中の日々の事前学習 1 時間、事後学習(実習の振り返り、看護過程の展開)は1~2 時間程度とする。 | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし。 | | | | |
| オフィス アワー | 山本 智子：月曜日午後（1218 研究室）tomoko-y@seirei.ac.jp 小出 扶美子：月曜日午後（2713 研究室）fumiko-k@seirei.ac.jp 宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室）megumi-m@seirei.ac.jp 市江 和子：金曜日午前（1712 研究室）kazuko-i@seirei.ac.jp | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。 | | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし。 | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 精神看護学実習 |
| 科目責任者 | 清水 隆裕 |
| 単位数他 | 2 単位 (90 時間) 必修 5・6 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | 精神医学的問題を抱える、または精神看護的アプローチを必要とする患者・クライアント（以下対象者とする）への看護を実践を通じて学ぶ。それは対象者の置かれた状況に応じた看護過程を使った看護展開を行うことにより学修する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の全人的理解ができる。記録類の活用および対象者との対応等を通じ、対象者を身体/生物学的側面・精神/心理学的側面・文化/社会学的側面・実存/人間学的側面から説明ができる。 2. 精神看護診断を行うことができる。精神看護診断の手続きを実行、表記することができる。 3. 看護計画を立てることができる。インフォームド・コンセントに留意しながら、個々の対象者に対応した援助計画を立てることができる。可能な限り対象者の同意を得た看護計画とする。 4. 計画に基づいた日常生活の援助ができる。精神力動に留意しながら看護計画に基づいた日常生活の援助を実施することができる。 5. 得られた結果から看護の評価、修正を行うことができる。ISOAP で看護過程を記載することにより、柔軟に情報の補充・修正、看護計画の修正を行うことができる。 6. 治療的環境としての自己活用ができる。ペプロウの理論を参照しながら、出会いから別れまでを丁寧に営み、治療的な対人関係の基本を体験学習するとともに治療的環境としての看護師のあり方を下記を通じ学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の内面にある偏見や価値観との葛藤を、学生のカンファレンスや教員との面接で言語化することができる。 2) 必要時、プロセスレコードを利用し治療的態度や距離を吟味しながら、対象者へ看護を行うことができる。 7. 記録の記述、整理および活用ができる。 8. 対象者の体験、語りを尊重した対人理解ができる。 |
| 授業計画 | <p>担当教員/清水隆裕、入江拓、小平朋江、松本有希</p> <p>実習場所は聖隷三方原病院精神科急性期閉鎖病棟(C6 病棟)、朝山病院精神療養閉鎖病棟(3 病棟)精神科急性期治療閉鎖病棟(4 病棟)精神一般閉鎖病棟(5 病棟)の 4 箇所のうち 1 箇所にて 2 週間おこなう。詳細は実習オリエンテーションで説明します。</p> |
| アクティブラーニング | 実習科目です |
| 授業内の ICT 活用 | なし |
| 評価方法 | <p>実習態度 40% (言葉遣い、スタッフ・患者への挨拶、積極性など)</p> <p>実習内容 40% (対象者に対するかかわり、コミュニケーション、看護ケア)</p> <p>実習記録 20% (提出期限や内容)</p> |
| 課題に対するフィードバック | 日々の記録物や自己学習課題へのコメント、実習の内容を振り返る面接セッション |

| | | | | | |
|-----------------|---|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | 精神看護学概論、精神看護援助論、精神看護援助論演習で用いた教科書 | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | 実習の進行状況に合わせて、随時連絡します | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | 授業内容を復習して、実習に臨むこと。事後学修は適宜教員から示された課題を含め、記録や知識の整理等、毎日 120 分程度の自己学習を習慣づけてください。 | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 清水隆裕：看護学部 1214 研究室 e-mail : takahiro-sh@seirei.ac.jp 時間や各実習担当教員への連絡方法については、実習オリエンテーション時にお知らせします。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 聖隷看護基盤実習 |
| 科目責任者 | 室加 千佳 |
| 単位数他 | 1 単位 (45 時間) 必修 1 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 聖隷ゆかりの施設による実習で、「ともに生きる」ことや、「対人援助の営みを根底で支えているもの」について、そこに生きる方や支援する方と出会う体験を振り返ることにより、その体験の意味について建学の精神や聖隷の理念をふまえて言語化することで今後の学びの動機づけとする。本科目は看護専門職としてのあり方や、自身の生き方について考え学ぶ「聖隷の理念と歴史」と連動して展開される。看護を学ぶ上で基盤となる対人援助職としてのあり方を、聖隷の理念と関連させて意味づけ、発展させてゆくための動機づけとする。本科目は看護専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるための、建学の理念と精神の育成に関わる自校教育科目である。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 聖隷ゆかりの施設における創設期からの歴史的な変遷や活動を知ることができる。 2. キリスト教精神を基盤とした建学の精神や聖隷の理念について考え、意見を交わすことができる。 3. 聖隷ゆかりの施設での出会いや語りから、対人援助職としてのあり方を、聖隷の理念と関連させて意味づけ、自分の言葉で説明ができる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 室加千佳、清水隆裕、入江拓、熊澤武志、小池武嗣、隆朋也、遠山大成、内藤智義、長峰伸治、水島史乃、安田智洋、山本智子、菅井篤</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間： 4 月～7 月 2. 実習場所： <ul style="list-style-type: none"> 聖隷厚生園讃栄寮 聖隷厚生園信生寮 聖隷おおぞら療育センター 聖隷三方原病院 ホスピス 聖隷三方原病院 精神科デイケア 和合愛光園 みるとす 浜松十字の園 細江デイサービスセンター デイサービスセンターみをつくし 小羊学園三方原スクエア 浜名湖エデンの園 三方原ベテルホーム 3. 実習展開： <ul style="list-style-type: none"> 聖隷看護基盤実習は、実習オリエンテーション（学内）、臨地実習（臨地）、実習のまとめや実習成果報告会（学内）で構成する。 |

| | | | | | |
|-------------------------|---|----|-----|-----|------|
| アクティブ ラーニング | 多面的な経験をし学ぶ実習科目です。 | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | データベース・シミュレーション教材を使用します。各施設のホームページへのアクセスを行います。 | | | | |
| 評価方法 | 実習への取り組み姿勢・カンファレンスへの参加度 50%、実習記録・課題レポート 50% | | | | |
| 課題に対する フィード バック | 担当教員と面談の時間をもち、フィードバックを行います。 | | | | |
| 指定図書 | なし | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | 聖隷の理念や各施設の特徴などを事前に調べ学修します。実習オリエンテーションの内容を基に、聖隷の理念と歴史で学修している内容を復習します。 | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | | |
| オフィス アワー | <p>科目責任者：室加千佳 (研究室：2604、メール：chika-mu@seirei.ac.jp、オフィスアワー：水曜日Ⅲ限(11:45～13:00))</p> <p>事前にメールにてアポイントを取っていただくと確実です。</p> | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア 授業の実施 について | <p>学内実習にて2教室間の遠隔授業が含まれます。</p> <p>担当教員が各教室に分かれて授業を進行します。</p> <p>実習成果報告会の際は、発表の様子を動画撮影し、学びの共有を図ります。</p> | | | | |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 聖隷看護探求実習 |
| 科目責任者 | 炭谷 正太郎 |
| 単位数他 | 1 単位 (45 時間) 必修 7 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | <p>本科目は、看護を学ぶ上で基盤となる看護職としてのあり方を、聖隷の理念と関連させて意味づけ、発展させてゆくための動機づけとする、1 セメスター開講の「聖隷看護基盤実習」と連動して展開される。かつて、1 セメスターの聖隷看護基盤実習から始まり各領域で実施された聖隷ゆかりの施設における実習の経験を振り返り、「ともに生きる」ことや、「対人援助の営みを根底で支えているもの」について、建学の精神や聖隷の理念および聖隷の歴史や変遷をふまえて言語化する。また、聖隷ゆかりの施設での出会いや語りから、看護職としてのあり方を、地域貢献や保健・医療・福祉に関わる制度を含めて聖隷の理念および歴史や変遷に関連させて意味づけ、看護職としての在り方を探求する。</p> <p>本科目は看護専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるための、建学の理念と精神の育成に関わる自校教育科目である。</p> |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 聖隷ゆかりの施設における創設期から現在に至る歴史的な変遷や活動を知り、これまでの対人援助に関わる経験をふまえて意見を交わすことができる。 2. キリスト教精神を基盤とした建学の精神や聖隷の理念について考え、自身の成長や変化について気づきや学びの経緯をふまえて意見を交わすことができる。 3. 聖隷ゆかりの施設での出会いや語りから、地域貢献や保健・医療・福祉に関わる制度を含めて聖隷の理念および歴史や変遷に関連させて意味づけ、看護職としての在り方を探求することができる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>炭谷正太郎、和田由樹、入江拓、藤本 栄子、大石ふみ子、早川ゆかり、山田紀代美、宮谷恵</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間：4月～7月 2. 実習場所： <ul style="list-style-type: none"> 聖隷厚生園讃栄寮 聖隷厚生園信生寮 聖隷おおぞら療育センター 聖隷三方原病院 ホスピス 聖隷三方原病院 精神科デイケア 和合愛光園 みるとす 浜松十字の園 細江デイサービスセンター デイサービスセンターみをつくし 小羊学園三方原スクエア 浜名湖エデンの園 3. 実習展開： <p>聖隷看護基盤実習は実習オリエンテーション（学内）、学内実習（学内）、臨地実習（臨地）、実習のまとめ（学内）で構成する。臨地実習は3日間で展開する。</p> |

| | | | | | |
|-------------------------|---|----|-----|-----|------|
| アクティブ ラーニング | 多面的な経験をし学ぶ実習科目です。 | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがあります。 ・授業の出席、リアクションペーパーはWebClassを使用します。 | | | | |
| 評価方法 | 実習への取り組み姿勢・カンファレンスへの参加度 60%、実習記録・課題レポート 40% | | | | |
| 課題に対する フィード バック | 実習当日に担当教員と面談の時間を持ち、フィードバックを行います。 | | | | |
| 指定図書 | なし | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 参考図書 | 授業中に随時連絡 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | 実習オリエンテーションの内容を基に、聖隷の理念と歴史で学修している内容を復習します。 | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | | |
| オフィス アワー | オリエンテーション時にお知らせします。 | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア 授業の実施 について | 本科目は遠隔授業の実施科目ではありません。 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 科目名 | 統合実習 |
| 科目責任者 | 神崎 江利子 |
| 単位数他 | 3単位 (135時間) 必修 7セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | 選択した看護学領域において、生命の尊厳と隣人愛を基盤として対象と適切な対人関係を築き、既修の知識・技能を活用し、看護実践現場の特性を踏まえて、問題解決的思考を展開しながら、看護における課題の解決に向けた実践に必要な基礎的能力を養う。また保健医療福祉チームにおける多職種連携・協働の現状について理解を深め、そこで提供されている看護の実際を経験し、保健・医療・福祉チームの中で看護専門職としての役割を考えて行動することができる。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合実習で選択した看護学実習の領域において、理論的知識や先行研究の成果を活用して、テーマについて関連する文献を用いて考察できる。 2. これまで学んだ知識・技術を踏まえ、主体的に実習内容を調整し取り組むことができる。 3. ケアの優先順位を考え、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。 4. 体験する看護技術について自己の力量を見極め、その根拠と安全性・正確性を考慮しながら実践することができる。 5. 看護チームおよび他職種との協働の中で、看護職としてのメンバーやリーダーの役割を体験し、チームとして働く意義を理解できる。 6. 統合実習で学んだことを通し、保健・医療・福祉の現状について理解を深め、看護職として自己の目標や課題を明確にできる。 7. 統合実習での経験を踏まえて、多角的な見方や論理的な考え方を深め、地域包括ケアにむけての看護実践をさらに発展させるための方策について考えを深めることができる。 |
| 授業計画 | <p>学生は、8つの看護学領域から1看護学領域を選択して実習する。 これまでの領域別看護学実習をふまえ、現場の看護師・保健師等の専門職者とともに、それぞれの場に応じた看護実践を経験する。</p> <p>? 全体の流れ 4月：統合実習における領域別オリエンテーションの実施 4～7月（実習前）：統合実習にむけての事前学修・演習 7～9月：各領域にて統合実習 ※領域により実施時期が異なるため領域別説明資料を参照 7～9月（統合実習後）：実習後の振り返り・関連する文献等を用いた課題レポート作成</p> <p>? 統合実習にむけての事前学修・演習： ? 統合実習の場・対象者の特性などを踏まえて、統合実習前に実習に必要な知識・技術について、主体的に自らの課題解決に向けた学修に取り組む。 ? 統合実習の概要： ? 病院や施設の実習においては、1つの病棟（単位）に2～4人の学生を配置して2週間の実習を行う。病棟・施設の状況に応じて、複数患者・利用者あるいは大部屋の患者・利用者を受け持つ実習、一勤務帯を通した実習、夜勤帯の実習などを組み込む。 ? グループによっては、外来、NICU、MFICU、助産院などの特殊部門で実習を行う。 ? 地域在宅看護学領域の実習では、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、健診センター、企業、特別支援学校、病院など、さまざまな看護が展開されている場で実習を行う。 ? 既修の知識・技術を基盤として、援助技術の向上、多職種や多機関との連携の理解を深める。</p> |

| | | | | | |
|-------------------------|---|----|-----|-----|------|
| | <p>? 実習後の振り返り・課題レポート： ? 統合実習での経験をもとに、保健・医療・福祉を取り巻く社会情勢の変化にあわせて、地域包括ケアにむけて必要な看護実践をさらに発展させるための方策について、演習・グループワーク等を通して考えを深める。 ? 統合実習後に、統合実習での経験を振り返り、多角的な見方や論理的な考え方を深めて、テーマについて関連する文献等を用いた課題レポートを作成する。</p> <p>※ 詳細は、各領域の『統合実習履修要項』で別途示す。 ※ 実習を行う領域や施設は調整により決定する。</p> | | | | |
| アクティブ ラーニング | <p>・実習科目です。 ・各領域において『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。</p> | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | なし | | | | |
| 評価方法 | <p>目標達成度 80% (実習姿勢、実習記録 等)、課題レポート 20%で評価する。 (詳細は『統合実習履修要項』で領域別に別途定めます)</p> | | | | |
| 課題に対する フィード バック | <p>・領域別の統合実習履修要項で別途示します。</p> | | | | |
| 指定図書 | <p>・領域別の統合実習履修要項で別途示します。</p> | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 参考図書 | <p>・必要時、個別に提示</p> | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | <p>・領域別の統合実習履修要項で別途示します。</p> | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | <p>医中誌 web 等の活用</p> | | | | |
| オフィス アワー | <p>時間については、各領域のオフィスアワーの欄に記載しています。</p> | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | <p>本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p> | | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 公衆衛生看護学概論 |
| 科目責任者 | 江口 晶子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 必修 2セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 社会で生活するすべての人々を対象とし、個人・家族、集団に対する関わりだけでなく、社会全体にも働きかけていく公衆衛生看護の基本理念やその定義、倫理及び、保健師の基本的能力や専門的能力について学修する。その上で、公衆衛生看護活動の場を知るとともに、各活動の場における保健師の役割と活動内容の特徴を学ぶ。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の基本理念、定義、倫理を理解する。 2. 公衆衛生看護の歴史を概観し、公衆衛生看護活動の意義や特徴を理解する。 3. 公衆衛生看護の対象としての個人・家族、集団、組織、地域を理解する。 4. 公衆衛生看護活動の基盤となる理論を理解する。 5. 公衆衛生看護活動の基盤となる法制度と基本的な展開方法を理解する。 6. 公衆衛生看護活動の場と、各活動の場における保健師の活動の概要を理解する。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 江口晶子、三輪眞知子、長山ひかる、遠山大成</p> <p>第1回：公衆衛生看護の基本理念、定義、倫理 : 三輪眞知子</p> <p>第2回：公衆衛生看護の歴史と教育① : 三輪眞知子</p> <p>第3回：公衆衛生看護の歴史と教育② : 三輪眞知子</p> <p>第4回：公衆衛生看護の対象の捉え方（個人・家族、集団、組織、地域） : 江口晶子</p> <p>第5回：公衆衛生看護活動にかかわる主な法制度と活動の場 : 江口晶子</p> <p>第6回：社会の変化と健康課題 : 江口晶子</p> <p>第7回：公衆衛生看護活動の基盤となる理論 : 江口晶子</p> <p>第8回：公衆衛生看護活動の基本的な展開方法① : 江口晶子</p> <p>第9回：公衆衛生看護活動の基本的な展開方法② : 江口晶子</p> <p>第10回：都道府県・保健所における保健師の役割と活動内容 : ゲストスピーカー（静岡県保健師）</p> <p>第11回：政令指定都市における保健師の役割と活動内容 : ゲストスピーカー（浜松市保健師）</p> <p>第12回：市町村における保健師の役割と活動内容 : ゲストスピーカー（市町村保健師）</p> <p>第13回：産業における保健師の役割と活動内容 : 曾我恵里（本田技研工業）</p> <p>第14回：地域包括支援センターにおける看護の役割と活動内容 : 松山美津代（地域包括支援センター和合）</p> <p>第15回：まとめ／公衆衛生看護学実習Ⅰオリエンテーション : 遠山大成、全員</p> |
| アクティブラーニング | 授業内で提示するテーマに対し、バズセッションやグループワークを行う。 |
| 授業内のICT活用 | WebClass を利用して、授業の理解度や授業内容に関する質問等を求め、全体で共有する。 |
| 評価方法 | 定期試験：50%、小テスト：（第3回、第5回、第8回）25%、課題提出物（第9回、第10回、第11回、第12回、第13回のミニレポート）：25% |
| 課題に対するフィードバック | <p>授業の中で課題のフィードバックを行う。</p> <p>小テストの正答は、Web Class 上に復習問題の形で提示する。</p> |

| | | | | |
|-----------------|---|------|-----|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 公衆衛生看護学概論 第6版 | 標 美奈子 | 医学書院 | | 9784260047074 |
| 参考図書 | 授業の中で随時、お伝えします。 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 授業時やWebclass に提示する次回授業の事前課題や予習を行う（第1～8回）（各20～30分） ゲストスピーカーの授業後（第9～13回）はミニレポートを作成する（各20分） 知識の定着状況を確認するため、第3回、第5回、第8回の授業終了後、Web class を用いた小テストを行う（各10分） | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | 水曜日の昼休みとする（研究室：1207）。 実習等で不在の場合もあるため事前にメール（akiko-e@seirei.ac.jp）でアポイントをとっていただけると確実です。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 公衆衛生看護技術論 |
| 科目責任者 | 江口 晶子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 3セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | 本科目では、保健師の対人支援の方法を総体的に表す保健指導に必要な技術を、基盤となる理論と合わせて学修する。 地域で暮らす個人・家族、小集団への公衆衛生看護技術である、家庭訪問、健康相談、健康教育の方法を学ぶとともに、地域を構成する組織への公衆衛生看護技術として地区組織活動およびグループ支援の方法についても理解を深める。 |
| 到達目標 | 1. 保健行動の基本と、個人・個人間・集団レベルの保健行動理論・モデルを理解できる。 2. 保健師の行う保健指導の目的と保健指導を構成している技術を理解できる。 3. 支援対象としての家族のとらえ方と、家族を含めた支援方法の基本を理解できる。 4. 家庭訪問、健康教育、健康診査の目的、対象、支援方法の特徴および展開過程を理解できる。 5. 地域組織活動・グループ支援の目的、対象、展開方法を理解できる。 |
| 授業計画 | <担当教員> 江口晶子、長山ひかる、遠山大成、三輪真知子 第1回 公衆衛生看護に求められる機能と技術、保健行動 : 江口晶子 第2回 個人・個人間レベルの保健行動理論・モデル : 江口晶子 第3回 保健行動を生み出す「力」 : 江口晶子 第4回 保健師の行う保健指導の目的と特徴、技術 : 江口晶子 第5回 家族を単位とした対象理解と支援方法 : 江口晶子 第6回 家庭訪問の目的・対象 支援方法の特徴 : 江口晶子 第7回 家庭訪問の展開方法 : 江口晶子 第8回 健康診査の目的・対象 展開方法 : 江口晶子 第9回 健康教育の目的・対象 支援方法の特徴 展開方法 : 江口晶子 第10回 健康相談の目的・対象 支援方法の特徴 展開方法 : 江口晶子 : 聖隷福祉事業団 中西湖雪 第11、12回 健康相談の実際 (ロールプレイング) : 聖隷福祉事業団 中西湖雪、鳥羽山睦子 第13回 健康教育の実際 : 牧之原市 古川馨子 第14回 集団レベルの保健行動理論・モデル : 江口晶子 第15回 地域組織活動・グループ支援の目的・対象、支援方法の特徴 : 江口晶子 |
| アクティブラーニング | 授業内で提示するテーマに対し、バズセッションやグループワークを行う。 |
| 授業内のICT活用 | WebClass を利用して、授業の理解度や授業内容に関する質問等を求め、全体で共有する。 |
| 評価方法 | 定期試験 : 50%、小テスト ((第10回、第11回、第13回を除く) : 30%、健康相談 (ロールプレイング) 事前課題 : 10%、ミニレポート (第8回、13回) : 10% |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中やWeb class を通して行う。 小テストの正答は、Web Class 上に復習問題の形で提示する。 |

| | | | | |
|--------------------|---|-----------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 公衆衛生看護技術 第5版 | 中村 裕美子 | 医学書院 | | 9784260050029 |
| 公衆衛生がみえる 2024-2025 | 医療情報科学研究所 | メディックメディア | 2024 | 9784896329285 |
| 【第6版】乳幼児健診マニュアル | 福岡地区小児科医会乳幼児保健委員会／編集 | 医学書院 | 2019 | 9784260039352 |
| 参考図書 | 授業の中で随時お伝えします。 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 授業時やWebclass に提示する次回授業の事前課題や予習を行う (各 20 分) ゲストスピーカーの授業後 (第 8 回、第 13 回) はミニレポートを作成する (各 20 分) 知識の定着状況を確認するため、授業終了後 (第 10 回、第 11 回、第 13 回を除く)、Web class を用いた小テストを行う (各 10~20 分) | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | 水曜日の昼休みとする (1207 研究室)。実習等で不在の場合もあるため事前にメール (akiko-e@seirei.ac.jp) でアポイントをとっていただけると確実です。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|-------|----------------------------|-------|-------|------------------------------------|-------|-------|----------------------|-------|-------|----------------------|-------|-------|------------------------|-------|-------|---------------------------------|-------|-------|---------|----|-------|-----------|-------|-------|--------------|-------|--------|---------------------------|-------|--------|-----------------------|----|--------|-----------------------|----|--------|---------------------------|-------|--------|--------------------------------------|-------|--------|----------|-------|
| 科目名 | 公衆衛生看護技術論演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目責任者 | 長山 ひかる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数他 | 1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目概要 | 公衆衛生看護技術論で学んだ理論や技術に基づき、地域で生活する個人・家族・集団に対する公衆衛生看護活動を実践するための健康教育・家庭訪問等の公衆衛生看護技術を演習にて習得する。また、地域で生活する個人・家族・集団の健康課題をもつ事例について支援計画作成、実施、評価の過程を理解する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康教育の目的、対象集団の特徴、方法をアセスメントし、健康教育の計画を立案し実施ができる。 2. 家庭訪問の一連の過程（情報収集、アセスメント、実施、評価）を理解し実施ができる。 3. 対象者と信頼関係を持って保健指導するための知識・技術・態度を身につける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 長山ひかる、遠山大成、江口晶子、三輪真知子</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>集団の保健指導技術：健康教育の展開（対象の実態把握）</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>集団の保健指導技術：健康教育の展開（テーマに対する目的、目標の設定）</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>集団の保健指導技術：健康教育の教案作成①</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>集団の保健指導技術：健康教育の教案作成②</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>集団の保健指導技術：健康教育の教案・媒体修正</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>集団の保健指導技術：健康教育の実施準備（媒体の完成、発表準備）</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>健康教育の実践</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>健康教育の振り返り</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>家庭訪問による支援の展開</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>家庭訪問による支援の展開（新生児訪問計画の作成）？</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>新生児訪問の技術確認／新生児訪問計画の作成</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>新生児訪問の技術確認／新生児訪問計画の作成</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>家庭訪問による支援の展開（新生児訪問計画の作成）②</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>家庭訪問における支援の展開（家庭訪問実施後のアセスメントと実施後の評価）</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>家庭訪問のまとめ</td> <td>長山ひかる</td> </tr> </table> | 第 1 回 | 集団の保健指導技術：健康教育の展開（対象の実態把握） | 長山ひかる | 第 2 回 | 集団の保健指導技術：健康教育の展開（テーマに対する目的、目標の設定） | 長山ひかる | 第 3 回 | 集団の保健指導技術：健康教育の教案作成① | 長山ひかる | 第 4 回 | 集団の保健指導技術：健康教育の教案作成② | 長山ひかる | 第 5 回 | 集団の保健指導技術：健康教育の教案・媒体修正 | 長山ひかる | 第 6 回 | 集団の保健指導技術：健康教育の実施準備（媒体の完成、発表準備） | 長山ひかる | 第 7 回 | 健康教育の実践 | 全員 | 第 8 回 | 健康教育の振り返り | 長山ひかる | 第 9 回 | 家庭訪問による支援の展開 | 長山ひかる | 第 10 回 | 家庭訪問による支援の展開（新生児訪問計画の作成）？ | 長山ひかる | 第 11 回 | 新生児訪問の技術確認／新生児訪問計画の作成 | 全員 | 第 12 回 | 新生児訪問の技術確認／新生児訪問計画の作成 | 全員 | 第 13 回 | 家庭訪問による支援の展開（新生児訪問計画の作成）② | 長山ひかる | 第 14 回 | 家庭訪問における支援の展開（家庭訪問実施後のアセスメントと実施後の評価） | 長山ひかる | 第 15 回 | 家庭訪問のまとめ | 長山ひかる |
| 第 1 回 | 集団の保健指導技術：健康教育の展開（対象の実態把握） | 長山ひかる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 回 | 集団の保健指導技術：健康教育の展開（テーマに対する目的、目標の設定） | 長山ひかる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 3 回 | 集団の保健指導技術：健康教育の教案作成① | 長山ひかる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 4 回 | 集団の保健指導技術：健康教育の教案作成② | 長山ひかる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 5 回 | 集団の保健指導技術：健康教育の教案・媒体修正 | 長山ひかる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 6 回 | 集団の保健指導技術：健康教育の実施準備（媒体の完成、発表準備） | 長山ひかる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 7 回 | 健康教育の実践 | 全員 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 8 回 | 健康教育の振り返り | 長山ひかる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 9 回 | 家庭訪問による支援の展開 | 長山ひかる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 10 回 | 家庭訪問による支援の展開（新生児訪問計画の作成）？ | 長山ひかる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 11 回 | 新生児訪問の技術確認／新生児訪問計画の作成 | 全員 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 12 回 | 新生児訪問の技術確認／新生児訪問計画の作成 | 全員 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 13 回 | 家庭訪問による支援の展開（新生児訪問計画の作成）② | 長山ひかる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 14 回 | 家庭訪問における支援の展開（家庭訪問実施後のアセスメントと実施後の評価） | 長山ひかる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 15 回 | 家庭訪問のまとめ | 長山ひかる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アクティブラーニング | 演習科目であるため、グループワーク、グループ課題を取り入れる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | 健康教育の発表はパワーポイントを使用し、プレゼンテーション能力向上にも活用する。 演習に関する事例及び様式を Webc lass に掲載し活用する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験及び再試験は実施しない。 ・事前課題 10%、演習記録 70%（健康教育教案：20%、健康教育の実践：20%、家庭訪問計画：30%）、演習への取り組み態度 20% <p>*演習評価は、ルーブリックを用いる（健康教育）。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|-------------------------|--|-----------|------|---------------|
| 課題に対する フィード バック | ロールプレイや技術チェックの実践場面で個別にフィードバックをしていきます。 | | | |
| 指定図書 | 第7版 乳幼児健診マニュアル 医学書院 他は以下参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 公衆衛生看護技術 第5 版 | 中村 裕美子 | 医学書院 | | 9784260050029 |
| 公衆衛生看護学概論 第 6 版 | 標 美奈子 | 医学書院 | | 9784260047074 |
| | | | | |
| 参考図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 公衆衛生がみえる 2024-2025 | 医療情報科学研究所 | メディックメディア | 2024 | 9784896329285 |
| | | | | |
| 事前・ 事後学修 | 公衆衛生看護技術論の再確認のための事前課題を教員より提示します。 | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | 授業で用いたスライドをWebclass で閲覧できるようにする。 | | | |
| オフィス アワー | 実習等で学外に出ていることも多いため、メール等で予約をしてください。各教員のオフィスアワーの時間が異なるため、授業初日に提示します。 長山ひかる (2711 研究室:hikaru-n@seirei.ac.jp) 遠山大成 (1680 研究室: taisei-t@seirei.ac.jp) 江口晶子 (1207 研究室:akiko-e@seirei.ac.jp) | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|----------|---------------|------|-----|--------------|------|-----|---------------------|------|-----|-----------------------------------|------|-----|--|------|-----|----------------------|----------|-----|-------------------|-------|-----|---------------------------|-------|
| 科目名 | 公衆衛生看護推論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目責任者 | 江口 晶子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目概要 | 公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断の意義と展開方法を理解するとともに、地域の健康課題を解決するための計画から評価までの過程を理解する。また、一連の展開過程で用いる保健師としての考え方（推論）を学ぶ。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断の意義と方法を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 地域診断の視点と基本プロセスをふまえ、関連する理論モデルの活用上の考え方を説明できる。 地域診断のための情報源とその収集方法を説明できる。 収集した情報の分析、健康課題を特定する方法を説明できる。 特定した健康課題を解決するための対策の検討方法を説明できる。 公衆衛生看護活動における事業化・施策化の意義と方法を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 事業化・施策化の意味と意義を説明できる。 事業計画の立案・実施・評価の方法を説明できる。 保健計画の策定過程および進行管理、評価の方法を説明できる。 地域ケアシステムを構築する意義と構築過程を理解する。 公衆衛生看護活動の展開過程をふまえ、保健師の行う地域診断の意義と特徴を考察できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 江口晶子、三輪眞知子、長山ひかる、遠山大成</p> <table> <tr> <td>第1回</td> <td>公衆衛生看護活動の展開過程</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>地域診断に活用できる理論</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>地域診断の展開過程① 情報源と収集方法</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>地域診断の展開過程② 情報の分析方法、健康課題の抽出と優先性の判断</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>地域診断の展開過程③ 健康課題を解決する対策の検討 事業計画の立案・実施・評価</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>地域診断に基づく地域へのアプローチの実際</td> <td>掛川市：櫻井郁美</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>保健医療福祉における事業化・施策化</td> <td>三輪眞知子</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>保健計画の策定・実施・評価、地域ケアシステムの構築</td> <td>三輪眞知子</td> </tr> </table> | 第1回 | 公衆衛生看護活動の展開過程 | 江口晶子 | 第2回 | 地域診断に活用できる理論 | 江口晶子 | 第3回 | 地域診断の展開過程① 情報源と収集方法 | 江口晶子 | 第4回 | 地域診断の展開過程② 情報の分析方法、健康課題の抽出と優先性の判断 | 江口晶子 | 第5回 | 地域診断の展開過程③ 健康課題を解決する対策の検討 事業計画の立案・実施・評価 | 江口晶子 | 第6回 | 地域診断に基づく地域へのアプローチの実際 | 掛川市：櫻井郁美 | 第7回 | 保健医療福祉における事業化・施策化 | 三輪眞知子 | 第8回 | 保健計画の策定・実施・評価、地域ケアシステムの構築 | 三輪眞知子 |
| 第1回 | 公衆衛生看護活動の展開過程 | 江口晶子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2回 | 地域診断に活用できる理論 | 江口晶子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3回 | 地域診断の展開過程① 情報源と収集方法 | 江口晶子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4回 | 地域診断の展開過程② 情報の分析方法、健康課題の抽出と優先性の判断 | 江口晶子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5回 | 地域診断の展開過程③ 健康課題を解決する対策の検討 事業計画の立案・実施・評価 | 江口晶子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6回 | 地域診断に基づく地域へのアプローチの実際 | 掛川市：櫻井郁美 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第7回 | 保健医療福祉における事業化・施策化 | 三輪眞知子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第8回 | 保健計画の策定・実施・評価、地域ケアシステムの構築 | 三輪眞知子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アクティブラーニング | 授業内で提示するテーマに対し、バズセッションやグループディスカッションを行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業内のICT活用 | Web Class や Google Forms を利用して、授業の理解度や授業内容に関する質問への回答を求め、全体で共有する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 定期試験：50%、小テスト（第1回、第2回、第3～4回、第5回、第7回、第8回）：30%、ミニレポート：10%、課題レポート（地域診断および事業化・施策化の意義）：10% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中や Web class を通して行う。 小テストの正答は、Web Class 上に復習問題の形で提示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|-----------------|---|------|-----|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 公衆衛生看護学概論 第6版 | 標 美奈子 | 医学書院 | | 9784260047074 |
| 公衆衛生看護技術 第5版 | 中村 裕美子 | 医学書院 | | 9784260050029 |
| 参考図書 | 授業の中で随時お伝えします。 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 事前・事後学修 | <p>次回授業の事前課題や予習を行う（各 20 分）</p> <p>ゲストスピーカーの授業後（第 6 回）はミニレポートを作成する（30 分）</p> <p>知識の定着状況を確認するため、授業終了後（第 1 回、第 2 回、第 3～4 回、第 5 回、第 7 回、第 8 回）、Web class を用いた小テストを行う（復習を含む）（各 20 分）</p> | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | <p>水曜日の昼休みとする（研究室：1207）。</p> <p>実習等で不在の場合もあるため事前にメール（akiko-e@seirei.ac.jp）でアポイントをとっていただけると確実です。</p> | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 公衆衛生情報処理演習 |
| 科目責任者 | 遠山 大成 |
| 単位数他 | 1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | 本科目では、公衆衛生看護活動に必要な情報を適切に扱う考え方を理解するとともに、量的データを収集・分析、可視化する方法を実践的に学ぶ。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護活動に必要な情報を適切に扱う考え方が理解できる。 2. 公衆衛生看護活動に必要な情報（量的データ）の収集方法の実践的に理解できる。 3. 公衆衛生看護活動に必要な情報（量的データ）の集計、分析、可視化の方法を実践的に理解できる。 4. アンケート調査における調査票の作成、実施、集計及び資料化をすることができる。 5. 公衆衛生看護活動における健康・医療情報（健診・レセプトデータ）の活用の実践を理解できる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 遠山大成、江口晶子、長山ひかる、隆朋也、三輪眞知子</p> <p>第1回：公衆衛生看護活動とデータを活用した地域分析 遠山大成</p> <p>第2回：情報処理 Excel の活用① データ処理 遠山大成</p> <p>第3回：情報処理 Excel の活用② ピポットテーブルの使用 遠山大成</p> <p>第4回：情報処理 EZR の活用① 隆朋也</p> <p>第5回：情報処理 EZR の活用② 隆朋也</p> <p>第6回：公衆衛生看護活動に必要な統計データと入手方法 遠山大成</p> <p>第7回：情報処理 データの集計の効果的な表し方 隆朋也</p> <p>第8回：アンケート調査の方法（調査法の作成方法） 遠山大成</p> <p>第9～10回 アンケート調査の実施①②（調査票の作成） 全員</p> <p>第11回：健診・レセプトデータを活用した保健活動の実践 藤田あけみ</p> <p>第12回：アンケート調査の実施③（調査票の集計） 遠山大成</p> <p>第13～14回：アンケート調査の実施④⑤（集計結果に基づく資料作成） 全員</p> <p>第15回：アンケート結果の共有・授業まとめ 遠山大成</p> |
| アクティブラーニング | 演習科目です。グループディスカッション、グループ課題を取り入れる。 公衆衛生看護活動における量的データを、表計算ソフト「エクセル」や統計ソフト「EZR」の自身のパーソナルコンピュータを活用して学習する。 |
| 授業内のICT活用 | 随時、WebClass を活用し学生が、自身の意見を述べたり、他者の意見を閲覧したりする機会を作る。 |
| 評価方法 | 授業態度 20%、課題の内容 80%（情報処理作成物①②③④35%、アンケート作成 15%、アンケート集計内容 20%、課題レポート 10%） |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中で行う。 |

| | | | | |
|-----------------|--|------|-----|---------------|
| 指定図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 数式不要！はめ込み統計学 | 加藤 丈夫 | 医学書院 | | 9784260045827 |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 授業の内容をもとに作成課題を提示するので、各自その課題に取り組み事前事後学修とする。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業で用いたスライドをWebclassで閲覧できるようにする。 ・演習内のアンケート等作成物をグループワークで共有し、内容のブラッシュアップができるような演習構成とする。 | | | |
| オフィスアワー | <p>実習等で学外に出ていることも多いため、メールにて面談の予約をしてほしい。各教員のオフィスアワーの時間が異なるため、授業初日に提示する。</p> <p>遠山大成 (1680 研究室: taisei-t@seirei.ac.jp)</p> <p>長山ひかる (2711 研究室: hikaru-n@seirei.ac.jp)</p> <p>江口晶子 (1207 研究室: akiko-e@seirei.ac.jp)</p> | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 公衆衛生看護活動論 |
| 科目責任者 | 江口 晶子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 4セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | 本科目では、地域で生活するすべての人びとを対象とし、看護のさまざまな方法を用いて、あらゆるライフステージや健康レベルに焦点をあて支援を行う公衆衛生看護活動の意義と方法論を学修する。各ライフステージにおける対象の特徴と健康課題に応じた支援、特定の脆弱性や健康リスクをもつ人々の特性に応じた支援に必要な知識を学ぶとともに、学校、産業の場における保健師活動の方法についても理解することをめざす。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフステージ及び健康課題の特性に応じた公衆衛生看護活動にかかわる法制度を、その動向を踏まえて理解することができる。 2. ライフステージ及び健康課題の特性に応じた公衆衛生看護活動の展開方法、保健師の役割と支援の特徴を理解することができる。 3. 学校、産業の各活動場所における対象の特性と健康課題及び、保健師の役割と活動方法を理解することができる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 江口晶子、長山ひかる、遠山大成、江口晶子、三輪真知子</p> <p>第1回：母子保健① 母子保健（親子保健）の動向と法制度 長山ひかる</p> <p>第2回：母子保健② 母子保健（親子保健）における健康課題と支援 長山ひかる</p> <p>第3回：成人保健① 成人保健の動向と法制度 遠山大成</p> <p>第4回：成人保健② 成人保健における健康課題と支援 遠山大成</p> <p>第5回：高齢者保健 高齢者保健に関する法制度と支援 江口晶子</p> <p>第6回：障害児(者)保健 障害者(児)保健活動に関する法制度と支援 江口晶子</p> <p>第7回：精神保健 精神保健の動向と法制度 江口晶子</p> <p>第8回：精神保健 精神保健における健康課題と支援 江口晶子</p> <p>第9回：難病保健 難病保健活動に関する法制度と支援 江口晶子</p> <p>第10回：感染症対策① 感染症保健活動に関する法制度と支援 江口晶子</p> <p>第11回：感染症対策② 主な感染症の動向と対策・支援（結核、エイズ） 江口晶子</p> <p>第12回：産業保健① 産業保健の基礎知識、法制度と活動の動向 聖隷福祉事業団：中西湖雪</p> <p>第13回：産業保健② 産業保健における健康課題と支援の実際 聖隷福祉事業団：中西湖雪</p> <p>第14回：学校保健① 学校保健の基本的知識、法制度と活動の動向 池永理恵子</p> <p>第15回：学校保健② 学校保健における健康課題と支援の実際 池永理恵子</p> |
| アクティブラーニング | 授業内で提示するテーマに関するバズセッションを行う。 |
| 授業内のICT活用 | Web Class や Google Forms を利用して、授業の理解度や授業内容に関する質問等を求め、全体で共有する。 |
| 評価方法 | 定期試験：60%、小テスト（第2回、第4回、第5～8回、第10回、第12回）：40% |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中で課題のフィードバックを行う。 小テストの正答は、Web Class 上に復習問題の形で提示する。 |

| | | | | |
|-----------------|---|------|-----|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 対象別公衆衛生看護活動 第5版 | 中谷 芳美 | 医学書院 | | 9784260053037 |
| 参考図書 | 授業の中で随時お伝えします。 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>次回授業の事前課題や予習を行う（各 20 分）</p> <p>知識の定着状況を確認するため、授業終了後（第 2 回、第 4 回、第 5～8 回、第 10 回、第 12 回）、Web class を用いた小テストを行う（復習を含む）（各 20～30 分）</p> | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | <p>水曜日の昼休みとする（研究室：1207）。</p> <p>実習等で不在の場合もあるため事前にメール（akiko-e@seirei.ac.jp）でアポイントをとっていただけると確実です。</p> | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 公衆衛生看護活動論演習 |
| 科目責任者 | 江口 晶子 |
| 単位数他 | 1単位 (30時間) 選択 6セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | 本演習では、公衆衛生看護学実習を行う市町を対象に、地域特性や住民の健康、生活に関する情報を、既存資料や地区視診等により収集・整理、分析し、健康課題を検討するプロセスを通して、公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断の実際を学ぶ。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティ・アズ・パートナーモデルの地域のアセスメントの視点を参考に、対象地域の地域特性や住民の健康状態、生活実態に関する情報を収集・整理、分析することができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象地域の統計データを収集し、年次推移や全国・県のデータとの比較等から、現状および今後予測される傾向を記述できる。 2) 対象地域の地区視診を実施し、とらえた情報を整理、記述できる。 2. 上記により得られた情報や分析結果を統合し、対象地域の地域特性および、住民の健康状態と生活実態の概要を説明できる。 3. 対象地域の地域特性、住民の健康状態、生活実態との関連の検討をもとに、予測される健康課題を抽出することができる。 4. 上記の健康課題に焦点をあて、背景にある地域特性、住民の健康と生活の実態、関連する社会資源等の検討を行い、健康課題の構造図を記述できる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 江口晶子、長山ひかる、遠山大成、三輪眞知子</p> <p>地域診断の対象地域は、公衆衛生看護学実習に配置予定の市町（浜松市は区単位）とする。本授業は、「地域診断ノート」を用いた個人ワークと小グループによるグループワーク、地区視診を組み合わせで行う。</p> <p>※ 詳細は「公衆衛生看護活動論演習要項」に示す。</p> |
| アクティブラーニング | 本授業は、公衆衛生看護学実習と連動した小グループによるグループワークの他、フィールドワーク（地区視診）を取り入れて実施する。 |
| 授業内のICT活用 | Web class のルーブリック機能を利用する。 |
| 評価方法 | <p>グループワークの参加態度/貢献、成果発表会参加態度：20%、個人作成の記録物：40%、グループ作成の記録物：30%、学習成果発表会内容（プレゼンテーション）：10%</p> <p>※成果発表の内容はルーブリックを用いて評価を行う。</p> |
| 課題に対するフィードバック | <p>個人ワーク、グループワークの内容について、授業の中およびWeb class 等を利用して、随時、コメントやフィードバックを行う。</p> <p>成果の発表会ではコメントカードを使用して教員および学生相互にフィードバックを行う。</p> |

| | | | | |
|----------------------|---|----------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 公衆衛生看護学概論 第6版 | 標 美奈子 | 医学書院 | | 9784260047074 |
| 公衆衛生看護技術 第5版 | 中村 裕美子 | 医学書院 | | 9784260050029 |
| 国民衛生の動向 2024/2025 | | 厚生労働統計協会 | 2024 | |
| 参考図書 | 授業の中で随時お伝えします。 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 初回オリエンテーション時に提示する。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | 初回オリエンテーション時に提示する。 | | | |
| オフィスアワー | オフィスアワーの時間は、初回オリエンテーション時に提示する。 江口晶子 (1207 研究室 : akiko-e@seirei.ac.jp) 長山ひかる (2711 研究室 : hikaru-n@seirei.ac.jp) 遠山大成 (1680 研究室 : taisei-t@seirei.ac.jp) | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 公衆衛生看護管理論 |
| 科目責任者 | 三輪 眞知子 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 選択 8 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP6 専門 |
| 科目の位置付 | 看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。 |
| 科目概要 | 公衆衛生看護管理は、保健師活動の質を高めるための活動であり、誰もが暮らしやすい地域になるように働きかける保健師の専門性そのものである。 本科目では、この公衆衛生看護管理の機能について学び、保健師の専門性について考える。 |
| 到達目標 | 1. 公衆衛生看護管理の目的を理解することができる。 2. 保健師活動における看護管理の特徴、機能を理解することができる。 3. 保健師活動の中に公衆衛生看護管理の機能を見出すことができる。 4. 健康危機管理の視点で、公衆衛生看護活動が理解できる。 5. 保健師の専門的自律と継続教育の意義が理解できる。 |
| 授業計画 | <担当教員名> 江口晶子、三輪眞知子、長山ひかる、遠山大成 第1回：公衆衛生看護管理の目的と機能 三輪眞知子 第2回：公衆衛生看護における管理機能① 江口晶子 地区管理、事例管理、事業管理、組織運営管理、予算管理 第3回：公衆衛生看護における管理機能② 情報管理、人事管理、人材育成 江口晶子 第4回：統括保健師による公衆衛生看護管理の実際 磐田市：青島やよい 第5回：公衆衛生看護における管理機能③ 健康危機管理 江口晶子 第6回：健康危機管理の実際（災害） 前静岡県：土屋厚子 第7回：健康危機管理の実際（感染症） 静岡県：小嶋由美 第8回：公衆衛生看護における継続教育、専門的自律、質保証としての研究 三輪眞知子 |
| アクティブラーニング | 授業内で提示するテーマに対し、バズセッションやグループワークを行う。 |
| 授業内のICT活用 | Web Class や Google Forms を利用して、授業の理解度や授業内容に関する質問等を求め、全体で共有する。 |
| 評価方法 | 小テスト（第1～3回、第5回、第8回）：60%、ミニレポート（ゲストスピーカーの講義後）：30%、グループワーク課題（発言、グループワーク貢献度を含む）：10% |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中で課題のフィードバックを行う。 小テストの正答は、Web Class の復習問題の形で提示する。 |

| | | | | |
|-----------------|---|------|-----|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 公衆衛生看護学概論 第6版 | 標 美奈子 | 医学書院 | | 9784260047074 |
| 参考図書 | 授業の中で随時伝えます。 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>次回授業の事前課題や予習を行う（各20分）。</p> <p>ゲストスピーカーの授業後（第4回、第6回、第7回）はミニレポートを作成する。（各20分）</p> <p>知識の定着状況を確認するため、授業終了後（第1回、第2回、第3回、第5回、第8回）Web class を用いた小テストを行う（各10～20分）。</p> | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | 水曜日の昼休みとする（1207 研究室）。実習等で不在の場合もあるため事前にメール（akiko-e@seirei.ac.jp）でアポイントをとっていただくと確実です。 | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 公衆衛生看護総合行政演習 |
| 科目責任者 | 長山 ひかる |
| 単位数他 | 1 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP5 専門 |
| 科目の位置付 | 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | 地域診断（健康課題の明確化）に基づく公衆衛生看護活動の展開過程として、健康課題を解決するための保健事業計画の立案プロセスを理解する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習自治体の地域診断で抽出・特定した健康課題について、事業化の必要性を、根拠に基づき説明できる。 2. 実習自治体の地域診断で抽出・特定した健康課題を解決するための事業計画を、法制度や自治体の政策・施策等との整合性を踏まえて立案できる。 3. 実習自治体の地域診断で抽出した健康課題を解決するための事業計画を、地域特性を踏まえて立案できる。 4. 職場上司へのヒアリングを想定し、事業計画案のプレゼンテーションを実施できる。 5. 公衆衛生看護活動の展開過程における地域診断及び事業化の意義を具体的に考察できる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 長山ひかる、遠山大成、江口晶子、三輪眞知子</p> <p>第1回 : 地域診断に基づく事業化・施策化と事業評価（講義） 全員</p> <p>第2～3回 : 特定した健康課題の構造化 全員</p> <p>第4～6回 : 健康課題解決策の検討 全員</p> <p>第7～10回 : 事業計画の立案 全員</p> <p>第11～12回 : 事業計画のプレゼンテーションの準備 全員</p> <p>第13回 : 総合行政演習報告会の会場準備、リハーサル 全員</p> <p>第14～15回 : 総合行政演習報告会 全員</p> <p>※ 詳細は別途「公衆衛生総合行政演習実施要項」にて示す</p> |
| アクティブラーニング | 本演習では、公衆衛生看護実習Ⅱと連動した小グループによるグループワークを行う。 |
| 授業内のICT活用 | Web class のルーブリック機能を利用する。 |
| 評価方法 | グループ作成の成果物（事業企画書）：30%、報告会でのプレゼンテーション内容：25%、グループワーク・報告会（ディスカッション）の参加度：20%、課題レポート：25% |
| 課題に対するフィードバック | グループで作成した事業企画書の内容について、授業の中で随時、コメントやフィードバックを行う。 成果の発表会ではコメントカードを使用して教員および学生相互にフィードバックを行う。 |

| | | | | |
|---|--|-------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 公衆衛生看護学概論 第6版 | 標 美奈子 | 医学書院 | | 9784260047074 |
| | | | | |
| 参考図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 地区活動ならびに施策化のアセスメント・活動計画・評価計画の立案 第2版 | 佐伯 和子 編著 | 医歯薬出版 | 2018 | 9784263237106 |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 初回オリエンテーション時に提示する。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | <p>オフィスアワーの時間は、初回オリエンテーション時に提示する。</p> <p>長山ひかる (2711 研究室 : hikaru-n@seirei.ac.jp)</p> <p>遠山大成 (1680 研究室 : taisei-t@seirei.ac.jp)</p> <p>江口晶子 (1207 研究室 : akiko-e@seirei.ac.jp)</p> | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 公衆衛生看護学実習 I |
| 科目責任者 | 遠山 大成 |
| 単位数他 | 1 単位 (45 時間) 必修 2 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | DP2 専門 |
| 科目の位置付 | 看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。 |
| 科目概要 | 本科目は、本学の所在する浜松市をフィールドに、地区視診や、各地区で行われている住民主体の活動に参加することで、人々の健康が、生活環境や所属する生活共同体の営みと密接不可分な関係を持つことを理解するとともに、生活共同体を構成する人々の潜在能力を引き出し、主体的な問題解決の実現を促す役割を持つ公衆衛生看護の意義を理解することをめざす。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習地区の生活環境や住民の生活状況を、生活者の視点で捉えることができる。 2. 実習地区で行われている住民組織（グループ）の活動の実際を理解することができる。 3. 実習地区の住民による「自助」「互助」の実際とその意義を理解することができる。 4. 住民の健康生活を守る上で、住民による「自助」「互助」の取り組みを支え、促す公衆衛生看護活動のあり方を考えることができる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>遠山大成、江口晶子、長山ひかる、三輪眞知子</p> <p><実習場所></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市地域包括支援センター和合（冨塚、萩丘(住吉・和合)） ・浜松市地域包括支援センター高丘（萩丘(萩丘中、葵・高丘)） ・浜松市地域包括支援センター北浜（北浜） ・浜松市地域包括支援センター細江（細江、引佐、三ヶ日） ・浜松市地域包括支援センター於呂（中瀬、赤佐） ・上記の地域包括支援センター管内で活動する住民組織（高齢者サロン等） <p><実習内容></p> <p>小グループで、住民組織の活動への参加、当該住民組織の拠点のある地区の地区視診などを行う。</p> <p>フォトボイス、マインドマップの手法を用いて学びを整理する。</p> <p>学習成果報告会において学びを共有する。</p> <p>※ 詳細は「公衆衛生看護学実習 I 実習要項」にて示す。</p> |
| アクティブラーニング | 実習 |
| 授業内のICT活用 | なし |
| 評価方法 | 実習・グループワークに取り組む姿勢および学習態度：10%、事前学習・個人作成の実習記録：30%、グループ作成の実習記録：30%、課題レポート：30% |
| 課題に対するフィードバック | 実習の中で随時行う。 |

| | | | | |
|-----------------|--|------|-----|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 公衆衛生看護学概論 第6版 | 標 美奈子 | 医学書院 | | 9784260047074 |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 本科目と関連する公衆衛生看護学概論の授業資料を見直す。 初回オリエンテーション時に提示する。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | <p>オフィスアワーの時間は、初回オリエンテーション時に提示する。</p> <p>遠山大成 (1680 研究室 : taisei-t@seirei.ac.jp)</p> <p>江口晶子 (1207 研究室 : akiko-e@seirei.ac.jp)</p> <p>長山ひかる (2711 研究室 : hikaru-n@seirei.ac.jp)</p> | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。 | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 公衆衛生看護学実習Ⅱ |
| 科目責任者 | 長山 ひかる |
| 単位数他 | 4単位（180時間） 選択 7セメスター |
| DP番号と科目領域 | DP6 専門 |
| 科目の位置付 | 看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。 |
| 科目概要 | 都道府県及び政令指定都市や市町が実施している公衆衛生看護活動の実践を通して、保健師が地域で生活する人々（個人・家族・集団）の健康を支援する意義を理解する。また、地域診断を通して地域の特性や強み、住民の健康状態を明らかにし、地域の健康課題解決に向けた解決策を考察する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域診断により、地域の健康課題を明らかにし、その解決策を検討することができる。 2. 地域の健康課題を解決する上で必要な保健医療福祉の施策を理解し、地域ケアシステムを構築する意義を理解できる。 3. 個人・家族・集団に対して健康課題を解決するための実践ができる。 4. 地域の住民や関係機関と連携・協働して活動する意義が理解できる。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 長山ひかる、遠山大成、江口晶子、三輪眞知子</p> <p><実習場所> 静岡県中部保健所、静岡県西部保健所、浜松市保健所 浜松市浜名区、天竜区、磐田市、袋井市、掛川市、御前崎市、森町 菊川市、牧之原市、藤枝市、吉田町、川根本町、湖西市</p> <p><実習内容> 実習先の保健所、市町で実施されている保健事業に参加する。 必須体験項目として以下を実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康教育の実施 2. 家庭訪問の実施 3. 支援困難事例の聞き取り 4. 地域診断の実施 <p>※ 詳細は「公衆衛生看護学実習実習要項」にて示す。</p> |
| アクティブラーニング | 実習科目です。 |
| 授業内のICT活用 | 随時、実習成果（健康教育、地域診断）の達成度の確認を行う。 公衆衛生看護学実習に関する様式等を、Webclassに掲載し活用を促す。 |
| 評価方法 | 実習記録：60% 課題レポート：20% （1）公衆衛生看護活動を展開するための保健師の役割について（1500字） （2）公衆衛生看護学実習を通して感じた、自分自身の課題について（500字） 実習に取り組む姿勢や態度：20% |
| 課題に対するフィードバック | 日々の実習日誌及びミニカンファレンスでフィードバックを行う。 |

| | | | | |
|-------------------------|---|-----------|------|---------------|
| 指定図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 公衆衛生看護学概論 第6版 | 標 美奈子 | 医学書院 | | 9784260047074 |
| 公衆衛生看護技術 第5版 | 中村 裕美子 | 医学書院 | | 9784260050029 |
| 対象別公衆衛生看護活動 第4版 | 中谷 芳美 | 医学書院 | | 9784260031875 |
| 国民衛生の動向 2024/2025 | | 厚生労働統計協会 | 2024 | |
| 【第6版】乳幼児健診 マニュアル | 福岡地区小児科医会乳 幼児保健委員会／編集 | 医学書院 | 2019 | 9784260039352 |
| 参考図書 | 下記参照 | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 公衆衛生がみえる 2024-2025 | 医療情報科学研究所 | メディックメディア | 2024 | 9784896329285 |
| | | | | |
| 事前・ 事後学修 | 実習オリエンテーション、実習で参加する事業に関する事前・事後課題は随時、担当教員より紹介します。 | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | |
| オフィス アワー | 面談・指導等が必要な場合は、事前に実習指導担当教員にメールでアポイントメントをお願いします。 長山ひかる (2711 研究室 : hikaru-n@seirei.ac.jp) 遠山大成 (1680 研究室 : taisei-t@seirei.ac.jp) 江口晶子 (1207 研究室 : akiko-e@seirei.ac.jp) | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 教職概論 |
| 科目責任者 | 菅井 篤 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 1 Semester |
| DP 番号と科目領域 | 教DP(1)教職 |
| 科目の位置付 | 教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。 |
| 科目概要 | 本講義では、教育実践記録やそれへの解説を読解・検討することを通じて、現代日本における学校教育・教職の社会的な意義について理解し、教員に求められる役割や資質能力について考察を深めることを目的とする。なお、教育の方法を通じた対人支援を志す学生の動機づけをもとに本授業を展開する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の職務内容を理解する。 2. 児童生徒を取り巻く現代的諸課題や対応方法について、基本的な考え方を理解し、自身の考えを深めることができる。 3. 教員個人としての力量形成のみならず、同僚性や多職種との連携の重要性を理解し、そのあり方について考える。 |
| 授業計画 | <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：教員になるとは① 教員としての養護教諭</p> <p>第3回：教員になるとは② 学校教育の役割と社会的意義</p> <p>第4回：教員になるとは③ 教員の服務・研修</p> <p>第5回：児童生徒の“問題行動”の解釈・対応①—児童生徒理解を深める—</p> <p>第6回：児童生徒の“問題行動”の解釈・対応②—共感・受容的対応の意義—</p> <p>第7回：集団づくりにおける教員の役割①—集団として児童生徒を捉える—</p> <p>第8回：集団づくりにおける教員の役割②—集団づくりと発達保障—</p> <p>第9回：地域との連携における教員の役割①—地域社会における児童生徒—</p> <p>第10回：地域との連携における教員の役割②—地域との連携・協働—</p> <p>第11回：地域との連携における教員の役割③—授業づくりと生活指導—</p> <p>第12回：養護教諭の職務・意義 元養護教諭の講演 ゲストティーチャー：津田聡子先生（中部大学）</p> <p>第13回：現代的教育課題への対応① 現代的教育課題と教員の役割・責任</p> <p>第14回：現代的教育課題への対応② 多職種連携に向けた教員の役割</p> <p>第15回：まとめ</p> |
| アクティブラーニング | 学生によるプレゼンテーション、グループディスカッション、グループワーク |
| 授業内のICT活用 | あり（インターネットにつながるPC、タブレット等を持参のこと） |
| 評価方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題意識をもった授業参加、話し合い・発表など役割遂行等の授業関与度 30% 2. 毎時間の振り返り 30% 3. 提出物(レポート) 40% |
| 課題に対するフィードバック | 毎授業時、または次の回の授業内でコメントする。 |

| | | | | | |
|-----------------|---|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>【事前学修】 授業テーマについて関心をもち、自分なりの課題や考えをもって参加する。(2時間)</p> <p>【事後学修】 資料を参考に授業内容への理解をさらに深めるとともに、自分自身のあり方を見つめる。(2時間)</p> | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 詳細は初回の授業で提示する。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は、児童相談所職員・小学校教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 学校保健 |
| 科目責任者 | 池永 理恵子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 2 Semester |
| DP番号と科目領域 | 教DP(2)教職 |
| 科目の位置付 | 養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。 |
| 科目概要 | 学校保健安全法の目的は、児童生徒等及び教職員の健康の保持増進を図り、安全な学習環境を提供することにより、学校教育の円滑な実施とその成果を確保することにある。学校保健安全法が示す学校における児童生徒等の健康と安全を図るための教育保健活動について学習する。学校保健・学校安全に対する知識と態度を学ぶことを通して、公衆衛生看護領域の学校看護および地域看護に携わる看護職の学校保健活動の理解を深め、看護活動に活かすことができる。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健安全法の目的・意義を説明することができる。 2. 学校における学校保健（保健管理・保健教育）・学校安全（安全管理・安全教育）等における養護教諭の役割機能について理解を深めることができる。 3. 学校保健における教職員が果たす役割機能を述べることができる。 4. 組織活動に関わる地域及び社会資源について考えることができる。 5. 児童生徒の保健管理に必要な基礎的知識を身に付けて実践に活かせる。 |
| 授業計画 | <p>第1回 オリエンテーション、学校保健の目的と意義</p> <p>第2回 学校保健活動における教職員の役割と職務</p> <p>第3回 保健室の役割と健康観察</p> <p>第4回 健康の現代的課題への対応①（子どもの成長発達と疾患理解）</p> <p>第5回 児童生徒の健康状態の把握と指導①</p> <p>第6回 児童生徒の健康状態の把握と指導②健診技術</p> <p>第7回 保健教育と保健指導</p> <p>第8回 健康の現代的課題への対応②（歯科保健）</p> <p>第9回 学校保健と応急処置 ①（教職員の法的責任と役割）</p> <p>第10回 学校安全と応急処置 ②（応急処置の実際）</p> <p>第11回 保健体育分野における保健教育 ゲストティーチャー</p> <p>第12回 学校保健における他職種との連携（社会福祉分野の専門職） 社会福祉学部教員</p> <p>第13回 学校保健における他職種との連携（公衆衛生活動分野の専門職） 看護学部教員</p> <p>第14回 保健指導の実践（保健だより作成と発表）</p> <p>第15回 学校環境衛生、まとめ</p> |
| アクティブラーニング | <ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、毎回、グループワーク、ディスカッションを取り入れて実施する。 ・第6回では、健康診断の演習を行う。 ・第10回では、応急処置の基本について演習を行う。 ・第14回では保健指導のプレゼンテーション発表を行う。 |
| 授業内のICT活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・対面授業においては、プレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。 |
| 評価方法 | <p>リアクションペーパー・課題提出物 20%</p> <p>グループワーク・演習・ロールプレイングへの参加度 プレゼン発表等 20%、 （演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示します。）</p> <p>筆記試験 60% 計 100%</p> |

| | | | | | |
|-------------------------|--|----|-----|-----|------|
| 課題に対する フィード バック | <ul style="list-style-type: none"> ・講義や課題についての質問や意見は講義中に質問、意見の時間を設ける。また、メールによる質問や意見には返信で回答、解説を行う。 ・リアクションペーパーは、授業内容を振り返りながら、授業の感想や学んだことの羅列ではなく、新たな気付き、理解を深めたことを書く。なお、記載内容で重要なものは、次回の授業で回答したり紹介する。 | | | | |
| 指定図書 | 和書、書籍名：新訂版 学校保健実務必携（第5次改訂版） 著者：学校保健・安全実務研究会 編著 出版社：第一法規 ISBN：978-4-474-06863-6 | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 参考図書 | なし | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| 事前・ 事後学修 | 1 コマあたりの事前・事後学修時間は原則 40 分とする。学修方法については、次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容やテーマについて、事前に指示する指定図書（テキスト）の箇所を読んでから講義に臨むこと。 ・授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付するので、事前・事後学修に活用する。 ・授業後に、小テストまたはワークシート記入を行う。（1～14 回目）。 授業範囲の中から簡単な小テストを実施するので、理解度の評価に役立つ。 ・講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、各授業において紹介した図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。 | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | 講義内容の参考資料として、次のホームページを参照してください。 <ol style="list-style-type: none"> 1 文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」 <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm ・小学校、中学校、高等学校 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・特別支援教育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm など 2 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト https://www.gakkohoken.jp | | | | |
| オフィス アワー | 科目責任者：池永理恵子（研究室：1711 メールアドレス：rieko-i@seirei.ac.jp） オフィスアワーは、原則、講義日の講義終了後から 18 時までとします。 講義日以外でも対応できますが、会議等で研究室を不在にする場合もありますので、事前にメールで予約を入れていただくと、確実に時間をとって対応できます。 メールでの相談は随時受け付けています。 | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | | |

| | |
|------------|--|
| 科目名 | 健康相談活動 |
| 科目責任者 | 池永 理恵子 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 5セメスター |
| DP番号と科目領域 | 教DP(2)教職 |
| 科目の位置付 | 養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。 |
| 科目概要 | 教科書及びその他の資料を活用しながら、学校現場で起こっている児童生徒の心身の健康問題を明らかにし、養護教諭としての健康相談活動の在り方について理解を深める。 健康相談活動の基本的な考え方とその進め方、支援体制づくりについて事例を通して学ぶ。 養護教諭の健康相談に生かせる理論や方法をグループ演習等で実践的に学び、具体的な養護活動の展開について考察する。 |
| 到達目標 | 養護教諭の職務の一つである健康相談について、身体的・心理学的・社会的な側面からアプローチする方法を学び、学校教育活動全体における健康相談の位置づけや重要性について学ぶ。 1. 児童生徒の健康課題が多様化している現状を踏まえ、養護教諭が行う健康相談活動・健康相談の変遷や理論、意義及び役割について理解することができる。 2. 養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かし、児童生徒に生じた心身の健康課題に則した健康相談活動のプロセスを理解して行動することができる。 3. あらゆる養護活動の実践を通して、心身の健康課題の発見・分析・判断し、健康問題の改善及び解決へと導く実践の基礎的理解ができる。 4. 多職種の関係者が連携して心身の健康問題の解決を図り、あらゆる機会を捉え、教育活動につなげることの理解ができる。 |
| 授業計画 | 第1回 オリエンテーション、健康相談の法的根拠 第2回 児童生徒の心身の健康課題の現状と背景 第3回 保健室の役割と健康相談の基本的な過程 第4回 健康相談に関わる社会資源と思春期心身症に関わる課題 第5回 性に関わる課題と対応 第7回 ゲーム依存と摂食障害への対応 第6回 健康相談の基本的な対応①守秘義務と情報管理 第8回 健康相談の基本的な対応②児童生徒の相談事例Ⅰ 第9回 健康相談の基本的な対応③児童生徒の相談事例Ⅱ 第10回 健康相談の基本的な対応④児童生徒の相談事例Ⅲ 第11回 健康相談の基本的な対応⑤保護者の相談事例Ⅳ 第12回 報告学校における虐待の早期発見と対応、連携 第13回 自殺予防とストレスコーピング 第14回 思春期心身症に関わる課題 発表 第15回 校内連携と記録 まとめ 第16回 試験 |
| アクティブラーニング | ・本授業は、グループワーク、ロールプレイディスカッション等演習を取り入れて実施する。 ・第14回では課題発表を行う |
| 授業内のICT活用 | ・対面授業においては、プレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。 |
| 評価方法 | リアクションペーパー・課題提出物 20% グループワーク・演習・ロールプレイングへの参加度 (演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示す。) 20% 筆記試験 60% 計 100% |

| | | | | | |
|-----------------|--|----|-----|-----|------|
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ・講義や課題についての質問や意見は講義中に質問、意見の時間を設ける。また、メールによる質問や意見には返信で回答、解説を行う。 ・リアクションペーパーは、授業内容を振り返りながら、授業の感想や学んだことの羅列ではなく、新たな気付き、理解を深めたことを書く。 <p>なお、記載内容で重要なものは、次回の授業で回答したり紹介する。</p> | | | | |
| 指定図書 | <p>和書</p> <p>書籍名：新版 養護教諭の行う健康相談養護教諭必携シリーズNo.2</p> <p>編著者：大谷尚子・鈴木美智子・森田光子</p> <p>出版社：東山書房</p> <p>ISBN：978-4-8278-1546-7</p> | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>1 コマあたりの事前・事後学修時間は原則40分とする。学修方法については、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容やテーマについて、事前に指示する指定図書（テキスト）の箇所を読んでから講義に臨むこと。 ・授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付するので、事前・事後学修に活用する。 ・授業後に、小テストまたはワークシート記入を実施すること（1～14回目）。授業範囲の中から簡単な小テストを実施するので、理解度の評価に役立つ。 ・講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、各授業において紹介した図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。 | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | <p>講義内容の参考資料として、次のホームページを参照してください。</p> <p>1 文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm <p>2 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト https://www.gakkohoken.jp/</p> | | | | |
| オフィスアワー | <p>科目責任者：池永理恵子（研究室、メールアドレスは、授業の中でお知らせします）</p> <p>オフィスアワーは、原則、講義日の講義終了後から18時までとします。</p> <p>講義日以外でも対応できますが、会議等で研究室を不在にする場合もありますので、事前にメールで予約を入れていただくと、確実に時間をとって対応できます。</p> <p>メールでの相談は随時受け付けています。</p> | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 特別支援教育概論 |
| 科目責任者 | 伊藤 信寿 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 選択 3 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | 教 DP (1) 教職 |
| 科目の位置付 | 教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。 |
| 科目概要 | 様々な理由により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学びます。 |
| 到達目標 | 1) 特別支援教育の制度について理解する。 2) 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 3) 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 4) 特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 伊藤信寿、櫻井典啓</p> <p>第1回 特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 伊藤 目標：特別支援教育とは何かについて理解する 事前学修：特殊教育と特別支援教育の違いについてまとめる</p> <p>第2回 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害の特性について 伊藤 目標：視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等の特性や支援について理解する 事前学修：脳性まひ、筋ジストロフィーの特性についてまとめる</p> <p>第3回 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の脳の発達特性と支援 櫻井 目標：発達障害や知的障害の脳機能の特性に合わせた支援の方法について理解する 事前学修：発達障害や知的障害の子どもへの支援で疑問に思うことをまとめる</p> <p>第4回 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の行動支援 櫻井 目標：ABC 分析の考え方に基づく効果的な行動支援の方法について理解する 事前学修：子どもの問題行動に対する支援の方法をまとめる</p> <p>第5回 特別支援教育の制度と合理的配慮の提供 櫻井 目標：特別支援教育の仕組みについて理解するとともに、ICF の視点から学校における合理的配慮の提供について理解する。 事前学修：合理的配慮とは何かまとめる</p> <p>第6回 特別支援教育における専門家の役割について 伊藤 目標：特別支援教育に関わる専門家とその役割について理解する 事前学修：どのような専門家がいるのかをまとめる</p> <p>第7回 教育、医療、福祉、家庭との連携について 伊藤 目標：医療や福祉の制度について学び、家庭を中心とした連携を理解する 事前学修：自分が考える理想の連携についてまとめる</p> <p>第8回 特別支援教育と学校づくり 伊藤 目標：特別支援教育における課題を考え、理想的な学校をつくる 事前学修：現時点において考えられる課題をまとめる</p> |

| | | | | |
|-------------------------|---|-----|-----|------|
| アクティブ ラーニング | Think-Pair-Share を行っています。 | | | |
| 授業内の ICT 活用 | PC を用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集に PC を使います | | | |
| 評価方法 | 小テスト (50%)、レポート (30%)、授業中の課題 (20%) レポート、課題はルーブリックを用いない | | | |
| 課題に対する フィード バック | 授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらい、質問や意見については授業中に回答する。 授業後半に確認テストを行い、グループ単位で復習を行う。不明な点がある場合、解説する。 | | | |
| 指定図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・ 事後学修 | 事前学修：事前に提示した課題を遂行する (30分程度) 事後学修：授業の配布資料と確認テストを復習する (10分) | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | なし | | | |
| オフィス アワー | 所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください | | | |
| 実務経験に 関する記述 | 本科目は特別支援教育巡回相談の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | |

| | | |
|---------------|--|---|
| 科目名 | 道徳・特別活動・総合的な学習の時間 | |
| 科目責任者 | 梅澤 収 | |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 5 Semester | |
| DP番号と科目領域 | 教DP(1)教職 | |
| 科目の位置付 | 教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。 | |
| 科目概要 | <p>(担当：米原 優)</p> <p>①道徳教育の意義、②日本における道徳教育の歴史、③『学習指導要領』における道徳教育の位置づけ、④道徳教育の基盤となる諸理論について概説する。また、いじめという現代社会において道徳教育が取り組むべき問題についても論じる。授業資料は事前にWebClassで配布。</p> <p>(担当：梅澤 収)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の意義・原理と主要な論点等について概説したうえで、指導計画の作成の考え方を養護教諭の立場から実践的に考察する。 ・特別活動の意義・目標や内容、そして主要な論点等を概説したうえで、養護教諭の立場から、特別活動の実践と課題について考察する。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育における道徳 (の時間) の意義や主要な論点などを理解し、児童・生徒の発達に即した道徳教育の実践について考察する。 2. 総合的な学習の時間の意義・原理と主要な論点等を理解するとともに、養護教諭の立場から指導計画の作成の考え方を実践的に考察する。 3. 特別活動の意義・目標や内容を理解するとともに、養護教諭の立場から、特別活動の実践と課題について考察する。 | |
| 授業計画 | <p>第1回：道徳とは何か</p> <p>第2回：道徳教育の歴史① 戦前の道徳教育とその問題点</p> <p>第3回：道徳教育の歴史② 戦後の道徳教育とその教材</p> <p>第4回：道徳教育の現状 『学習指導要領』における道徳教育の目標と内容</p> <p>第5回：道徳教育の理論① コールバーグの理論</p> <p>第6回：道徳教育の理論② リップマンの理論</p> <p>第7回：道徳教育の新たな視点① いじめ問題と道徳教育</p> <p>第8回：道徳教育の新たな視点② ネットいじめと道徳教育</p> <p>第9回：総合的な学習の時間とは？ (成り立ちと学習指導要領の位置)</p> <p>第10回：総合的な学習の時間の理論</p> <p>第11回：総合的な学習の指導計画の作成の考え方とその課題</p> <p>第12回：総合的な学習における養護教諭の役割と可能性</p> <p>第13回：特別活動とは？ (成り立ちと学習指導要領の位置)</p> <p>第14回：特別活動の理論と実践</p> <p>第15回：特別活動における養護教諭の役割と可能性</p> | <p>米原 優</p> <p>米原 優</p> <p>米原 優</p> <p>米原 優</p> <p>米原 優</p> <p>米原 優</p> <p>米原 優</p> <p>米原 優</p> <p>梅澤 収</p> <p>梅澤 収</p> <p>梅澤 収</p> <p>梅澤 収</p> <p>梅澤 収</p> <p>梅澤 収</p> <p>梅澤 収</p> |
| アクティブラーニング | ○ディスカッション、○グループワーク、○プレゼンテーション | |
| 授業内のICT活用 | なし | |
| 評価方法 | (担当：梅澤 収) 最終試験 (80%)、授業への参加度等 (20%) (担当：米原 優) 最終試験 (80%)、授業への参加度等 (20%) | |
| 課題に対するフィードバック | なし | |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | なし | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | なし | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 教育課程・方法論 |
| 科目責任者 | 菅井 篤 |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 4セメスター |
| DP番号と科目領域 | 教DP(1)教職 |
| 科目の位置付 | 教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。 |
| 科目概要 | 資質・能力の育成への転換が求められている昨今の教育の中で、学校教育現場は教師一人ひとりに学びの環境デザインが求められている時代になっている。本授業は、教育の課程、方法、技術の中に情報通信技術の活用を位置付けつつ、基礎的な理論と概念、実践法を学ぶとともに資質・能力を育成するための具体的な学習指導法の案出を行う。なお、教育の方法を通した対人支援を志す学生の動機づけをもとに本授業を展開する。 |
| 到達目標 | 1. 資質・能力の育成をめざして、教育の課程、及び方法、技術、情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることができる。 2. 効果的な学習指導・生徒指導の方法についての見通しを持つことができる。 |
| 授業計画 | 第1回：イントロダクション 資質・能力の育成と教育課程 第2回：学び続ける教員像 カリキュラムを編むことと省察的実践家としての教師 第3回：教育カリキュラムの基礎知識 第4回：授業デザインとパラダイム転換 第5回：教育課程の基礎知識 教育の目的と教育課程 第6回：学習指導要領と指導要録の歴史的変遷と展開 第7回：学習指導要領の方向性 具体的な学習指導 第8回：カリキュラム・マネジメントとは 第9回：カリキュラム・マネジメント 学習指導要領と逆向き設計 第10回：単元指導計画のデザイン 第11回：単元指導計画と単元目標 第12回：学力とは何か 指導と評価の一体化 第13回：主体的・対話的で深い学び アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善 第14回：情報機器を活用した授業 情報活用能力の育成 第15回：校務の情報化とデータの活用 |
| アクティブラーニング | 学生によるプレゼンテーション、グループディスカッション、グループワーク |
| 授業内のICT活用 | あり (インターネットにつながるPC、タブレット等を持参のこと) |
| 評価方法 | 1. 問題意識をもった授業参加、話し合い・発表など役割遂行等の授業関与度 30% 2. 毎時間の振り返り 30% 3. 提出物(レポート) 40% |
| 課題に対するフィードバック | 毎授業時、または次の回の授業内でコメントする。 |

| | | | | | |
|-----------------|---|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>【事前学修】 授業テーマについて関心をもち、自分なりの課題や考えをもって参加する。(2時間)</p> <p>【事後学修】 資料を参考に授業内容への理解をさらに深めるとともに、自分自身のあり方を見つめる。(2時間)</p> | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 詳細は初回の授業時に提示する。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は、児童相談所職員・小学校教諭の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 生徒指導の理論と方法 |
| 科目責任者 | 内崎 哲郎 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 選択 5 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | 教 DP (1) 教職 |
| 科目の位置付 | 教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。 |
| 科目概要 | 多様化する児童生徒の状況、家庭の状況、社会の状況に対する理解を深め、生徒指導の理論を理解するとともに、具体的事例を通して生徒指導の実践力を身に付ける。そのために生徒指導についての理論的な理解を図り、実践的な技術の習得を目指す。また、教職員や関係機関と連携しながら、組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養の涵養を目指すことを主目的とする。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の意義や原理を理解できる。 2. 児童生徒の主体性と自己有用感を育むために必要な生徒指導体制についての視点を理解できる。 3. 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携の在り方を理解できる。 |
| 授業計画 | <p>第 1 回：生徒指導の意義と原理</p> <p>第 2 回：小学校の生徒指導</p> <p>第 3 回：児童理解</p> <p>第 4 回：問題行動</p> <p>第 5 回：いじめ</p> <p>第 6 回：不登校</p> <p>第 7 回：生徒指導に関する法や制度</p> <p>第 8 回：「チーム学校」を創る</p> |
| アクティブラーニング | 講義中心の授業であるが、リアクションペーパーの作成を通して、表現志向で、思考力を活性化させるため、アクティブラーニングの 3 つの柱である「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識したレポート課題を出す。 |
| 授業内の ICT 活用 | ・授業の進行は、プロジェクターを活用して行う。 |
| 評価方法 | <p>40%：小レポートとしてのリアクションペーパー（毎時間の授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想、考察等を書く。）</p> <p>10%：授業への出席状況や取組姿勢</p> <p>50%：定期試験（ルーブリックを用いて評価する。）</p> |
| 課題に対するフィードバック | <p>・リアクションペーパーの開設・コメントは、必要に応じて行う。</p> <p>・定期試験（生徒指導の意義や目的について理解し、組織的に生徒指導を推進していくための知識を身に付けたか、ルーブリックにしたがって評価する。）</p> |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | なし | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | | |
|---------------|---|--|
| 科目名 | 教育相談の理論と方法 | |
| 科目責任者 | 長峰 伸治 | |
| 単位数他 | 2単位 (30時間) 選択 4セメスター | |
| DP番号と科目領域 | 教DP(1)教職 | |
| 科目の位置付 | 教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。 | |
| 科目概要 | 学校教育場面で児童生徒の心の問題に対応する上で必要なカウンセリング(傾聴)技法についてロールプレイなどの体験学習を行う。また、不登校(保健室登校)、心身症、いじめ、児童虐待などの問題に対する知識と、実際の学校での援助のあり方(個別及び連携)について事例検討を通して理解を深める。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談の意義、及び、学校教育場面での児童生徒の心理的問題(不登校、保健室登校、心身症、いじめ、児童虐待など)について理解する。 2. 1の心理的問題に対して養護教諭が行う支援、特に、カウンセリング技法、校内支援体制作り、専門機関との連携の仕方について、ロールプレイや事例検討を通して理解する。 | |
| 授業計画 | 第1回：学校教育における教育相談の意義 第2回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法1 ：傾聴技法の基本 第3回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法2 ：傾聴技法のロールプレイ 第4回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法3 ：カウンセリングの実際 第5回：教育相談場面での児童生徒対応のロールプレイ 第6回：カウンセリングのコミュニケーションについての事例検討 第7回：いじめに関する理解とその対応1：講義 第8回：いじめに関する理解とその対応2：演習 第9回：不登校児童生徒の理解と支援 第10回：児童虐待の理解と支援1：基本的事項の理解 第11回：児童虐待の理解と支援2：学校における支援 第12回：児童虐待の理解と支援3：事例検討 第13回：模擬事例検討(グループワーク)1：不登校の事例 第14回：模擬事例検討(グループワーク)2：保健室登校の事例 第15回：模擬事例検討(グループワーク)3：心身症の事例 | 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 大須賀優子先生 大須賀優子先生 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 |
| アクティブラーニング | ・カウンセリング的コミュニケーション・態度に関するロールプレイを行う。 ・教育相談に関わる事例検討をグループで検討して、その内容を全体で共有する。 | |
| 授業内のICT活用 | なし | |
| 評価方法 | 授業への取り組み状況(ロールプレイの実施、振り返りシートへの記入、グループでの事例検討・発表など)50%、事例課題レポート(2回)20%、最終レポート30% | |
| 課題に対するフィードバック | ・ロールプレイの振り返りをシートに記入したものに対して、コメントする。 ・グループで行った事例検討の発表に対して、その場でフィードバックをする。 | |

| | | | | | |
|-----------------|---|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。授業中に実施したロールプレイや事例検討に関して、配布された資料を基に毎回復習を行う。事後課題に取り組む。授業内容について疑問やさらに詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。</p> | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | <p>長峰伸治（看護学部）1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。</p> | | | | |
| 実務経験に関する記述 | <p>本科目は臨床心理士の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p> | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 学校体験活動 |
| 科目責任者 | 長峰 伸治 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 選択 3 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | 教 DP (3) 教職 |
| 科目の位置付 | (1) と (2) を活用して児童生徒の健康問題に対応できる実践力を身につけている。 |
| 科目概要 | 学校や教員の仕事について知り、学校教員を目指す上での目的意識を高めるために、実際に学校現場に入って、教育活動の補助や児童生徒との関わりなどの体験活動を行う。 |
| 到達目標 | 1. 学校現場に入って教育活動の補助等、教職の実際を体験することによって、学校・教員・児童生徒についての理解を深める。 2. 学校での体験活動を通して、自らの学校教員としての適性について考え、教職に進む上での自らの課題や目標を見つける。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 長峰伸治、池永理恵子、菅井 篤</p> <p>○学校体験活動に関する事前指導 (学内)</p> <p>◎聖隷クリストファー中・高等学校にて体験活動 (2 年次 8, 9 月に実施予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話(中・高等学校の管理職、養護教諭、生徒指導主任、小学校副校長等) ・一日保健室体験 <p>○学校体験活動の振り返りと事後指導 (学内)</p> |
| アクティブラーニング | 学校現場において体験活動を行う。 |
| 授業内の ICT 活用 | 体験活動の振り返りの発表では、プロジェクターを利用してプレゼンテーションを行う場合がある。 |
| 評価方法 | 各回の体験活動への取り組み態度、報告・感想 80%、最終レポート (体験活動の振り返り) 20% |
| 課題に対するフィードバック | 各回の体験活動についての報告に対して、教員がフィードバックを行う。 |

| | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|
| 指定図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 参考図書 | なし | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | |
| 事前・事後学修 | 各回の体験活動ごとに報告を記述して、自分なりの振り返りを行う。少なくとも40分以上は行う。一通り終えた後、体験活動の振り返りについてのレポートを作成すること(最低80分)。 | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | |
| オフィスアワー | <p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp</p> <p>池永理恵子(看護学部) 1711 研究室 rieko-i@seirei.ac.jp</p> <p>対応できる時間については授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p> | | | |
| 実務経験に関する記述 | なし | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | |

| | |
|------------|---|
| 科目名 | 養護実習事前事後指導 |
| 科目責任者 | 池永 理恵子 |
| 単位数他 | 1 単位 (15 時間) 選択 5・6・7 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | 教 DP (1) 教職 |
| 科目の位置付 | 教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。 |
| 科目概要 | 事前指導においては、養護実習に際して必要な基本的事項に関する指導および準備活動、事後指導においては、養護実習の取り組みについての振り返りを実施する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育職員としての養護教諭におけるの自覚や態度を確立する。 2. 事前指導では、養護実習の意義や目的、内容をよく理解し、実習参加にあたっての基本的な知識や態度等を身につける。 3. 事後指導では、学校現場における様々な実習経験をもとに、自らの実践を総括し、実習の成果と課題を明らかにする。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 池永理恵子、長峰伸治、菅井 篤</p> <p>◎養護実習Ⅰ(4月実施)について</p> <p><実習前></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、実習の準備、心構え ・健康診断の各計測についての実施方法、留意事項の講義と演習 ・学校保健管理ソフトの使い方の演習(ゲストスピーカー:ソフト開発会社職員) ・救命講習受講(3時間コース) ・確認テスト <p><実習後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返りによる学びの共有 <p>◎養護実習Ⅱ(9月実施)について</p> <p><実習前></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に関わる個人面接(講義外) ・養護実習Ⅱ概要、事前準備、学校での服務規程、守秘義務と健康管理等 ・実習目標と学校概要発表 ・実習記録の書き方 ・指導案作成と保健指導の発表 ・フィジカルアセスメントの演習(腹痛、頭痛、鼻出血、熱中症、骨折・捻挫、外傷の処置) ・バイタルサインの測定と記録 ・感染症対応(嘔吐時の対応と消毒) ・児童生徒対応についての演習(観察と基本的対応、指導教員への報告連絡) ・環境衛生検査(水質検査、熱中症予防のための暑さ指数の測定、照度測定の目的と手順) ・実習における挨拶と報告(挨拶の仕方、1週目の報告と手順、風水害、緊急時等の対応) ・教員の学校訪問と連絡 ・お礼の手紙の書き方 ・確認テスト <p><実習後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習のまとめ(発表会) 1年または2年生の養護教諭免許取得希望者が参加できるよう、調整 <p>※実施日程などの詳細についてはその都度連絡する</p> |

| | | | | | |
|-------------------------|---|----|-----|-----|------|
| アクティブ ラーニング | 本科目は実習科目。 演習や実技を主として行う。 | | | | |
| 授業内の ICT 活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・養護実習 I の事前指導において、学校保健管理ソフトの使い方について、ソフト開発者による指導のもと、実際にパソコンを使って演習する。 ・実習の振り返りの発表会では、プロジェクターを利用してプレゼンテーションを行う予定。 | | | | |
| 評価方法 | 授業への取り組み態度 40%、振り返りのレポート 30%、確認テスト 30% | | | | |
| 課題に対する フィード バック | ・事後指導における発表や個人の振り返りの内容に対してフィードバックする。 | | | | |
| 指定図書 | <p>和書</p> <p>書籍名：主体的に学ぶ養護実習ガイドブック—教育現場で必要な力を身につけるために—</p> <p>著者名：編集・執筆代表 岡本啓子・中島敦子・西牧真里</p> <p>ISBN コード： ISBN978-4-86371-399-4 C3037</p> <p>出版社：ジアース教育新社</p> | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| | 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN |
| | | | | | |
| 事前・ 事後学修 | 養護実習実施要項をよく読んでおくこと。また、それぞれの指導を受けた後は、復習や振り返りをしっかり行うこと。少なくとも 40 分以上は行う。 | | | | |
| オープンエ デュケーシ ョンの活用 | 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト https://www.gakkohoken.jp | | | | |
| オフィス アワー | <p>池永理恵子(看護学部) (1711 研究室、rieko-i@seirei.ac.jp)</p> <p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp</p> <p>予定教員(看護学部) (研究室)</p> <p>対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p> | | | | |
| 実務経験に 関する記述 | なし | | | | |
| メディア 授業の実施 について | なし | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 科目名 | 養護実習 I |
| 科目責任者 | 長峰 伸治 |
| 単位数他 | 1 単位 (45 時間) 選択 7 セメスター |
| DP 番号と科目領域 | 教 DP (2) 教職 |
| 科目の位置付 | 養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。 |
| 科目概要 | 学校での健康診断の補助または生徒や教職員との関わりを通して、学校保健活動や養護教諭の職務に関する理解を深め、教育職員としての自覚や態度を確立する。 |
| 到達目標 | 1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。 2. 学校における教育計画やその運営、養護教諭・保健室・学校保健の位置づけと意義、生徒の健康や生活実態を、実際の健康診断の補助を行うことを通して理解する。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 長峰伸治、池永理恵子、菅井 篤</p> <p><実習時期・期間・場所> 4 年次 4～5 月の中の 1 週間 聖隷クリストファー中・高等学校 ※健康診断補助を中心とした実習</p> <p>※詳細については養護実習要項参照のこと。また、事前指導においても説明する。</p> |
| アクティブラーニング | 本科目は実習科目。 |
| 授業内の ICT 活用 | なし |
| 評価方法 | 実習に関する記録、実習後のレポート、大学での事後指導などを総合して、最終的な成績評価を行う。 |
| 課題に対するフィードバック | ・事後指導において実習の評価についてフィードバックする。 |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>実習前は事前指導で学んだことを毎回しっかりおさえて実習に備える。実習後は記録物、ポートフォリオを見直して、自分なりの振り返りをして、事後指導につなげる。少なくとも40分以上は行う。</p> | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | <p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 池永理恵子(看護学部) 1711 研究室 rieko-i@seirei.ac.jp 対応できる時間については授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p> | | | | |
| 実務経験に関する記述 | なし | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 養護実習Ⅱ |
| 科目責任者 | 長峰 伸治 |
| 単位数他 | 3単位（135時間） 選択 5セメスター |
| DP番号と科目領域 | 教DP(2)教職 |
| 科目の位置付 | 養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。 |
| 科目概要 | 学校現場での実務体験または児童生徒や教職員との関わりを通して、教育全般にわたる基本的理解や養護教諭の職務に関する理解を深め、教育職員としての自覚や態度を確立する。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。 2. 学校における教育計画やその運営（学校の組織、教育目標、教育課程）、学校における養護教諭・保健室・学校保健の位置づけと意義、学校保健活動、家庭や地域との連携のあり方、児童の健康や生活実態を理解する。 3. 学校の教育計画や児童生徒の健康および生活実態を理解するとともに、保健室経営や養護活動など養護教諭の職務に関する基本的な実践的能力を身につける。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名>長峰伸治、池永理恵子、菅井 篤</p> <p><実習時期・期間・場所> 3年次9月（3週間） 学生自らが依頼して許可を得た学校</p> <p>※詳細については養護実習要項参照のこと。また、事前指導においても説明する。</p> |
| アクティブラーニング | 本科目は実習科目。 |
| 授業内のICT活用 | なし。 |
| 評価方法 | 養護実習の評価は、「実習校による評価」と「大学による評価」とを総合して行う。実習中の学生の態度・理解・行動に関する「実習校による評価」を参考にしながら、養護実習に関する記録、実習後のレポート、大学での事後指導などを総合して、最終的な成績評価を行う。 |
| 課題に対するフィードバック | ・事後指導において実習の評価についてフィードバックする。 |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <p>実習前は事前指導で学んだことを毎回しっかりおさえて実習に備える。実習後は記録物、ポートフォリオを見直して、自分なりの振り返りをして、事後指導や教職実践演習につなげる。少なくとも40分以上は行う。</p> | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | なし | | | | |
| オフィスアワー | <p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 池永理恵子(看護学部) 1711 研究室 rieko-i@seirei.ac.jp 対応できる時間については授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p> | | | | |
| 実務経験に関する記述 | なし | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 科目名 | 教職実践演習（養護教諭） |
| 科目責任者 | 池永 理恵子 |
| 単位数他 | 2単位（30時間） 選択 8セメスター |
| DP番号と科目領域 | 教DP(2)教職 |
| 科目の位置付 | 養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。 |
| 科目概要 | 養護実習で学び体験したことを総合的に学習しながら、児童生徒の健康ニーズに対応できる養護教諭に必要な基礎的な実践力を身に付ける。 |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭としての使命感や責任感に基づいた確かな実践力を身に付ける。 2. 養護実習での体験を振り返りながら、養護教諭として必要な基本的な資質（教員として使命感・責任感・教育的愛情、対人関係能力、児童生徒への理解・支援、学校保健活動、保健室経営、保健教育など）に関する自らの課題を自覚する。 3. 養護教諭に求められる多職種連携についての基本的連携技術を対応困難事例を通して習得する。 |
| 授業計画 | <p><担当教員名> 池永理恵子、長峰伸治、菅井 篤</p> <p>第1回 ガイダンス、教員に求められる資質能力、履修カルテ説明 第2回 子どもの発達課題の現状と教員に求められる資質能力 第3回 養護実習の振り返り：応急処置と児童生徒対応①（演習とディスカッション） 第4回 養護実習の振り返り：応急処置と児童生徒対応②（演習とディスカッション） 第5回 保健教育の振り返り（実習で実践した保健教育発表①） 第6回 保健教育の振り返り（実習で実践した保健教育発表②） 第7回 学校保健における多職種との連携（学校看護師の役割と実際）：ゲストスピーカー 第8回 養護教諭に必要な看護能力①：学校における応急処置技術 第9回 養護教諭に必要な看護能力②：学校で活用する健康診断技術 第10回 養護教諭に必要な看護能力③：学校における疾患を持つ子どものケア 第11回 発達障害児童生徒の問題行動への支援について ゲストスピーカー：深澤裕子先生 第12回 スクールソーシャルワーカーによるレクチャー ゲストスピーカー：夏目由起子先生 第13回 特別支援教育と性教育について ゲストスピーカー：津田聡子先生 第14回 学校現場体験（静岡県立西部特別支援学校）1：参観 第15回 学校現場体験（静岡県立西部特別支援学校）2：校長・養護教諭講話</p> |
| アクティブラーニング | <ul style="list-style-type: none"> ・第3、4回はグループワークを行う。その際は、実習記録を用いて振り返りを行う。 ・第5、6回は模擬授業の発表を行う。その際、実際に使用した保健教材を用いて授業を行う。 ・第14～15回はフィールドワークを行う。 |
| 授業内のICT活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・対面授業においては、プレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。 |
| 評価方法 | <p>授業への取り組み態度（授業中の態度だけでなく、本科目前後に実施するルーブリックによる自己評価とそれを用いた面談も評価対象になる） 50%</p> <p>事前・事後の課題（レポートなど） 50%</p> |
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後に出される課題について授業中に全体の場でフィードバックする。 ・履修カルテ（ルーブリック評価）を用いて面談を行い、これまでの学修の振り返りを行う。 |

| | | | | | |
|-----------------|--|-----|-----|------|--|
| 指定図書 | なし 教材はその都度プリント等配布する。 | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 参考図書 | なし | | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | 出版年 | ISBN | |
| | | | | | |
| 事前・事後学修 | <ul style="list-style-type: none"> ・養護実習の振り返りをしながら事前学習に積極的に取り組む。 ・事後においては本授業で行ったことを養護実習での自らの課題に照らし合わせ、履修カルテに基づいて自分なりの総括を行う。少なくとも40分以上は行う。 | | | | |
| オープンエデュケーションの活用 | <p>講義内容の参考資料として、次のホームページを参照する。</p> <p>1 文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm ・小学校、中学校、高等学校 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・特別支援教育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm など <p>2 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト https://www.gakkohoken.jp/</p> <p>3 学校現場体験先ホームページ http://www.edu.pref.shizuoka.jp/seibu-sh/home.nsf/</p> | | | | |
| オフィスアワー | <p>池永理恵子(看護学部) (1711 研究室、rieko-i@seirei.ac.jp)</p> <p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp</p> <p>新任教員(看護学部)</p> <p>対応できる時間については初回授業時に提示します。</p> <p>必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p> | | | | |
| 実務経験に関する記述 | 本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。 | | | | |
| メディア授業の実施について | なし | | | | |